



国立大学法人

鹿児島大学概要

2019

国立大学法人
鹿児島大学概要
2019

はじめに

- 02… 学長からのメッセージ
- 03… 大学の基本的な目標
- 04… 大学憲章
- 05… 学生憲章
- 06… 教育目標／生涯学習憲章
- 07… ポリシー
- 09… 男女共同参画基本理念
- 10… 沿革

組 織

- 13… 組織図
- 14… 学術研究院

学部・大学院等

- 15… 学部
- 18… 大学院
- 21… 総合教育機構
- 23… 研究推進機構
- 25… 南九州・南西諸島域共創機構
- 27… 教育学部附属学校
- 28… 鹿児島大学病院
- 29… 附属動物病院／附属図書館
- 30… 附属図書館／教育関係共同利用拠点
- 31… ヒトレトロウイルス学共同研究センター
- 32… 学内共同教育研究施設
- 33… 学内共同教育研究施設／海外拠点
- 34… 海外拠点／奄美群島拠点

教育・研究・社会貢献活動

- 35… 本学の特徴ある研究
- 38… かごしまルネッサンスアカデミー／
大学地域コンソーシアム／COC+事業

キャンパス

- 39… 支援センター等
- 40… 地域交流施設ほか
- 44… 位置図・交通アクセス
- 45… 地区別建物等配置図
- 49… 所在地一覧

資料編

組 織

- 51… 役職員等
- 54… 役職員数

学 生 等

- 56… 入学定員・現員数
- 57… 附属学校入学定員・現員数
- 58… 入学状況
- 60… 卒業・修了数／就職状況／学位授与状況
- 61… 奨学生状況／経済支援制度

教育・研究・社会貢献活動

- 62… リポトリ／学術刊行物
- 63… 産学官連携活動
- 64… 公開講座等

国際交流

- 65… 学術国際交流協定締結状況
- 67… 海外研修・留学等支援
- 70… 研究者交流状況／国際共同研究実施件数
- 71… 外国人留学生

財 務

- 73… 収入・支出決算額／予算
- 74… 外部資金受入状況

学部・大学院等

- 76… 鹿児島大学病院・附属動物病院実績
- 77… 附属図書館実績

キャンパス

- 78… 土地・建物・船舶

学 年 暦

学 期	
前 期	……4月1日～9月30日
後 期	…10月1日～3月31日
入 学 式	……………4月5日
休 業 日	
春 季 休 業	……4月1日～4月7日
夏 季 休 業	…8月10日～9月30日
冬 季 休 業	…12月27日～1月5日
鹿児島大学記念日	……………11月15日
卒 業 式・修 了 式	……………3月25日

歴 代 学 長

氏 名	任 期	備考
緒 方 健三郎	昭和24年 5月31日～昭和31年 7月31日	
福 田 得 志	昭和31年 8月 1日～昭和35年 7月31日	
〃	昭和35年 8月 1日～昭和39年 7月31日	
〃	昭和39年 8月 1日～昭和43年 7月31日	
町 野 碩 夫	昭和43年 8月 1日～昭和44年10月21日	
中 村 未 男	昭和44年10月21日～昭和46年 1月11日	※
〃	昭和46年 1月12日～昭和50年 1月11日	
蟹 江 松 雄	昭和50年 1月12日～昭和54年 1月11日	
〃	昭和54年 1月12日～昭和56年 1月11日	
石 神 兼 文	昭和56年 1月12日～昭和60年 1月11日	
〃	昭和60年 1月12日～昭和62年 1月11日	
井 形 昭 弘	昭和62年1月12日～平成 3年1月11日	
〃	平成 3年1月12日～平成 5年1月11日	
早 坂 祥 三	平成 5年1月12日～平成 9年1月11日	
田 中 弘 允	平成 9年1月12日～平成13年1月11日	
〃	平成13年1月12日～平成15年1月11日	
永 田 行 博	平成15年1月12日～平成19年1月11日	
吉 田 浩 己	平成19年1月12日～平成22年1月11日	
〃	平成22年1月12日～平成25年3月31日	
前 田 芳 實	平成25年4月 1日～平成28年3月31日	
〃	平成28年4月 1日～平成31年3月31日	
佐 野 輝	平成31年4月 1日～	

※学長事務取扱

「南九州から世界に羽ばたくグローバル教育研究拠点・鹿児島大学」を目指して

鹿児島大学は、9つの学部と9つの大学院研究科を擁し、約9,000名の学部学生と約2,000名の大学院生（うち留学生約300名）が在籍しています。これまでに10万名を越える卒業生を輩出し、国内はもとより世界の各地で、人類の平和と繁栄ならびに福祉の向上のために大きな足跡を残してきました。鹿児島大学の起源は、1773年に設立された藩学造士館にさかのぼりますが、明治以降に設立された第七高等学校造士館をはじめ各種の高等専門学校を統合し、昭和24年に新制国立鹿児島大学として発足し、今年で70周年の節目を迎えます。

さて、私は、2019年度からの4年間の学長としての任期におきまして、「教育」、「研究」、「社会貢献」、「診療」、「管理運営」における以下の5つの基本目標に取り組んでいこうと考えています。

「教育」におきましては、グローバルな視点を有する地域人材、すなわちグローバル人材の養成に向けた教育改革に取り組みます。国際バカロレア入試や外部英語入試を活用し、学部・大学院教育における英語教育の充実化を図り、教育の国際標準化に努めます。稲盛和夫基金により設立された鹿児島大学21世紀版薩摩藩英国留学生派遣事業「UCL稲盛留学生」制度の運営の充実を図り、文部科学省「大学の世界展開力強化事業」での「米国から鹿児島、そしてアジアへー多極化時代の三極連携プログラム」の運営を開始します。

「研究」に関しましては、大学の強みと特色を活かした学術研究の推進を行います。稲盛和夫基金、鹿大「進取の精神」支援基金をはじめとした基金の活用で、若手や競争的資金の獲得が難しい基礎研究や人文社会科学分野などへも支援体制を作り、地域特有の課題研究を推進するとともに、先進的で卓越した研究をも促進します。

「社会貢献」に関しましては、南九州・南西諸島を中心とした地域が抱える課題に対処するよう考えます。地域ニーズに応じた社会人教育や地域との定期的協議を行うなど連携の強化を行い、産官学の連携を密にすることを図ります。

「診療」に関しましては、附属病院を有する大学としての機能として、先端的基础的研究から橋渡し研究の結果としての先進的医療を実践し、地域性を生かした質の高い医療を行うとともに次世代の教育に努めます。

「管理運営」に関しましては、学長戦略室を含むIR体制や監査機能を充実させて、自らをよく知り、評価結果を改革に生かします。

このような活動を通して、大学の再生を図り、その存在が国民に明確に認識され、地域社会ならびに国際社会に貢献し、本学の全構成員、卒業生、地域が誇りとする鹿児島大学を目指しています。



さの あきら
学長 佐野 輝

1985年(昭和60年)
愛媛大学大学院医学研究科修了
2013年(平成25年)
鹿児島大学医学部長
2017年(平成29年)
鹿児島大学
大学院医歯学総合研究科長
2019年(平成31年)
鹿児島大学学長

専門分野
精神神経医学
学位
医学博士

国立大学法人鹿児島大学の基本的な目標 第3期中期目標(平成28～令和3年度)

鹿児島大学は、学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、アジア・太平洋の中の鹿児島という地理的特性を踏まえ、地域とともに社会の発展に貢献する知の拠点として、「進取の気風にあふれる総合大学」を目指しています。

第3期中期目標・中期計画期間においては、南九州及び南西諸島域の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化し、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を有する人材を育成するとともに、18歳人口減少問題やグローバル化を視野に入れ、「進取の気風にあふれる総合大学」に相応しい大学改革を実施するため、以下の基本目標に取り組みます。

1. グローバルな視点を有する地域人材育成の強化

地域特性を活かした教育及び国際化に対応した教育を推進するとともに、高大接続の見直し、アクティブ・ラーニングの強化、教育の内部質保証システムの整備、学生支援の拡充等の教育改革に取り組みます。

2. 大学の強みと特色を活かした学術研究の推進

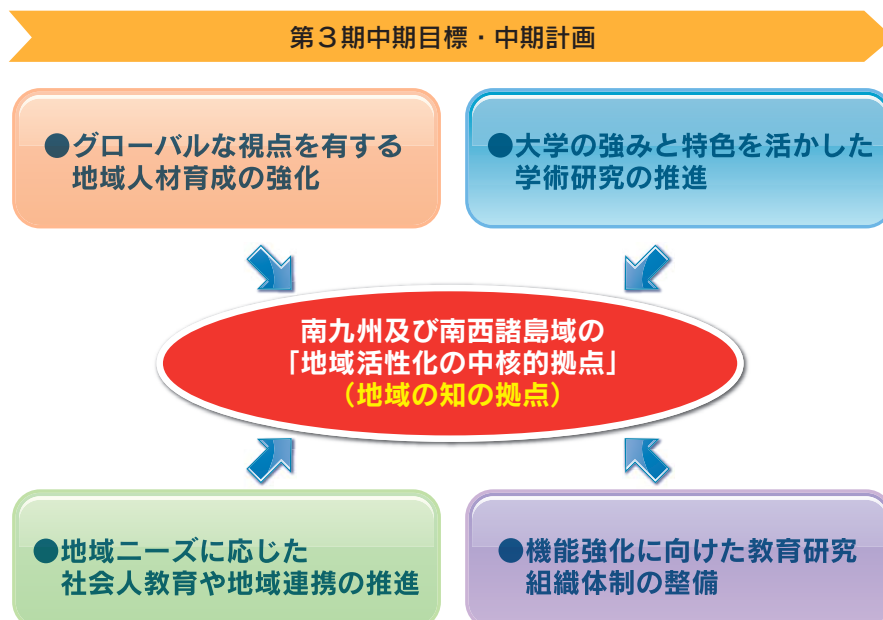
地域特有の課題研究「島嶼・環境、食と健康、水、エネルギー」及び防災研究を推進するとともに、先進的な感染制御や実験動物モデル等の卓越した研究を促進します。

3. 地域ニーズに応じた社会人教育や地域連携の推進

知的・文化的な生涯学習の拠点として、地域・産業界との連携を強化し、リカレント教育の拡充や地域イノベーションの創出等、「南九州・南西諸島域共創機構」を中心に社会貢献の取組を推進します。

4. 機能強化に向けた教育研究組織体制の整備

学長のリーダーシップの下、大学のガバナンス改革を推進するとともに、学術研究院制度を効果的に活用し、地域の総合大学としての特色を活かした学部等の再編や奄美群島拠点の拡充等、組織の見直しや学内資源の再配分に全学的な観点から取り組みます。



鹿児島大学憲章

鹿児島大学は、日本列島の南に位置し、アジアの諸地域に開かれ、海と火山と島々からなる豊かな自然環境に恵まれた地にある。この地は、我が国の変革と近代化を推進する過程で、多くの困難に果敢に挑戦する人材を育成してきた。このような地理的特性と教育的伝統を踏まえ、鹿児島大学は、学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざす。

教 育

鹿児島大学は、学生の潜在能力の発見と適性の開花に努め、幅広い教養教育と高度な専門教育を行うとともに、地域の特性を活かした進取の気風を養う。

鹿児島大学は、真理を愛し、高い倫理性と社会性を備え、向上心を持って自ら困難に立ち向かい、国際社会で活躍しうる人材を育成する。

研 究

鹿児島大学は、個々の研究を重視するとともに、種々の学問分野における優れた研究者の連携により、21世紀を先導する研究者を育成する。

鹿児島大学は、地域の要請に応える研究を展開するとともに、普遍性を求める研究活動を推進し、世界水準の研究拠点をめざす。

社会貢献

鹿児島大学は、南九州を中心とする地域の産業の振興、医療と福祉の充実、環境の保全、教育・文化の向上など、地域社会の発展と活性化に貢献する。

鹿児島大学は、アジアや太平洋諸国との連携を深め、研究者や学生の双方向交流および国際共同研究・教育を推進し、人類の福祉、世界平和の維持、地球環境の保全に貢献する。

大学運営

鹿児島大学は、学長のリーダーシップのもと、全構成員が運営に責任をもって参画することにより、教育研究環境の充実を図る。

鹿児島大学は、大学の自治を礎とし、常に自己点検・評価を行うとともに、外部からの意見を積極的に反映させ、透明性の高い公正な大学運営を行うことにより、社会への責任を果たす。

※「進取の精神」とは、自ら困難に立ち向かう態度である。

平成19年11月15日制定
(第58回鹿児島大学開学記念日)



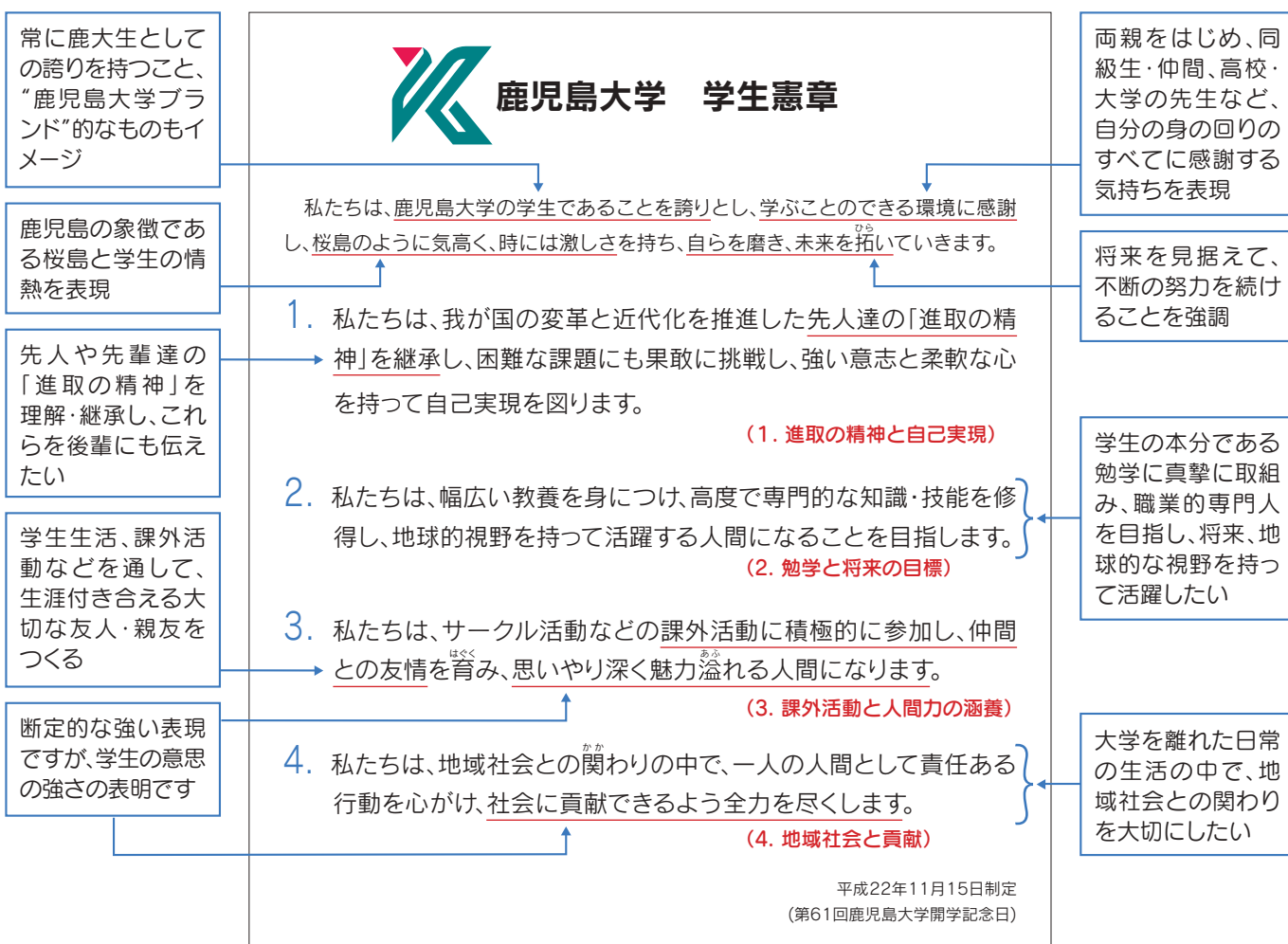
鹿児島大学 学生憲章

私たちは、鹿児島大学の学生であることを誇りとし、学ぶことのできる環境に感謝し、桜島のように気高く、時には激しさを持ち、自らを磨き、未来を拓いていきます。

1. 私たちは、我が国の変革と近代化を推進した先人達の「進取の精神」を継承し、困難な課題にも果敢に挑戦し、強い意志と柔軟な心を持って自己実現を図ります。
2. 私たちは、幅広い教養を身につけ、高度で専門的な知識・技能を修得し、地球的視野を持って活躍する人間になることを目指します。
3. 私たちは、サークル活動などの課外活動に積極的に参加し、仲間との友情を育み、思いやり深く魅力溢れる人間になります。
4. 私たちは、地域社会との関わりの中で、一人の人間として責任ある行動を心がけ、社会に貢献できるよう全力を尽くします。

平成22年11月15日制定
(第61回鹿児島大学開学記念日)

〈学生憲章の解説〉



鹿児島大学教育目標

鹿児島大学は、進取の気風にあふれる総合大学として、学生の潜在能力の発見と適性の開花に努め、自主自律と進取の精神を有する人材の育成を目指します。そのために次の教育目標を掲げます。

1. 幅広い教養と高度な専門的知識・技能を身につけ、諸課題を発見・探究・解決する能力を育みます。
2. 豊かな人間性と倫理観を身につけ、向上心をもって自ら困難に立ちむかう態度を養います。
3. 地域における活動に積極的に関わり、社会の発展に貢献できる行動力を養います。
4. グローバルな視野をもち、国際社会の発展に貢献できる実践的な能力を育みます。

平成23年12月15日制定

鹿児島大学生涯学習憲章

鹿児島大学は、大学憲章の理念に沿って、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざしており、大学と地域をつなぐ営みとして生涯学習を推進します。

鹿児島大学は、古来より海上交通の要衝として多彩な文化を集積し、世界で固有の多様な自然と共生してきた地域に学び、成熟社会における新たな社会像、地域像、大学像を獲得できる生涯学習に全学で取り組みます。

地域のもつ知は大学及び大学人に新たな知的発見をもたらす宝庫であり、知的拠点としての鹿児島大学がめざす生涯学習とは、地域に生きる人びとと大学人がともに学び教え合う関係から知の循環を促し相互に成長していくことです。

鹿児島大学は、全構成員が生涯学習の理念を共有し、地域と世界を結ぶ視野をもって、生涯学習を組織的に実践するために、次の方針を掲げます。

1. 青年期の教育とともに、成人を対象とした教育に取り組み、生涯にわたる学習の機会を提供します。
2. 地域の発展の基礎となる多様な教育機会を用意し、激動の時代を生きる地域の人びとが、ともに支え合い、暮らしていくことに貢献します。
3. 大学の専門知と科学知が、地域の生活や経験と向きあうことを大切にします。そのことを通じて学問を鍛え直し、新しい社会を展望できる知を創造し、広く地域に還元していきます。
4. 鹿児島大学学生憲章の実現に向けて、学びの主体性を支え、進取の精神を養い、課題解決能力や実践力を育むため、学生が大学で修める学問を基礎に、地域とともに成長できる機会を保障します。
5. 柔軟で闊達な組織づくりに努め、大学と地域の相互理解を深める機会を創出し、生涯学習の推進を地域とともに発展する大学づくりの柱と位置づけます。

平成25年9月19日制定

鹿児島大学学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

大 学

鹿児島大学は、大学憲章及び教育目標に鑑み、地域の活性化及び国際社会の発展に貢献していくため、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士の学位を授与します。

1. 社会に貢献するために必要な幅広い教養と高度な専門的知識、及びこれらに基づいた論理的思考力
2. 豊かな人間性と倫理観を身につけ、多様なコミュニケーションができる能力
3. 自ら進んで様々な社会活動に参加し、省察し、その上で、将来の課題を発見し、その探究・解決を志向し続けられる実践力

大学院

鹿児島大学大学院は、教育目標に鑑み、以下に示す方針に基づいて、学位を授与します。

■修士(博士前期)課程

修士(博士前期)課程においては、以下に挙げる能力を身につけ、所定の単位を修得し、審査に合格した者に修士の学位を授与します。

- 研究倫理を基盤とした専門分野における基礎的な研究能力
- 高度な学識と専門性を活かして地域と国際社会の発展に貢献できる能力

■博士(博士後期)課程

博士(博士後期)課程においては、以下に挙げる能力を身につけ、所定の単位を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与します。

- 研究倫理を基盤とした専門分野における独創的な研究能力
- 専門分野で指導的な役割を担い、地域と国際社会の発展に貢献できる能力

■専門職学位課程

専門職学位課程においては、以下に挙げる能力を身につけ、所定の単位を修得した者に専門職学位を授与します。

- 高度専門職業人として求められる責任感、職業倫理観、及び実務能力
- 専門分野で指導的な役割を担うことのできる能力

鹿児島大学教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

大 学

鹿児島大学は、学位授与の方針に掲げる能力を備えた人材を育成するために、以下に示す方針に基づいて、初年次から卒業まで系統性のある教育課程(カリキュラム)を編成のうえ、実施します。

1. 幅広い教養と高度な専門的知識、及びこれらに基づいた論理的思考力を育む科目を配置します。
2. 自ら課題を発見・探究・解決する能力を育成する実践的な科目を配置します。
3. 大学、地域及び国際社会における多様な人々とのコミュニケーションを重視した教育を展開します。
4. アクティブ・ラーニングの推進を通して、学生が倫理観をもって自主的に問題に取り組むことを支援する教育を展開します。
5. 人、自然、文化の多様性に見られる鹿児島特有の資源を活用した教育を展開します。

大学院

鹿児島大学大学院は、学位授与の方針に掲げる能力を備えた人材を育成するために、以下に示す方針に基づいて、系統性のある教育課程(カリキュラム)を編成のうえ、実施します。

■修士(博士前期)課程

1. 研究倫理に則り、地域の活性化と国際社会の発展に資する幅広い学識と高度な専門性を修得できる科目の提供と、きめ細かな研究指導を行います。
2. 専門分野における基礎的な研究能力と高度な専門性を発揮できる実践的な能力を身につけた人材を育成する教育を展開します。

■博士(博士後期)課程

1. 研究倫理に則り、地域の活性化と国際社会の発展に資する幅広い学識と高度な専門性を修得できる科目の提供と、きめ細かな研究指導を行います。
2. 鹿児島大学の多様な学術的研究を背景に、課題の発見・探究・解決を目指す研究者や、専門分野を牽引していく役割を担うことのできる専門家を育成する教育を展開します。

■専門職学位課程

1. 高度専門職業人として、固有の専門業務に必要な深い学識と卓越した能力を養成する体系化した教育を展開します。
2. 学外との連携を通じた実務教育を行い、地域に根ざした高度専門職業人としての責任感と倫理観を養成する教育を展開します。
3. 専門分野において、指導的な役割を担う実務家を養成する教育を展開します。

鹿児島大学入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

大 学

鹿児島大学は、教育目標に定める人材を育成するため、次のような学生を求めています。

1. 鹿児島大学の教育目標に共感し、それを実現できる基礎学力や考える力と意欲をもつ人
2. 人間としてのモラルを大切にし、教養をより高めようとする人
3. 知的向上心に富み、専門職業人として社会に貢献することをめざす人
4. ボランティアやインターンシップをはじめ、広く具体的体験に積極的に取り組む意志をもつ人

このような学生を適正に選抜するために、学部の募集単位ごとに、多様な選抜を実施します。

大学院

鹿児島大学大学院は、教育目標に定める人材を育成するため、次のような学生を求めています。

■修士(博士前期)課程、博士(博士後期)課程

1. 学士としての確かな基礎学力と専門分野における知識・技能を有する人
2. 主体的に学ぶ態度を身につけ、専門分野に関連する諸問題に関心をもつ人
3. 自ら課題を発見・探究・解決しようとする意欲に満ちた人

■専門職学位課程

1. 高度専門職業人をめざす明確な問題意識・関心を持ち、幅広い教養と柔軟な思考力をもつ人
2. 専門職技能並びに実践力を身につけたい人
3. 学士としての確かな基礎学力と専門分野における知識・技能を有する人、または、当該分野の基礎資格や現場での経験を有する人

このような学生を適正に選抜するために、研究科の募集単位ごとに、多様な選抜を実施します。

鹿児島大学男女共同参画基本理念

男女共同参画社会基本法は、男女共同参画社会の実現を21世紀の我が国の最重要課題であると位置づけています。男女共同参画社会とは、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮することのできる社会のことです。この実現には、教育・研究の場であるとともに、就業の場である大学の果すべき役割・社会的責任が極めて大きいものと考えます。

鹿児島大学は、男女共同参画社会基本法に基づき、男女共同参画社会実現の意義と責任を認識しつつ、21世紀の総合大学に期待される使命を自覚し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざし、以下の基本理念の下、男女共同参画を積極的に推進します。

<基本理念>

鹿児島大学は、大学憲章の精神に則り、教育・研究機関として男女共同参画のもとに社会貢献を続けることができる人材を育成・支援し、個々を尊重するとともに、一人ひとりがあらゆる場面において個性と能力を発揮できる大学を実現します。

「一人ひとりが伸びやかに 自分らしく輝くために」

<行動指針>

1. 男女共同参画の視点に立った教育、研究、就業の場の確立および大学運営における意思決定過程への女性の参画を拡大します。
2. 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を重視した施策を推進するための環境を整備します。
3. 女性の能力開発・能力発揮(エンパワーメント)を支援するために、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)の推進、女性キャリアガイダンスの充実、再チャレンジ支援などを行います。
4. 男女共同参画に資する教育・研究、広報・啓発活動を、地域(地方自治体、教育機関、医師会、企業、NPO等)と連携して積極的に推進します。

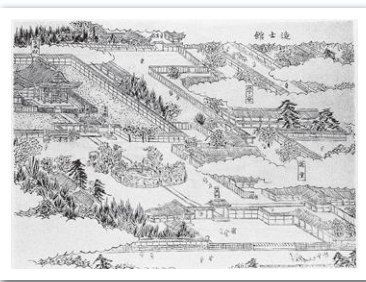
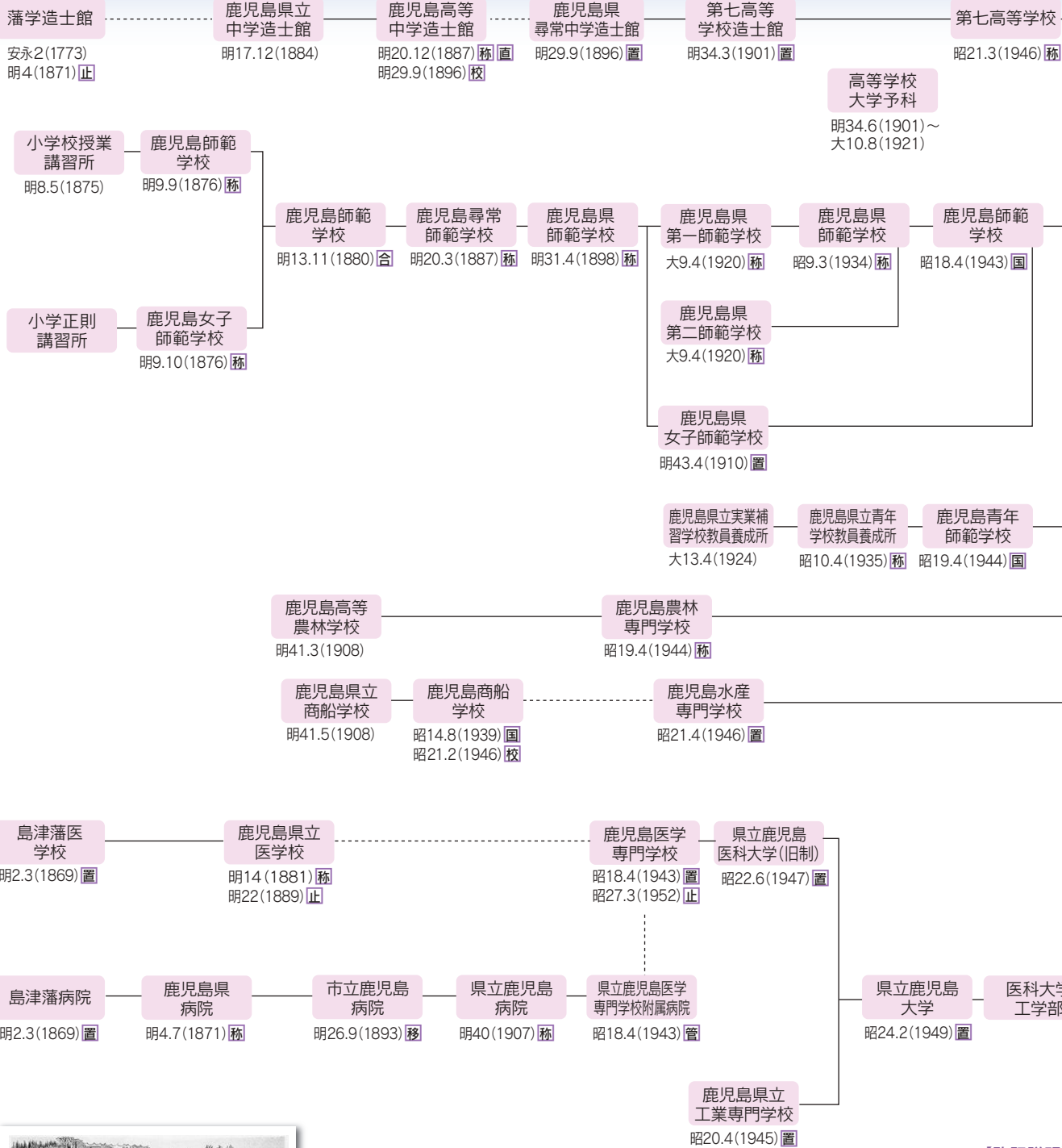
平成22年1月21日制定
教育研究評議会決定

沿 革 (旧制度下)

はじめに

鹿児島大学

昭24.5(1949)置



藩学造士館「三国名勝図会」(附属図書館「玉里文庫」所蔵)



第七高等学校造士館前景

【略記説明】

- 置: 設置
- 称: 改称
- 組: 改組
- 定: 認定
- 加: 参加
- 校: 廃校
- 離: 離脱
- 止: 廃止
- 造: 建造
- 移: 移管
- 停: 募集停止
- 国: 国立移管
- 管: 移管改称
- 措: 学内措置
- 合: 合併改称
- 直: 文部省直轄

鹿児島大学

昭24.5(1949)置

鹿児島県立
大学

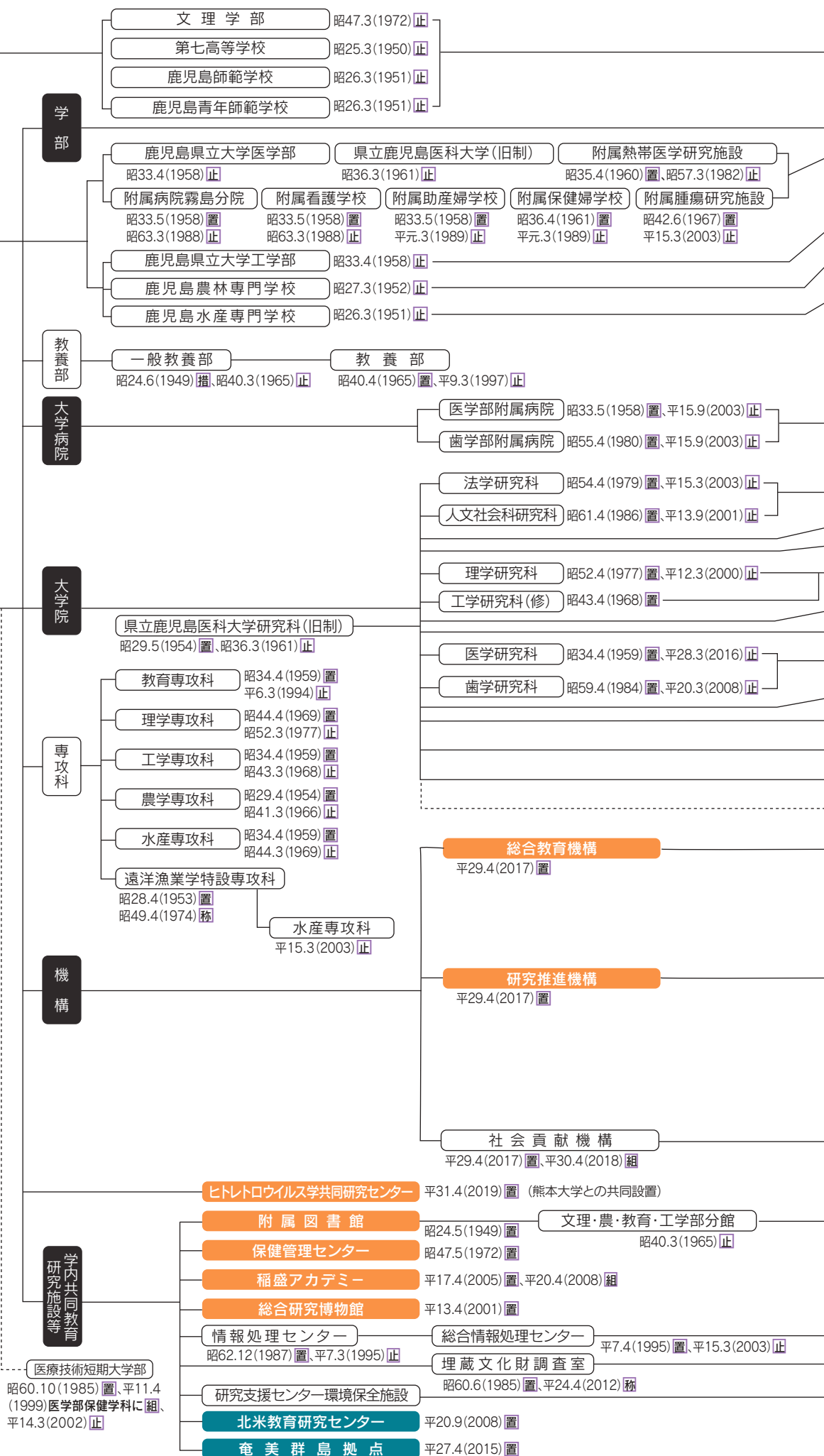
昭24.6(1949)称

医学部

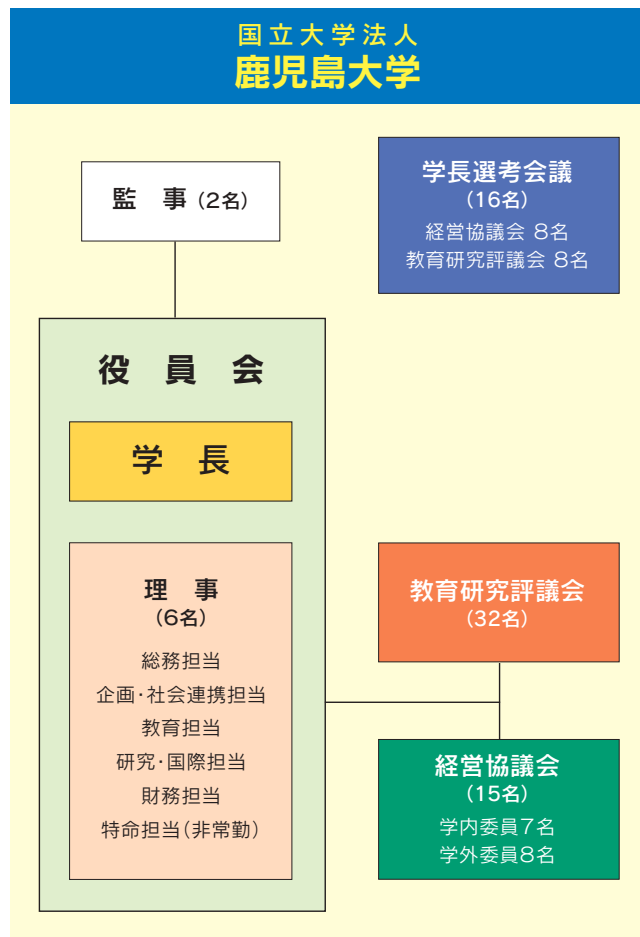
昭27.2(1952)置

【略記説明】

- 置:設置
 称:改称
 組:改組
 定:認定
 加:参加
 校:廃校
 離:離脱
 止:廃止
 造:建造
 移:移管
 停:募集停止
 国:国立移管
 管:移管改称
 措:学内措置
 合:合併改称
 直:文部省直轄

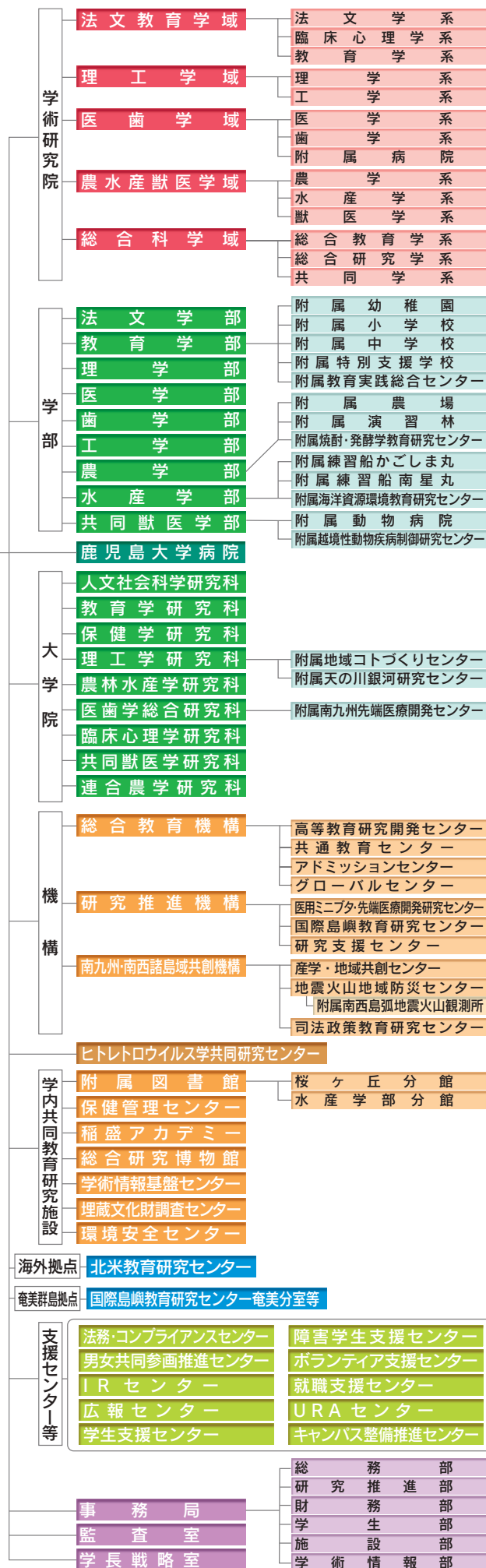






鹿児島大学

(令和元年5月1日現在)



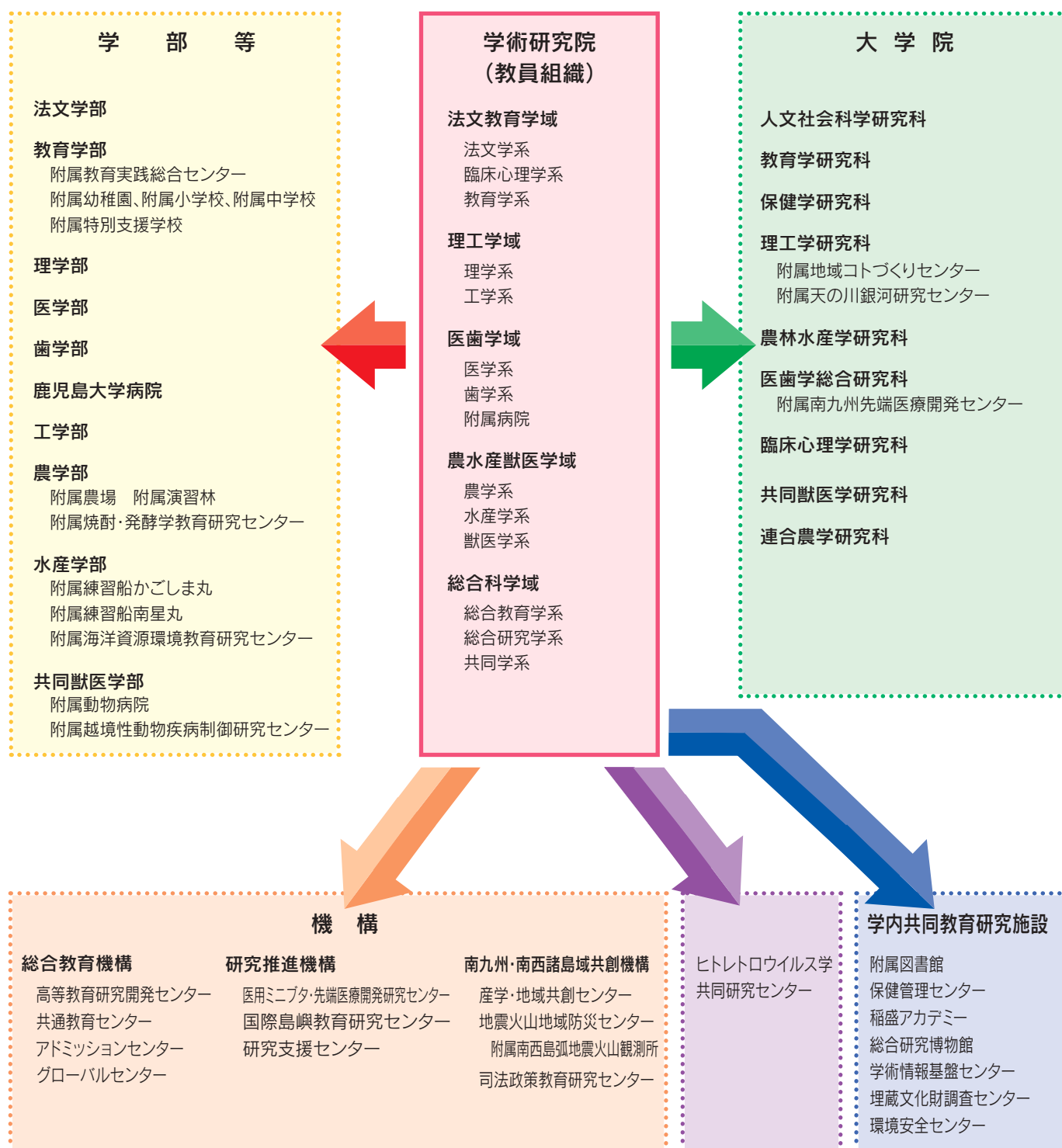
【学術研究院】

学長のリーダーシップの下、社会の変化に対応した教育研究組織づくり、教育課程の編成及び学内資源の再配分を全学的な視点で柔軟かつ迅速に進めるため、現行の教育研究組織を教員組織と教育研究組織に分離し、新たに学術研究院（教員組織）を平成27年4月1日に設置しました。

学術研究院は、5つの「学域」と14の「学系」からなり、学域は現在の学部・研究科等の教育研究分野に対応した一定規模の組織を形成し、学系は学域の下に教員の専攻分野に応じた組織となっています。

学術研究院長には学長を充て、今まで学部・研究科等ごとに所属していた教員を一元的に管理し、全学的な視点に基づいた計画的な教員人事を行うこととしています。

教育研究組織（平成31年4月1日）



法文学部



法経社会学科／人文学科

藩学造士館、旧制第七高等学校の系譜を引く法文学部は、現在、法経社会学科（法学コース、地域社会コース、経済コース）、人文学科（多元地域文化コース、心理学コース）の2学科5コースを擁する南九州唯一の人文社会系総合学部となっている。

本学部では、「広く学ぶ」「深く学ぶ」「学びを活かす」という「3つの学び」を実現し、各コースの履修モデルにしたがった実践的できめ細かな専門教育と、学際的な知識と現場感覚を身につける「法文アドバンスト科目」などの教育プログラムを展開することで、総合的な観点から人間と社会を深く理解し、情報化、国際化および地域社会の変化にともなう諸問題に適切に対処できる現実的な課題解決能力を持った人材の育成を目指している。

教育学部



学校教育教員養成課程／特別支援教育教員養成課程

教育学部は、明治初期に源をもつ各師範学校等、教員養成機関としての長い歴史を通じて、鹿児島県はもとより、全国の教育界など広く社会に有為の人材を送り出してきた。平成29年4月に、主に小・中学校、高等学校の教員を育成する学校教育教員養成課程（初等教育コース、中等教育コース）と特別支援学校等で活躍する人材を育成する特別支援教育教員養成課程の2課程に改組し、教育に関する深い理解と指導力、そして豊かな人間性の形成を目指している。

理学部



数理情報科学科／物理科学科／生命化学科
／地球環境科学科

「理学」は、自然現象の中に潜む真理を探究する学問であり、そこで明らかにされた自然法則は人類の英知や文化の中に蓄積され、科学技術の発展を支えてきた。こうして現代社会は豊かなものになったが、豊かさの裏では環境やエネルギーなどに関する新たな課題も生じた。このような問題を解決するためにも、真理の探究と共に、物事の原理を基礎から理解する「理学」のさらなる進展は不可欠である。鹿児島大学理学部は、南九州という自然に恵まれた地理的特色を生かしながら、基礎科学を中心とする自然科学の最新の教育・研究を進める。

〈育成する人材像〉

- * 自然科学の専門知識と幅広い教養を併せもち、論理的科学的思考力を身につけた人
- * 学問の高度化や多様化に柔軟に対応できる、創造力のある人
- * 社会性、国際性、学際性が豊かで、先端科学の知識と問題解決能力を身につけた人
- * 高い倫理観をもって人類の幸福と福祉に貢献できる人

医学部



医学科／保健学科

医学部は、明治2(1869)年にウィリアム・ウィリスを校長として設立された薩摩藩医学校を源流とし、昭和18(1943)年に開校した県立鹿児島医学専門学校を直接の前身とする。その後幾多の変遷を経て、昭和30(1955)年に鹿児島大学医学部となった。平成10(1998)年には保健学科が設置され、2学科体制となり、平成30(2018)年に医学部創立75周年、保健学科設置20周年を迎えた。人間性豊かな、地域に貢献する、研究心旺盛な、国際的視野に立つ、医学・医療を担う人材を育成することを使命として掲げた教育・研究・診療を実践し、これまでに両学科を合わせて約9,000人の医療人を輩出している。鹿児島県のみならず、日本全国、さらに海外で人々の健康と福祉の向上、医学・医療の発展に多大な貢献をしている学部である。

歯学部



歯学科

歯学部は、沖縄を含む南九州地域における唯一の歯科医学教育・研究施設として、歯科医療の中心的役割を果たすべく、昭和52(1977)年10月に設置され、平成29(2017)年に創立40周年を迎えた。

本学部では、生命科学の原理を理解し、科学的探究心と問題解決能力を身につけるとともに、各種口腔・顎顔面領域の疾患の診断、予防、および治療に関わる知識と技能を修得することを、教育目標としている。また、県内離島の歯科巡回診療同行実習や海外の大学での研修などを通して、地域医療の重要性を理解し、コミュニケーション能力を備えた国際的視野を有する人材を育成している。同時に、良識ある人間形成に繋がる教育を心がけ、全人的歯科医療の実践者としての歯科医師および歯科医学教育者・研究者の育成を目指している。

工学部



機械工学科／電気電子工学科／建築学科
／環境化学プロセス工学科／海洋土木工学科
／情報生体システム工学科／化学生命工学科

工学部の母体である鹿児島県立工業専門学校は、工業専門の理科系学徒の教育を目的として昭和20(1945)年4月に設置され、同30(1955)年に国立移管された。

本学部は、工学の面白さを学びたい、ものづくりに取り組みたい、技術開発に挑戦したい等の夢をもつ一人一人の学生に、幅広い教養と高度な専門能力を授け、獲得した知識や技術等を統合的に活用することにより、実社会における課題解決のために応用できる知恵として身につけることができる教育に心がけている。今日まで連綿と国際的な通用性を踏まえた教育改革を進め、グローバルに活躍できる工学系人材として必要な基礎的能力を育む教育を実践している。

また、本学部は、我が国のものづくりの主要な分野を網羅する7学科編成で、社会の変革を担う人材育成、知的基盤の形成やイノベーションの創出などに寄与する「知の拠点」としての展開に取り組んでいる。

農学部



農業生産科学科／食料生命科学科／農林環境科学科
／国際食料資源学特別コース(農学系サブコース)

農学部は、明治41(1908)年開設の鹿児島高等農林学校に始まり、昭和24(1949)年鹿児島大学農学部となった。日本有数の食料生産基地に位置する本学部は、農業生産科学科(3教育コース)、食料生命科学科(3教育コース)、農林環境科学科(2教育コース)の3学科ならびに特別コース(農・水産分野からなる国際食料資源学特別コース)から構成され、附属施設として、附属農場、附属演習林および附属焼酎・発酵学教育研究センターを有している。温帯から亜熱帯へ南北数百kmに及び多様な自然環境と生物資源に恵まれた地域の特性を生かして、食、農、地域資源、環境、生命に関する教育を行っている。また、フィールドでの教育、地域産業と連動したキャリア教育を重視し、豊かな人間性、現場での実践力、優れた応用力、広い視野と国際性を備え、地域社会と発展途上国に貢献できる技術者・指導者を養成している。

水産学部



水産学科／国際食料資源学特別コース(水産学系サブコース)

水産学部は、鹿児島水産専門学校を母体として昭和24(1949)年に誕生した。「就職に強く学生に親切な水産学部」をモットーに、鹿児島から東南アジア・南太平洋を含む水圏をフィールドとし、水産資源の持続的生産とその合理的利用、水圏環境の調査と保全、グローバル化する産業社会や「食」に関わる生活文化の創出において、地域社会と国際社会に貢献する人材を育成することを教育の目的としている。食料生産の確保とその生産基盤である海洋環境の保全といった時代の要請に応えるため、資源・環境・食品分野に強く、高度で先端的教育を受けた水産技術者を養成し、鹿児島は勿論のこと、熱帯・亜熱帯水域の発展途上国をはじめとする国際社会で活躍できる、国際的視野を持った卒業生を多数送り出している。また、ISO9001認証に準拠した独自の教育システムを運用し、弛まぬ改善と教育の質の保証に取り組んでいる。農学部と連携した国際食料資源学特別コースも設置し、世界の食料問題に取り組むグローバル人材の育成も強化している。

共同獣医学部



獣医学科

共同獣医学部は、昭和14年に鹿児島高等農林学校に創立された獣医学科を前身とし、農学部獣医学科を経て、平成24年に鹿児島大学9番目の学部として設置された。本学部では欧米水準を目指した獣医学教育を山口大学との共同教育課程により行う。豊かな人間性と正しい倫理観を持ち、行動規範に従って職務を遂行し、国際社会に貢献できる専門性の高い獣医師の養成を目指している。教育病院である附属動物病院には、小動物診療センターに加え、大動物診療センター、軽種馬診療センター、大隅産業動物診療研修センターを置く。また、我が国屈指の畜産地帯を背景に、高病原性鳥インフルエンザや狂犬病などの越境性動物疾病の研究を行う附属越境性動物疾病制御研究センターも設置されている。

人文社会科学研究科

人文社会科学研究科は、平成10年に設置され、博士前期課程4専攻（法学専攻、経済社会システム専攻、人現環境文化論専攻、国際総合文化論専攻）および博士後期課程1専攻（地域政策科学専攻）によって構成されている。

本研究科では、各専門分野における高度な研究・教育を行うとともに、プロジェクト研究を中心とする地域に密着した実践的な研究に取り組んでいる。また、昼夜開講制による社会人学生の積極的な受け入れや、奄美サテライト教室〔奄美大島、徳之島分室〕を通じた離島地域での授業開講、外国人留学生特別選抜指定校推薦入試（秋入学）による留学生の受け入れなど、社会のニーズに積極的に対応している。さらに、博士前期課程では中学校および高等学校教諭専修免許の資格を取得することができる。令和元年度には経済社会システム専攻に地域開発教育コースが設置され、地域開発に関わるグローバル人材の養成を目的として英語による教育を行っている。

博士前期課程

- 法学専攻
- 経済社会システム専攻
- 人間環境文化論専攻
- 国際総合文化論専攻

博士後期課程

- 地域政策科学専攻

教育学研究科

教育学研究科は、平成29年4月にこれまでの修士課程（教育実践総合専攻）に加え、新たに専門職学位課程（学校教育実践高度化専攻）が設置された。

教育実践総合専攻は、地域や現実の課題に即した総合的な講義や研究方法の指導により、視野の広い教員等の人材を養成することを目指している。所定の科目を履修すると修了時に修士（教育学）の学位が与えられる。

学校教育実践高度化専攻は、これからの時代に求められる高度な教育実践と生涯学び続ける省察的实践家としての教師のあり方を具体的に体现する高度な専門職業人の養成を目的とする。所定の科目を履修すると修了時に教職修士（専門職）の学位が与えられる。

また、小学校・中学校・高等学校教員の一種免許状を所有していると、専修免許状を取得することもできる。

修士課程

- 教育実践総合専攻

専門職学位課程

- 学校教育実践高度化専攻

保健学研究科

保健学研究科は、看護学・理学療法学・作業療法学に関する高度な専門知識・技術をもつ高度専門職業人ならびに優れた教育や研究のできる指導・管理者および離島や国際的な保健・医療に貢献できる人材を養成し、併せて教育研究の成果および情報を社会に広く提供し貢献することを理念として、平成15年4月に博士前期課程、平成17年4月に博士後期課程が設置された。

本研究科では、(1)高度専門職業人の育成、(2)医療専門職としての質の高い教育・研究者の育成、(3)学生の能力開発に効果的な教育や独自の研究ができる人材の育成、(4)離島・へき地を含めた地域の保健・医療において指導・管理者として実践できる人材の育成、(5)国際保健医療活動を推進できる人材の育成、を教育目標としている。

なお、博士前期課程（看護学領域）には、放射線看護専門コース（定員2名）、島嶼・地域看護学コース（定員2名）、助産学コース（定員7名）を設置している。

博士前期課程

- 保健学専攻
 - 看護学領域
 - 保健学領域

博士後期課程

- 保健学専攻
 - 保健看護学分野
 - 神経運動障害基礎学分野
 - 臨床精神神経障害学分野

理工学研究科

理工学研究科は、「真理を愛し、高い倫理観を備え、自ら困難に挑戦する人格を育成し、時代の要請に対応できる教育研究の体系と枠組みを創成することによって、地域ならびに国際社会の進展に寄与する」という教育研究理念のもと、理工学の基礎から応用にわたる学術の真理と理論を教授研究し、その深奥を極め、社会の発展に寄与する高度専門職業人の育成を目的としている。

そのために、今日の諸課題に対応できる倫理的判断力および人間生活を取り巻く自然についての総合的知識を有し、自然科学に関する学問の高度化と多様化に幅広く柔軟に対応可能な次世代を担う技術者、研究者、高度専門職業人を養成しつつ、地域社会との連携と世界に開かれた研究科であるように努めている。

博士前期課程に10専攻、博士後期課程に1専攻を設置し、自然科学の深化および理学と工学の融合により科学創成をリードする教育研究活動を展開している。

博士前期課程

- 機械工学専攻
- 電気電子工学専攻
- 建築学専攻
- 化学生命・化学工学専攻
- 海洋土木工学専攻
- 情報生体システム工学専攻
- 数理情報科学専攻
- 物理・宇宙専攻
- 生命化学専攻
- 地球環境科学専攻

博士後期課程

- 総合理工学専攻

農林水産学研究科

農林水産学研究科は農学研究科と水産学研究科を前身として平成31年(2019年)4月に設立された。個々のニーズにきめ細かく対応する先進的スマート農畜林水産業の創出等を担える人材を育成するため、南西諸島と南九州の環境や食品・生命科学に関する農水融合型の「環境フィールド科学専攻」「食品創成科学専攻」、および資源の持続的生産に向けたイノベーションを重視した「農林資源科学専攻」「水産資源科学専攻」の4専攻を設置している。学生は植物生産科学、畜産科学、地域ビジネス、食品流通、養殖、食品創成に関する生産活動、食と健康、およびそれらの基盤となる地域の環境特性、亜熱帯化、森林管理、防災、水産資源、地域の生物環境等の、高度な専門知識と研究・開発手法を学修する。それらに基づき、農畜林水産業や食品産業における問題を提起し、地域社会において指導的立場での解決方策を示す能力を持つ人材を養成する。また、グローバル化人材を育成する「熱帯水産学国際連携履修プログラム」、食品安全専門人材を育成するための「食品管理技術者教育プログラム」、および課程修了に必要なすべての学修を英語で行う「留学生プログラム」を開設している。

修士課程

- 農林資源科学専攻
- 食品創成科学専攻
- 環境フィールド科学専攻
- 水産資源科学専攻

医歯学総合研究科

医歯学総合研究科は、疾病の予防と治療を使命とする医学と歯学を有機的に結合して、生命医療科学領域における先端的研究と高度の教育を遂行し、多様な社会的要請に迅速に対応することを目指しており、平成15年4月に大学院博士課程(健康科学専攻および先進治療科学専攻)、平成16年4月には修士課程(医科学専攻)が設置された。本研究科は、(1)生命科学領域の教育研究のリーダーの育成、(2)地域の特性を生かした生命医療科学領域の教育研究拠点の創出、(3)専門性を備えながら医の倫理観を備えた生命医療人の育成を目標としている。

本研究科には、現在、11講座、3プロジェクト講座、3連携講座のほか、鹿児島県に多い離島やへき地の医療に携わる人材育成を目指した離島へき地医療人育成センター(平成19年4月)や、本研究科の優れた研究シーズの非臨床・臨床開発と実用化への一体的な支援・推進を行う南九州先端医療開発センター(平成30年4月)を含む8研究センター、6寄附講座が設置されている。

修士課程

- 医科学専攻

博士課程

- 健康科学専攻
- 先進治療科学専攻

臨床心理学研究科

臨床心理学研究科は、臨床心理分野専門職学位課程であり高度専門職業人の臨床心理士養成を主眼に平成19年度に国立大学初の独立研究科として設置された。学位は臨床心理修士(専門職)である。教育理念に(1)個別支援、集団支援、地域文化を理解した地域支援、危機介入支援ができる人材の育成、(2)教育、福祉、医療、司法矯正領域等で即戦力となる人材の育成を掲げ、理論と実践を架橋すべく学内・学外実習を充実強化した2年間の教育課程を編成し、講義・演習・実習を連動させた指導を展開している。該当者には公認心理師受験資格も提供している。

入学定員は15名で、修了後は精神科病院、児童養護施設、教育委員会等における臨床心理士や、児童心理司、家庭裁判所調査官補、法務技官等の公務員心理職に就いており、11期生まで100%の就職率及び臨床心理士資格取得率98%の実績がある。

専門職学位課程

- 臨床心理学専攻

共同獣医学研究科

共同獣医学研究科は、平成30年4月に鹿児島大学10番目（現在は9）の大学院として設置された。当研究科は、山口大学に設立された共同獣医学研究科と、修業年限4年間の共同教育課程（博士課程）を組み、2つの教育コースを設けている。一つは獣医科学コースで、我が国における次世代の欧米水準の獣医学教育を担う高度な研究者養成コースである。もう一つは獣医学専修コースで、実験動物の健康と福祉に寄与する実験動物医学専門医、病理学的診断により疾病制御を担う病理学専門家等の高度獣医学専門家、あるいは先端・高度な動物医療を担う指導者としての獣医療人を養成する。2つの教育コースとも修了要件を満たした場合、博士（獣医学）の学位が授与される。

博士課程

獣医学専攻

連合農学研究科

連合農学研究科は佐賀大学、琉球大学、鹿児島大学が連合し、それぞれの地域特性を生かした農学・水産学が学べる博士課程の大学院である。最先端のバイオテクノロジー技術を駆使して安全・安心な食料生産と生物資源の環境保全を目指す、農林水産学分野における高度な専門教育と研究を行っている。3つの専攻の中には農学・林学・農業工学・水産学を融合した農水圏資源環境科学専攻や、民間企業（タカラバイオ（株））との連携大学院を持つ先端応用生命科学連合講座など、特徴ある分野が設置されている。修了者には農学・水産学・学術のいずれかの博士号が付与される。学位修得者は、日本人以外に多くの留学生が含まれ、国内外の幅広い分野で、研究者、教育者、高度技術者として活躍している。

（注）連合農学研究科は、3大学（佐賀、琉球、鹿児島）で構成

博士課程

生物生産科学専攻

応用生命科学専攻

農水圏資源環境科学専攻



総合教育機構

総合教育機構は、本学における学士の質保証、共通教育の実質化と高度化、そして地域人材の育成を目的として設置された。具体的地域人材育成であり、以下の4センターから構成されている。

高等教育研究開発センター

高等教育研究開発センターは、我が国と海外の高等教育（≒大学）について研究し、これをベースとして現在の鹿児島大学が置かれた状況をデータに基づき的確に把握するための調査・検討を行っている。また、全学的な教育カリキュラムの構築と改善、教育改革についての提案、教育の質保証に向けた教職員の能力開発なども実施している。限られた学内資源を有効活用して高い教育成果、学習成果を挙げるための方策を立案、実施する主体としての役割が本センターに期待されている。

すなわち、本センターの活動には、「大学において大学を研究する」という側面と、「鹿児島大学において鹿児島大学について調査・検討する」という側面がある。そしてこの2つの取組の成果を、鹿児島大学における教育の改善につなげていくとともに、我が国の高等教育の発展にも資することが、本センターの大きな役割である。

近年、上記のように「大学が大学自身を調査・検討すること」をIR (Institutional Research)、「教職員の能力開発を行うこと」をFD (Faculty Development) やSD (Staff Development) と呼ぶ。これらの活動のうち、FDやSDについては大学の義務であるとされ、本学においても全学や各学部のFD委員会を中心に様々な取組が行われている。本センターは全学FD委員会において、IRで得られたデータを活用しつつ、FD・SD活動の企画立案を担っている。

さらに、学部横断型の全学的な取り組みである「地域人材育成プラットフォーム」において、教育プログラムの構築及びコーディネートを担当するのも本センターである。この「地域人材育成プラットフォーム」は、成績評価のための各種ルーブリック、学習のプロセスと成果を管理するためのラーニング・マネジメント・システム (LMS) やe-ポートフォリオの導入などを通じて、地域人材育成の基盤というだけでなく、鹿児島大学における教育改革の重要な牽引役となる。その質的向上および量的拡大は、本学の将来を左右する大きな試金石であるといえる。



▲FD・SD合同フォーラムの様子（鹿児島大学FD委員会・大学地域コンソーシアム鹿児島共催）



▲総合教育機構地域人材育成プラットフォームパンフレット

共通教育センター（共通教育）

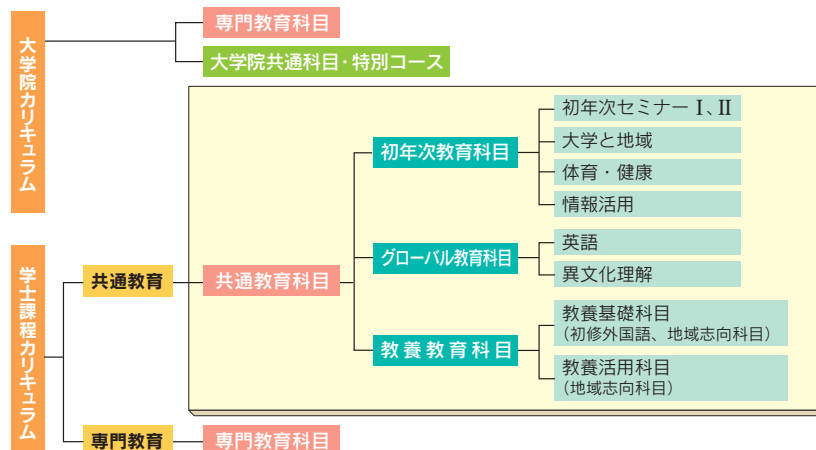
平成15年10月に設置された教育センターは、平成29年4月の総合教育機構の設置に伴い共通教育センターと高等教育研究開発センターへ再編された。

共通教育センターは、共通教育の運営及びその質保証・質的向上に責任を負う組織であり、全学協力体制に基づき実施する共通教育及び学芸員資格科目に関する企画・立案・実施、並びに教育に係る全学的な連絡調整等を行うことにより、鹿児島大学における教育の充実・発展を図ることを目的としている。

また、共通教育は、旧制第七高等学校時代以来連綿と引き継がれてきた学士課程教育の一つであり、大学での学び方や大学と地域との関わりを理解するとともに、自主自律的に学び続けるための基盤となる初年次教育、グローバル化が進む社会で貢献するための基盤となるグローバル教育、社会に貢献できる能力を養成するための教養教育をととして、真理を愛し高い倫理性と社会性を備え、向上心を持って自ら困難に立ち向かい国際社会で活躍しうな人材の育成を目指しており、鹿児島大学における教育の礎となっている。

鹿児島大学教育課程

（大きな枠内が共通教育センターの教育）



▲共通教育科目「屋久島の環境文化1-植生-」授業風景



▲共通教育棟1号館

には、入学者選抜方法の改善、全学的な教育の改革・改善と体系的カリキュラムの実現、グローバルな教育の展開、そして学部横断型の

アドミッションセンター

アドミッションセンターは、入学者選抜機能の検証、入学者選抜方法の改善、中長期的な入学者選抜方法の在り方の策定、学生確保に係る広報活動を行うことにより、継続的に優秀な学生を確保することを目的として平成26年4月に設置され、活動を行っている。

【主な業務内容】

- 多面的・総合的な能力の評価を行う入試の実施へ向けた各種調査・検討およびシンポジウム等の開催
- 入試結果の分析・評価や入学後の学業成績の追跡調査等を通じた入学者選抜機能の検証
- 鹿児島県内各地での「鹿児島大学説明会(単独主催)」の開催をはじめ、高校および高校生と大学との相互理解を深める「高校訪問」の企画実施、高校等からの大学訪問の受け入れといった入試広報活動



▲トップセミナー「大学入学選抜改革の動向」の様子



▲「鹿児島大学説明会」の様子

グローバルセンター

グローバルセンターは鹿児島大学の教育と研究の国際化推進を目的に平成28年4月に設置された。国際共同教育研究の支援や大学を紹介する英文冊子(KU Today)の発行を行い、学生の海外派遣を促進するとともに、外国人留学生の受け入れを促進し、全学の留学生を対象とする日本語教育(Study Japan Program)を行っている。

キャンパス・グローバル化部門

- 国際プロジェクトの支援
- 海外の大学・研究機関との連携強化
- 国際社会に向けた情報発信

学生海外派遣部門

- 国際教育プログラム(P-SEG)の実施
海外研修、学術交流協定校、トビタテ!留学JAPAN等の派遣留学促進
- 海外留学に必要な情報の提供、相談・指導
- 日本人学生と外国人留学生の協働学習促進

外国人留学生部門

- 全学留学生向け日本語、日本文化教育、異文化理解
- 外国人留学生への生活・学習支援
- 留学生と地域との交流促進



▲シンガポール学生海外研修の様子



▲35カ国348名の外国人学生が留学中!

研究推進機構

本学は、第3期中期目標・中期計画期間において、南九州及び南西諸島域の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化するため、研究推進機構は、第3期中期目標・中期計画に基づき、地域活性化に繋がる研究力を強化するため、学内共同教育研究施設等の機能した学術研究の質的向上とその推進に寄与することを目的としている。

機構の下部組織として医用ミニブタ・先端医療開発研究センター、国際島嶼教育研究センター、研究支援センターの3施設を設置して

医用ミニブタ・先端医療開発研究センター

医用ミニブタ・先端医療開発研究センターは、鹿児島大学における前臨床研究(トランスレーショナルリサーチ)を主眼とした重点的研究課題を推進するセンターである。

生命科学における重点的先端研究課題を遂行するために、三つの研究分野が設置されている。

臓器置換・異種移植外科分野(山田和彦教授)では、先進医用ミニブタの開発と前臨床研究拠点形成を主たるプロジェクトとし、国内外における大動物(ミニブタ・サル)を用いた前臨床移植研究(Translational Transplantation Research)の中核拠点としての地位を確立し、特に「同種移植での免疫寛容誘導方法の確立と異種臓器移植の臨床応用を目指す」ことを最終的な研究目標として掲げ、臓器・細胞移植(同種・異種)および再生医療を中心とした研究課題を進めている。

遺伝子発現制御分野(佐藤正宏教授)では、遺伝子工学及び細胞工学的な方法を用いて、ブタ細胞のゲノム改変(遺伝子の強発現、標的遺伝子の破壊など)に関する新規技術の開発を展開している。この細胞を起点にブタからヒトへの異種移植が可能な医用ブタ及び疾患モデルブタの開発を目指している。他方、マウスを用いた臓器や生殖細胞への生体内遺伝子導入法の開発も行い、発生工学の基盤技術開拓も手掛けている。

先端医療開発分野(松原修一郎准教授)では、癌幹細胞プロジェクトとして、浸潤・転移・再発の起点となり、癌の悪性形質を担う癌幹細胞に対する治療法開発の研究を行っており、今後はマイクロRNAやエクソソーム利用の可能性を検討する。また、確実に臨床にフィードバックできるトランスレーショナルリサーチとして、ミニブタを用いた内視鏡手術の教育と開発を行ってきた。

また、産学官および一般市民を対象とした公開シンポジウムを積極的に開催することによって、研究プロジェクトに対する幅広い理解を得る機会を設けている。



▲国内初となる異種移植抗原をノックアウトしたGalT-KOブタ腎のサルへの異種移植の成功例(臓器置換・異種移植外科分野)



▲先進医用ブタの開発と前臨床拠点形成プロジェクト第3回公開シンポジウム「ブタの医用動物への展開」の開催(2015年3月24日)

国際島嶼教育研究センター

国際島嶼教育研究センターは鹿児島からアジア・太平洋に広がる島嶼域を対象にした教育・研究を推進している。学内の兼務教員と協力して島嶼域の諸問題について先進的な教育・研究をおこなうとともに、英文学術誌『South Pacific Studies』を発行して世界の島嶼学研究を牽引し、研究会やシンポジウム、公開市民講座を通して研究成果を地域に還元している。平成30年度はマーシャル諸島において兼務教員とともに総合学術調査をおこない、研究会を9回、シンポジウムを2回開催した。鹿児島の島嶼地域における研究成果については、高校生・大学生など将来の人材への育成や一般の方への知の還元のために『鹿児島の島々』『鹿児島大学島嶼研ブックレット』を発刊するとともに、英文書籍『The Amami Islands』や『The Osumi Islands』を出版して海外にも成果を発信している。また「島における教育」を積極的に実施しており、共通教育科目「島のしくみ」では与論島、大学院全学横断型教育プログラム・島嶼学教育コースの「島嶼学概論」では三島村硫黄島、「島嶼学概論II」では十島村中之島、「太平洋島嶼学特論」ではミクロネシア連邦・グアムにおいて一部講義を行っている。また、教員免許状更新講習を奄美大島において行っている。さらに、平成27年4月に奄美市に国際島嶼教育研究センター奄美分室を設置し、文化・社会・生物の多様な地域として発展してきている奄美群島で急務である多様性維持機構の解明と保全の活動を行っている。



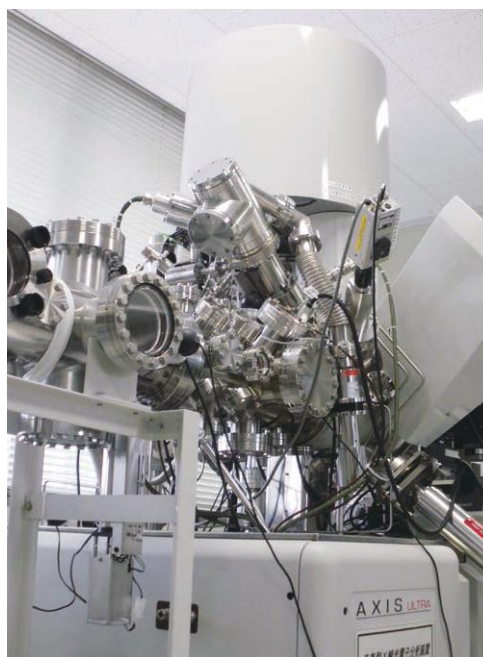
▲大学院全学横断型教育プログラム・島嶼学教育コースのオープン科目「太平洋島嶼学特論」の様子(ミクロネシア連邦チューク州)

に大学の強みと特色を活かした学術研究をすることを基本目標の一つに掲げている。

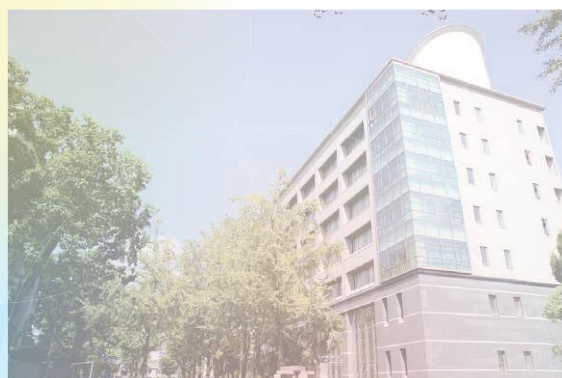
を見直し平成29年4月に設置された。本学における研究推進に係る人的および物的資源の有効活用を促進し、本学の強みと特色を活かしている。

研究支援センター

研究支援センターは、4施設から構成されており、高度先端研究機器・設備、遺伝子実験、動物実験及びRIを活用した教育研究を支援し、先端的な生命科学・自然科学の教育・研究・開発の進展に資することを目的としている。機器分析施設は、大型・高性能機器の計画的導入および集中管理による各種計測・分析機器の有効かつ円滑な共同利用を図っている。遺伝子実験施設は、遺伝子に関連する教育研究を行うための実験室、設備および解析機器類を整備している。動物実験施設は、実験動物および動物実験に関する教育研究、実験動物の品質管理および安全管理を行い、動物実験の適正化を図っている。アイソトープ実験施設は、放射性同位元素および放射線を利用する教育研究を推進するとともに、本学の放射線施設の安全管理を担っている。



▲走査型X線光電子分析装置(島津AXIS-ULTRA DLD)



南九州・南西諸島域共創機構

南九州・南西諸島域共創機構は、教育、研究と並び、大学の重要な使命である社会貢献の遂行を担っている。鹿児島大学における社会貢献に係る人的および知（センター及び旧かごしまCOCセンター）、「地震火山地域防災センター（旧地域防災教育研究センター）」および「司法政策教育研究センター」の3センターを統合・整の中核的拠点」の実現を目指し、自治体・企業との連携協力による共同研究・受託研究等の推進を通じ医療、観光、エネルギー、製造業、農林水産業等に関する課題の

産学・地域共創センター

産学・地域共創センターでは、研究シーズと地域ニーズとのマッチング、自治体等との共創による地域課題の解決とその成果を活かした地域人材育成および地域再生、事業化が見込まれる研究プロジェクトの支援、知的財産の創出、保護・管理および活用、地域ニーズに即した生涯学習機会の提供等の活動を行っている。更に、平成30年度から国立大学法人機能強化経費で措置された「南九州・南西諸島域の地域課題に応える研究成果の展開とそれを活用した社会実装による地方創生推進事業」を推進している。

■連携推進部門

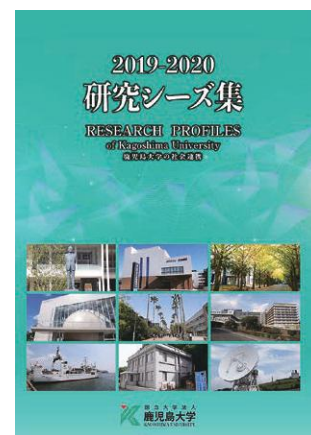
- 本学で生まれた研究シーズと社会ニーズとのマッチングを図り、民間企業等との連携を通じた研究成果の社会還元、技術移転、社会実装の推進
- 共同研究・連携コーディネートの他、大学の研究成果等の情報発信、地域産業界等からの技術相談対応、外部資金等の獲得支援、自治体との連携プロジェクトの企画・立案などの活動
- 地域創生を支えるための地域人材育成

■知的財産・リスクマネジメント部門

- 知的財産の創出、権利化、維持及び活用の戦略的な推進、知的財産に係る教育・啓発活動
- 産学官連携に伴い生じるリスクのマネジメント

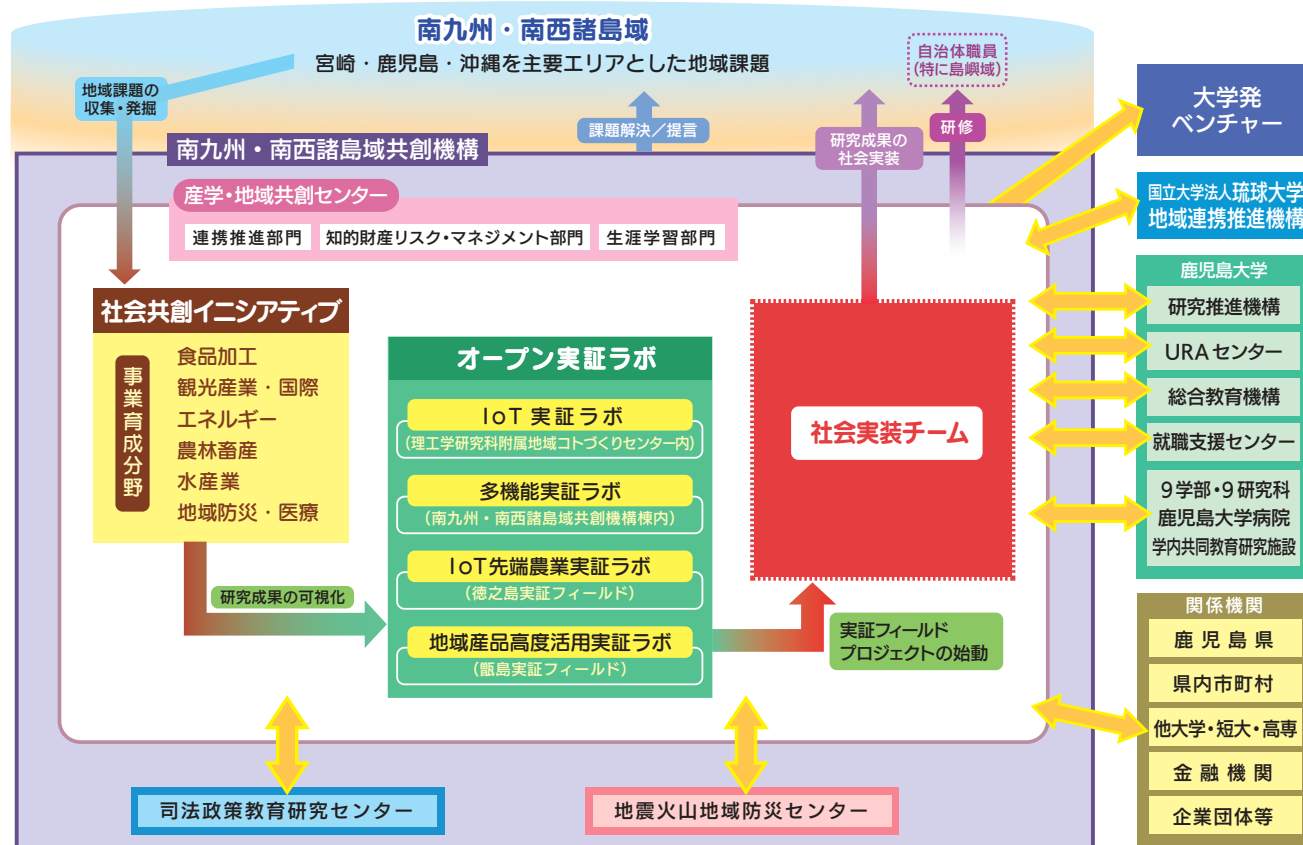
■生涯学習部門

- 人口減少型社会を見据えた生涯学習の質的転換への取組
- 青年期教育と成人教育、教養教育と職業教育などを接続させた高等教育機関としての生涯学習推進
- 地域の生涯学習の再構築への学校、行政、民間などと協働しての取組



▲研究シーズ集
2019-2020

南九州・南西諸島域の地域課題に応える研究成果の展開とそれを活用した社会実装による地方創生推進事業



的・物的資源の有効活用を促進、更なる推進を図るため、これまで独自の組織として社会・地域貢献活動を行ってきた「産学・地域共創センター（旧産学官連携推進セリシ、平成30年4月に同機構を設置した。機構では、鹿児島大学の第3期中期目標期間における基本的な目標である「南九州及び南西諸島域における地域活性化解決、地域イノベーションの創出、その活動成果の教育への還元といった取組を行っている。

地震火山地域防災センター

南九州から南西諸島にかけては、地震・津波、火山噴火、豪雨、台風などに起因する様々な自然災害が発生している。地震火山地域防災センターは、それら自然災害の防止と軽減を図るため、災害の実態解明、予測、防災教育、災害応急対応、災害復旧復興等の課題に地域と連携して取り組み、地域防災力の向上に貢献することを目指している。また、平成30年4月から附属施設として、南西島弧地震火山観測所を置き、地域防災の中核的拠点として機能強化を図っている。

本センターは、以下のような部門・分野と観測所から構成され、地域防災に関する様々な活動を行っている。

調査研究推進部門

地震火山防災研究分野：南西島弧地震火山観測所と連携した地震災害、火山災害と防災に関する調査研究

気象水象地盤災害研究分野：気象災害、洪水災害、津波災害、土砂災害と防災に関する調査研究

災害医療総合防災研究分野：大規模災害（地震災害、火山災害、放射線災害など）に対応できる災害医療総合防災に関する調査研究

防災教育推進部門

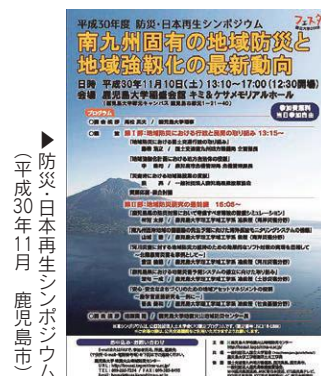
- 本学の共通教育、小・中・高等学校、市民講座等における防災教育の企画・運営
- 地域防災の核となる防災リーダーの養成支援、防災士資格取得支援

社会実装推進部門

- 地方公共団体、地域住民と連携した地域防災に係る課題の解決
- 自治体、自主防災組織、企業等からの防災に関する問い合わせの対応

南西島弧地震火山観測所

- 地震・火山噴火予知に関する観測研究



▶ 防災・日本再生シンポジウム
(平成30年11月 鹿児島市)

司法政策教育研究センター

司法政策教育研究センターは、法科大学院での法曹養成の経験とノウハウを継承し、①法学分野の教育研究の高度化や法律系人材の養成・拡充を実現する基盤の確保、②法科大学院修了後の司法試験受験のサポートを含む法曹志願者の支援、③地域で活躍している法律系人材や各種専門職のニーズに応えるリカレントや職能高度化の場の提供、④臨床法学教育の推進、⑤法律情報のネットワーク上への発信などによって、地域貢献ならびに地域活性化のために大学の知的資産を社会に埋め込む「実装化」の取組を行っている。

【主な活動】

学部・大学院教育支援

- 高度な専門性を踏まえた実践力を身に付けるセミナーの開催
- ネットワークを活用した教育ノウハウの提供による授業実施支援

リカレント・キャリア開発支援

- 地域の法曹、諸士業や地域専門職の能力の高度化支援
- 公務員や企業就業者のリカレントやキャリア開発支援

法曹志願者支援

- 法科大学院説明会の開催などによる法曹志願者への支援
- 法務学修生（本学法科大学院修了生）その他の司法試験準備

社会・地域貢献活動の展開

- センター無料法律相談の実施
- 地域に貢献する臨床法学教育活動（離島での法律相談など）
- 「全国条例データベースpowered by eLen」など、ネットワーク上への法律情報の発信



◀ 民法改正セミナーの一場面

教育学部附属学校

附属幼稚園

明治12(1879)年4月創立の附属幼稚園は、全国で2番目に古い歴史をもつ幼稚園である。今年度は、3歳児20名、4歳児36名、5歳児32名、計3学級88名が在籍している。研究主題に「遊びの中で育まれる子どもの学び【3年次】～“学びの過程”に着目した保育実践～」を掲げて、本県の幼稚園教育の向上の役割を果たしている。また、学部と連携し研究を深めるとともに、親と子が共に育つ場としての幼稚園を目指している。



附属小学校

附属小学校は、創立142周年目を迎え、児童数863名(学級数27)が在籍している。小学校教育に関する理論的・実践的な研究の推進、教育実習の指導の充実、研究や実践の公開による本県の小学校教育向上への貢献という3つの使命をもつ。特に、複式教育や道徳科教育などの先進的な研究、実践においては、県内外を問わず、さらには国外からも多くの視察や講師派遣の依頼を受けている。平成23年度から二学期制を導入し、平成24年度の入学児童から、単式1学級の定員を35名としている。



附属中学校

附属中学校は、創立68年目を迎え、559名(学級数15)の生徒が在籍している。平成21年度には校舎改修工事、平成23年度にはグラウンド改修工事が完了し施設・設備も一新された。校舎に沿うように並ぶ七本の銀杏の木は、その1本1本に校訓である「真理・理想・自律・誠実・友愛・剛健・雄飛」の名をもつシンボルツリーでもある。本校は、「学部と一体となり中学校教育に関する理論的・実践的研究を行う。」「学部の計画に従い、学生の実習の場として、その指導に当たる。」「研究会並びに共同研究、教育交流を行い、現職教育の振興に寄与する。」という三つの使命を果たすべく日々前進する学校である。



附属特別支援学校

附属特別支援学校は、知的障害を主な障害とする小学部・中学部・高等部の児童生徒58名が在籍している。特別支援教育の理念の下、「明るく、仲よく、がんばる児童生徒」の育成のため、大学をはじめとする関係機関との連携を図りながら、「一人一人の子供の成長と自立を支え、共に向上し続ける学校」、「附属学校として質の高い研究と教育実習を追求し続ける学校」、「保護者や教育関係者、地域のニーズに丁寧に応え続ける学校」を目指している。



鹿児島大学病院

鹿児島大学病院は、平成15年10月に医学部附属病院と歯学部附属病院を統合し、診療科を疾患機能別に17センターとし、診療体制を再編成した。また、平成28年10月1日から病院名称を鹿児島大学病院とした。なお、病院再開発計画として、平成19年から約16年間の予定で建物の増築・改修を行い、病院機能や建物を統合・集中化し、病院運営の合理化・省力化、患者サービスの向上、先進医療の積極的導入、地域医療の充実を目指している。

平成18年には「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定され、鹿児島県におけるがん医療に中心的な役割を果たしている。

また、平成26年4月に、県より救命救急センターとしての指定を受け、平成26年1月にC棟に整備した屋上ヘリポートを有効活用し、救急患者の受入態勢の充実を目指している。なお、平成28年4月には災害拠点病院、平成29年11月には原子力災害拠点病院の指定を受けている。

教育面では、平成25年度に「総合臨床研修センター」を設置し、協力病院と共同で「卒後臨床研修プログラム」を実施し、優れた医師・歯科医師の人材育成に努めており、平成28年8月には、九州の国立大学病院として初めて、厚生労働大臣から看護師の「特定行為研修指定研修機関」に指定されている。

なお、平成30年2月には、医療環境体制の充実と療養環境の向上を目指した新病棟(B棟)が完成し、平成30年3月には、霧島リハビリテーションセンターを閉院した。

診療センター		部門科	中央診療施設等	プロジェクトセンター
循環器センター	心臓血管内科 心臓血管外科		■検査部 ■手術部 ■放射線部 ■救命救急センター（救急科） ■集中治療部 ■輸血・細胞治療部 ■周産母子センター ■全身管理歯科治療部 ■血液浄化療法部 ■病理部（病理診断科） ■光学医療診療部 ■歯科技工室 ■リハビリテーション部 ■中央採液室 ■臨床心理室 ■歯科総合診療部 ■遺伝カウンセリング室 ■外来化学療法室 ■腫瘍センター ■肝疾患相談センター ■漢方診療センター ■てんかんセンター ■HIV対策室 ■緩和ケアセンター ■歯科口腔ケアセンター ■超音波センター ■ME機器センター ■探索的医療開発センター ■外科医療振興センター ■医療器材管理部 ■医療情報部 ■総合臨床研修センター ■医療環境安全部 ■地域医療連携センター ■医療相談室 ■地域医療支援センター ■女性医師等支援センター ■栄養管理室 ■臨床研究管理センター ■看護師特定行為研修センター	■下垂体疾患センター ■ヒトゲノム遺伝子解析センター
消化器センター	消化器内科 消化器外科			
脳・神経センター	脳神経内科 脳神経外科			
呼吸器・ストレスケアセンター	呼吸器内科 呼吸器外科 心身医療科			
腎臓・泌尿器センター	腎臓内科 泌尿器科			
血液・内分泌・糖尿病センター	血液・膠原病内科 糖尿病・内分泌内科 乳腺・甲状腺外科			
メンタルケアセンター	神経科精神科			
小児診療センター	小児科 小児外科			
女性診療センター	産科、婦人科			
整形・運動機能センター	整形外科・リウマチ外科			
感覚器センター	皮膚科 眼科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科			
放射線診療センター	放射線科 顎顔面放射線科			
麻酔全身管理センター	麻酔科 歯科麻酔科			
リハビリテーションセンター	リハビリテーション科			
発達系歯科センター	口腔保健科 矯正歯科 小児歯科			
成人系歯科センター	保存科 歯周病科 冠・ブリッジ科 義歯補綴科			
口腔顎顔面センター	口腔外科 口腔顎顔面外科			

薬 剤 部
看 護 部
臨床技術部
事 務 部



▲医科診療棟



▲歯科診療棟・回復期リハビリテーション病棟



▲医科診療棟



▲歯科診療棟・回復期リハビリテーション病棟

附属動物病院

鹿児島大学共同獣医学部附属動物病院は、学部附属の教育施設であり、将来の獣医師を養成するための重要な教育病院である。動物の診断や治療に関する各種研究活動も行っており、地域獣医療の中核病院としても機能している。診療対象動物は、犬や猫といった伴侶動物の他に、地域性も背景とした産業動物の比率も大きく、この分野における機能が充実した数少ない病院でもある。平成20年には他の獣医系大学では類を見ない軽種馬診療センターも設置し、馬の診療にも対応している。共同獣医学部では国際的な獣医学教育に関する認証取得を目指しており、その一環として動物病院を平成29年に、伴侶動物の診療を行う小動物診療センターと産業動物の診療を行う大動物診療センターへそれぞれ新営、改修設置した。

診療時間	9:00～11:30（予約制） 14:00～16:30（予約制） 19:00～翌6:00（予約制・夜間診療）
月～金曜日	
休診	土曜日 日曜日 祝祭日



▲動物病院建物外観

附属図書館

附属図書館は、中央図書館（郡元キャンパス）、桜ヶ丘分館（桜ヶ丘キャンパス・医学図書館）および水産学部分館（下荒田キャンパス・水産学図書館）の3館で組織されており、教育・研究に必要な学術資料を広い分野にわたり収集し、利用に供している。3館とも、本学の学生・教職員はもとより、一般市民に対しても開放されている。

近年は、ラーニングコモンズとしての機能強化を図るとともに、文献情報データベース、電子ジャーナル等の電子情報資料の整備充実に努めるほか、本学で作成された電子的学術研究成果を国内外に発信する鹿児島大学リポジトリを運用している。

なお、島津久光および玉里島津家の旧蔵書である「玉里文庫」等の貴重書や古書籍等のコレクションも所蔵し、毎年その一部を公開している。

【中央図書館】

開館時間

月～金曜日	土・日曜日
8:30～21:30	10:00～18:00

休館日

国民の祝日、年末年始等（12月27日～1月3日）

施設

鉄筋地上5階地下2階建（平成8年12月竣工）

総座席数 915席 図書蔵書冊数 1,013,885冊



【桜ヶ丘分館（医学図書館）】

開館時間

月～金曜日	土・日曜日
8:30～21:30	10:00～18:00

（偶数月の第1土曜日は14:00～18:00）

休館日

国民の祝日、年末年始等（12月27日～1月3日）

施設

鉄筋3階建（昭和52年4月竣工、昭和56年5月増築）

総座席数 177席 図書蔵書冊数 176,945冊



【水産学部分館(水産学図書館)】

開館時間

月～金曜日	土曜日
8:30～20:00	10:00～17:00

休館日

日曜日、国民の祝日、年末年始等(12月27日～1月3日)

施設

鉄筋2階建(昭和45年2月竣工・平成26年3月改修)
総座席数127席 図書蔵書冊数58,246冊



教育関係共同利用拠点

各国立大学が有するさまざまな教育関係施設の中から、我が国の高等教育の重点分野ごとに、施設を保有する大学以外の大学の学生・大学院生にも質の高い教育を提供する拠点を形成していくために、平成21年9月に認定制度が創設された。国立大学からの申請に基づき、文部科学大臣が認定を行う。

水産学部附属練習船かごしま丸

水産学部附属練習船かごしま丸は、平成22年度に、「熱帯・亜熱帯水域における洋上教育のための共同利用拠点」として文部科学大臣より認定され(平成26年度再認定)、水産・海洋系カリキュラムを持ちながら練習船を保有しない全国の大学に質の高い洋上実習の機会を提供している。平成24年3月には、かごしま丸新船が竣工し、30年にわたり活躍してきたかごしま丸旧船の代船として、平成24年度から共同利用に投入された。かごしま丸新船は、電気推進システムと自動船位保持装置を搭載し、横・斜め移動やその場回頭など特殊操船能力を持ち、防振・防音対策を施したに加え、実験室の拡充により実習環境が大幅に向上した。また、水産・海洋分野の幅広い分野の教育のために搭載した様々な漁具や生物標本採集具、海洋観測装置など最新鋭の設備を活用し、本学および利用大学の学生・大学院生に高度な洋上教育を実施できる。

拠点認定以降、国内の大学の水産・海洋系学部や研究科による利用に加えて、文系学部や放送大学の全国開放型授業、更には水産学部の主な対象域でもある東南アジア域内の大学に国際共同利用されるなど、充実した共同利用が展開されている。



農学部附属高隈演習林

高隈演習林(垂水市)は、森林・林業に関する教育研究のための附属施設として旧制鹿児島高等農林学校時代の明治42(1909)年に開設された。総面積3061ヘクタール(垂水市の19%、本学が所有する土地の84%を占める)の広大な森林は、100年余り前から先人達が築き上げてきた人工林(屋久杉を起源とするスギやヒノキなど)がおおよそ3分の1を占め、残りは南九州を代表する豊かな照葉樹の天然林に覆われている。演習林は主に農学部森林科学コースの学生によって、専門課程の実習や研究等で利用してきたが、平成12(2000)年ごろから専門課程以外の共通教育や他大学の授業で、あるいは地域貢献として児童生徒を対象とした森林環境教育や社会人を対象とした林業技術者教育など、利用の幅が大きく広がっていった。

そこでこれまでの実績を基に、演習林のさらなる有効活用を図るため、平成26年度から高隈演習林は文部科学省より教育関係共同利用拠点到認定された。平成26年度～30年度の5年間で42大学から延べ3011人の利用があった。平成31年度より「鹿児島の自然とくらしと林業をつなぐ学びの森拠点」として共同利用拠点の2期目がスタートし、林業、環境教育、動植物、防災、地域コミュニティー等の多様な分野で多くの利用が計画されている。



ヒトレトロウイルス学共同研究センター

ヒトレトロウイルス学共同研究センターは平成31年4月に鹿児島大学難治ウイルス病態制御研究センターと熊本大学エイズ学研究センターを再編・統合した新しい共同研究センターとして設置された。前身の両センターは、それぞれ20年以上にわたるHTLV-1（ヒトT細胞白血病ウイルス1型）やHIV-1（ヒト免疫不全ウイルス1型）研究の歴史がある。本共同研究センターではこれらのレトロウイルスとは異なる研究領域であるHBV（B型肝炎ウイルス）を加えた3つのウイルスの診断法・治療法の開発を目指した共同研究を実施する。血液や神経の病気の原因となるHTLV-1やHIV-1と肝疾患の原因となるHBVはこれまで研究交流がほとんどなかったが、3つのウイルスは逆転写酵素をもち排除が困難という共通点をもつため、新しい研究体制ではこれまでにない発想による新しい治療法の開発を目指している。HTLV-1感染により、成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)や鹿児島大学で発見・命名されたHTLV-1関連脊髄症（HAM/TSP）を発症するが、これらの疾患に対しては、いまだに有効な治療法が開発されていない。HIV-1感染では、ウイルスの増殖を抑制する抗ウイルス剤が開発されエイズの発症を予防できるようになったが、ウイルスそのものを排除できないため、一生薬を飲み続けなければならない問題が残っている。HBV感染では致死的な肝硬変や肝癌を発症するが、ウイルスを完全に排除する治療法の開発はなされていない。本センターでは基礎研究と医薬品開発の橋渡しを担当するトランスレーショナルリサーチ部門を新設し、抗ウイルス剤と抗がん剤の開発を進めていく。

本共同研究センターでは、従来の共同研究では実施されなかった、教員の共同選考や、大型機器の計画的な導入等の、人的・物的資源の最適化を実施する全国的にも初の試みがなされるため、少子化時代の地方国立大学連携の新しいモデルケースとなる。



▲センター建物



▲センター実験室



保健管理センター

保健管理センターは、学生および教職員の心身の健康の保持ならびにその増進を図ることを目的としている。

センターでは、専任の医師、保健師のほか、学医として学内の各科の専門医（内科、神経科精神科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科）による健康相談業務を行い、さらにカウンセラーとして法文学部と教育学部の心理学の教員および臨床心理士が心理相談にあっており、ソーシャルワーカーによる学生支援もある。

また、卒煙支援の結果解析、定期健康診断の予約システムの確立や診断結果のデータのデジタル化およびその結果解析など、調査研究も活発に行っている。平成25年8月より、桜ヶ丘分室への保健師1名の配置を開始した。

【業務内容】

● 定期健康診断ならびに臨時健康診断と事後指導 ● 心理相談ならびに学生支援・職員支援 ● 一般診療、急性疾患に対する短期的投薬、他医療施設への紹介・受診指導 ● 健康診断証明書発行 ● 健康教育活動（学生・教職員への健康啓発講演会開催など） ● 環境衛生および感染症予防に関する指導 ● 卒煙支援 ● 心肺蘇生法講習会 ● 産業医活動



稲盛アカデミー

昭和30年に鹿児島大学工学部を卒業された稲盛和夫京セラ株式会社名誉会長および京セラ株式会社からの寄付により、平成17年に学内共同教育研究施設「稲盛経営技術アカデミー」として設置し、平成20年に「稲盛アカデミー」へ改組した。

稲盛アカデミーは、「世のため、人のために尽くす高い倫理観と進取の精神を持った『21世紀型市民』の輩出を目標に掲げ、地域社会から望まれるリーダーを育成する」ことを基本理念としている。このため稲盛哲学（フィロソフィ）の探究および継承・発展を基盤に据え、人材育成を目指した教育研究および社会貢献（人間教育、経営教育、地域・国際連携）を展開するとともに、名誉会長創設の国際賞、「京都賞」の受賞者講演会や関係行事などを通じた鹿児島県との連携・協働を図っている。

学内向けプログラム

共通教育科目の提供：「稲盛経営哲学」、「進取の精神」などに関わる科目の開設
国内体験学習や海外研修などの学習機会の提供
京都賞受賞者鹿児島講演会における「鹿児島コロキウム」の開催

学外向けプログラム

「履修証明制度」に基づく社会人向けプログラム「稲盛経営哲学」の実施
「公開シンポジウム」の実施
「稲盛哲学」に関する国内外における研修の支援



総合研究博物館

総合研究博物館は、平成13年4月に旧国立大学では7番目の大学総合博物館として設置された。鹿児島大学とその前身である明治以降の複数の学校で教育や研究に使用された貴重な学術資料を一元的に保存・管理・調査・公開し、これからの教育や研究に資するとともに、鹿児島大学の文化遺産・知的財産に関する情報を社会に広く発信すべく活動を行っている。常設展示のほか、毎年様々なテーマで特別展を開催している。また、ニューズレター・モノグラフ・研究報告の発行など、学内外に向けた出版広報活動と並行して、年に数回、市民講座・研究交流会・公開講座を開き、自然体験ツアーなども行っている。本館が保管している学術標本・資料は、これまでに学内にとどまらず外国も含めて多数の利用があり、これらを利用して得られた成果は学術論文として報告されているほか、学生の卒業論文などにも活用されている。



▲特別展

学術情報基盤センター

学術情報基盤センターは、鹿児島大学の情報基盤を担う中核的組織として、電子計算機システムおよびキャンパス情報ネットワークの運用管理、大学全体の情報セキュリティ対策支援、事業継続計画対策、情報システムの企画・開発・ホスティング・運用、IT 相談等、教育研究全般の情報化支援に積極的に取り組んでいる。

特に、情報セキュリティマネジメントシステムJIS Q 27001 (ISO/IEC27001)の認証を取得し、国際的な情報セキュリティ基準の下、安全な情報サービスを提供している。さらに平成28年度からは、サイバーセキュリティ戦略室が設置され、さらなるセキュリティ対策の強化および、事業継続計画対策、セキュリティ啓発活動、緊急を要するセキュリティ事案への迅速な対応を行う体制を整えている。

また、研究開発を行う情報メディア基盤部門、学術情報処理研究部門、情報システム開発部門の3部門が置かれ、それぞれの部門に属する専任教員が情報通信技術に関する研究開発、情報通信技術を生かした地域との連携、マルチメディア教材の研究開発、情報教育支援体制の整備による学内部局との連携、学術情報データの蓄積と発信に関する研究開発を推進するとともに、学内の教育研究の高度情報化に指導的な役割を果たしている。



埋蔵文化財調査センター

鹿児島大学では、郡元キャンパス・桜ヶ丘キャンパス・唐湊学生寮・指宿植物試験場・入来牧場に埋蔵文化財が包蔵されていることが確認されている。埋蔵文化財調査センターは、学内の施設整備事業等によって影響を受けるこれらキャンパス内遺跡の保護対策を講ずることを目的として設置されている。センターの主な事業としては、校舎建設等工事に伴う発掘調査などの調査研究の実施や、調査報告書の作成、出土遺物の管理や活用などである。また、学内遺跡における研究成果公開の取組として、一般市民向けの体験発掘や遺跡見学会、公開講座などを開催している。



▲発掘調査の様子

環境安全センター

大学は高度で専門的な教育・研究活動が行われる場であり、新しい発見、有用な成果、人材育成により社会の発展に貢献している。その一方で、多種多様な廃棄物も発生しており、特に、実験廃液には危険性・有害性が高い性状のものも多くある。これらの安全・適正な取り扱いと処理は一事業場として当然のことであるが、万一問題が発生した場合には、個人として、そして組織として、迅速かつ適切に対応し、原因解明と再発防止に努める必要がある。

環境安全センターでは大学の教育・研究活動の結果生じる有害廃棄物の管理に関することおよび、実験排水の管理に関することについて全学から情報を集約し、安全・適切な管理を行えるよう体制を整備し、事故防止に貢献するとともに、学生・教職員に対し、適切な教育・指導・助言を行うことで安全・環境に関する高い知識と意識を持った人材の育成に貢献している。

北米教育研究センター

米国カリフォルニア州サンフランシスコに、海外拠点として北米教育研究センターを置いている。平成16年に産学連携ベンチャービジネス部門のシリコンバレー・オフィスとしてスタートし、平成20年に全学組織へと発展した。平成23年には、本学のランチ・オフィスとしてカリフォルニア州における法人登記を行い、名実ともに海外拠点としての体制を整えた。センターは、1)学生海外研修やインターンシップの実施、2)北米における大学や企業等との連携、3)ベイエリア地区に拠点を置く日本の大学間ネットワークであるJUNBAへの参加、情報交換などを行っている。



▲カリフォルニア学生海外研修の様子

フィリピン大学ビサヤス校リエゾン・オフィス

鹿児島大学水産学部のキャンパスに、同学部と学術交流協定を締結しているフィリピン大学ビサヤス校(UPV)の日本オフィスが平成18年4月に開設された。水産学部のフィリピン・オフィスは平成18年2月にUPVのミアガオ・キャンパスに開設されており、平成19年12月には両者の協定は大学間協定に改定された。大学間協定大学とリエゾン・オフィスを相互に開設するのは、鹿児島大学としても初めてである。

水産学部は、平成10年度から「フィリピンにおける水産資源と水圏環境の管理と保全に関する研究」をテーマに、UPVと拠点大学方式による研究交流を行ってきた。さらに、平成20年度から「水圏環境の保全と管理」を主なテーマとした、アジア研究教育拠点形成という国際的な事業を行った。その結果、研究交流が各教員レベルに根付いており、平成27年度から開始された「熱帯水産学国際連携プログラム」などによる大学院生の交流も活発化している。



▲フィリピン大学ビサヤス校

稲盛アカデミーベトナム事務所

平成19年に鹿児島大学はベトナム社会主義共和国ハノイ市のベトナム社会科学院と学術交流協定を締結し、その後、ベトナムにおける教育研究及び社会貢献に係る国際活動を推進するために、ベトナム社会科学院から施設の提供を受けて、平成21年6月に稲盛アカデミーベトナム事務所が開設された。

ベトナム事務所には客員教授を配置し、(1)ベトナム社会主義共和国における本学の学生及び職員の教育、研究、研修等、(2)ベトナム社会主義共和国内の大学との共同研究、(3)ベトナム社会主義共和国学生の日本への留学支援、(4)その他ベトナム社会主義共和国における教育、研究および社会貢献に係る国際活動を推進するなど、国際的な交流活動を行っている。



▲この建物の11階に事務所が入っている

鹿児島大学奄美群島拠点

奄美群島拠点は、鹿児島大学の機能強化の一環として、奄美群島における地域活性化の中核的拠点として教育、研究及び社会貢献活動を推進し、地域課題を解決することを目的として設置された。この拠点は、(1)国際島嶼教育研究センター奄美分室、(2)奄美島嶼実験室、(3)奄美サテライト教室、(4)徳之島サテライト教室、(5)与論水産実験室の5つの施設から構成されている。

国際島嶼教育研究センター奄美分室(奄美市)

国際島嶼教育研究センター奄美分室は、奄美群島拠点の5つの施設の中で唯一教職員が常駐しており、奄美群島拠点の中核的施設である。平成27年4月に奄美市名瀬の旧名瀬保健所跡に設置された後、平成31年4月に奄美市名瀬の奄美群島大島紬会館6階に改めて設置された。奄美分室内には、教職員スペースのほかに、中学生・高校生に鹿児島大学や大学生活を紹介するスペースや奄美群島の社会・文化・自然などに関連する書籍を準備し、教育・研究及び地域貢献を推進することを目的としている。また、この施設の近くには、奄美島嶼実験室(名瀬公民館金久分館内)や教職員・学生が利用できる宿泊所(名瀬長浜町)がある。



▲分室内の大学紹介スペース

奄美サテライト教室(奄美市)・徳之島サテライト教室(徳之島町)

平成16年度、全国にも例のない離島でのサテライト教室が奄美市(旧名瀬市)に設置された。離島地区に高度専門教育サービスを提供することを目的として、平成19年度には徳之島町にもサテライト教室が開設された。

科目等履修生を中心にした受講生とサテライト教室出身の正規大学院生が集まり、熱心な授業が継続的に行われている。特に、人文社会科学系研究科では、サテライト独自の講義科目「奄美プロジェクト研究」を開設し、離島の受講生のキャリアアップに役立てるような講義テーマを設定している。



▲授業風景



◆本学の特徴ある研究

(1) 地域社会の課題解決につながる研究

① 島嶼

国内外島嶼地域における自立的発展に寄与する研究の推進

鹿児島大学はその創立以来、鹿児島県下の島嶼域はもちろんのこと東南アジアや南太平洋の島々をフィールドとした研究が各学部で独自に行われてきた。このような歴史的伝統を踏まえ、南九州からアジア・太平洋諸地域などの産業振興、医療と福祉の充実、環境の保全、教育・文化・情報環境の改善や向上など、地域や国際社会の発展に貢献するとともに、世界水準の教育・研究拠点となることを目指し、次の3プロジェクトとデータベース作成が行われている。

【環境変動に適応する「国際島嶼教育研究拠点」形成プロジェクト】

自然や社会の環境変化の影響を受けやすい島嶼域の教育研究機関や行政と連携し、国際的な島嶼教育研究拠点を形成する。平成30年度は奄美市や奄美群島広域事務組合と連携し、奄美市においてシンポジウム「奄美群島における産業の振興－現状・課題・展望－」を開催した。

【島に生きる「島嶼社会」生活力向上プロジェクト】

人々の生活に関わる社会、歴史、文化、医療、情報等の研究テーマを調査分析し、その相互関係も含めた総合的な生活力向上の改善策を構築する。平成30年度はトカラ列島・甑島列島において総合調査を行った。

【島嶼地域発展のための適応策構築プロジェクト】

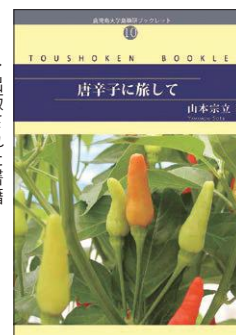
県内島嶼域の農林畜産水産資源の探索、機能性成分の分析などを通じて地域産業の発展や振興策を構築し、そのための人材養成を行う。平成30年度は人材養成を目指し2冊の鹿児島大学島嶼研ブックレット『唐辛子に旅して』と『国外外来種の動物としてのアフリカマイマイ』を出版した。

【多島域データベース】

鹿児島県南部の島嶼に関する文献データベースである「薩南諸島データベース」、国際島嶼教育研究センターの出版物データベースである「島嶼研出版物データベース」、奄美群島の自然科学系文献を対象にした「奄美生物多様性文献データベース」から成る『文献データベース』と鹿児島県島嶼統計資料から成る『資料データベース』を作成している。



▲シンポジウム「奄美群島における産業の振興－現状・課題・展望－」の様子



▶出版された書籍
『唐辛子に旅して』

② 環境

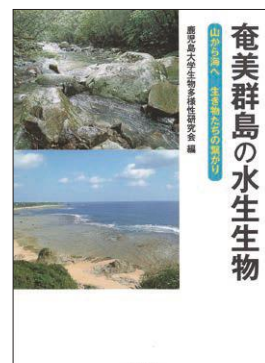
世界自然遺産に登録された屋久島と世界自然遺産登録を目指している奄美地域を抱える鹿児島の豊かな自然環境と文化に関して、地域とともに問題解決を模索する研究である鹿児島環境学プロジェクトと、生物多様性に関する全学的な研究を推進する生物多様性プロジェクトを進めている。

鹿児島環境学プロジェクトでは、世界自然遺産の価値を損なうことなく育んできた奄美地域の人々の暮らしや伝統文化に焦点を当て、「奄美の環境文化」という視点から奄美大島の地域住民との共同研究を実施している。平成29年度には足元の環境文化を考える手探りのシンポジウム(龍郷町)を、平成30年度には集落間、世代間、集落内外(移住者)との対話を通じて集落活動や伝統行事の持続性と環境文化を考えるシンポジウム(大和村)を開催した。その成果は記録集として各方面に配布するとともに本学HPに掲載し、奄美地域の人々が広く環境文化を考える契機を提示した。また、希少野生動物を捕食しているノネコ(野生化したネコ)に関する4年間の活動成果を地域関係者の協力を得て書籍にまとめ、「奄美のノネコ猫の問いかけ」と題して出版した。

生物多様性プロジェクトでは、文科省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」等の研究者と協力して、陸上、水中の各種生物について以下のような研究を行った。森林動態の調査、移入種の分布調査、アマミクロウサギへの観光の影響、アリ類、陸産貝類、魚類、海藻・海草、サンゴ類、カニ類、貝類、ゴカイ類等の分布調査を行った。それらの成果は、平成31年3月の奄美における「奄美群島の海と川の生き物たち」のシンポジウム、書籍「奄美群島の水生生物」、多くの魚類、貝類、植物などの論文、学会発表として発表した。教育活動として、水生生物の観察会や、延べ6日間の「奄美群島の植物教室」を開催した。また鹿大の保存資料のデータベース化を進め、植物標本の公開数は十万点を越えた。



▲鹿児島環境学研究会編集の「奄美のノネコ猫の問いかけ」



▲成果出版物「奄美群島の水生生物」

③ 食と健康

南九州、鹿児島を中心とした地域は、温帯から亜熱帯の気候と島嶼圏を擁する豊かな自然に恵まれ、日本における食料供給の重要拠点である。同時に、アジアにおける食料生産や食文化において、歴史的に重要な地理的特徴を有した地域といえる。日本では少子高齢化社会が急速に進行中で食料の需要量の減少が見込まれるが、世界ではアジア圏などで急激に人口が増加することが明らかであり、食料供給ならびに食による健康的な生活を実現することは今後の大きな課題である。

「食と健康」プロジェクトでは、南九州に特徴のある農水産食品の健康機能性について、科学的な研究により生活習慣病予防や老年症候群等との関連を明確にする。また、農畜水産業の技術課題の解決と、これら事業を取り巻く社会環境の変化に対応する資源循環型持続的農漁村の再構築および安全な食生活を可能とする食育教育を推進する。これら地域と連携して行う学術研究の成果を応用して、アジア圏や地域の食を通じた、健康的な生活基盤の構築や農畜水産業に関わる地域食産業の振興に貢献すると同時に、国際的な研究拠点となることを目標とする農学・水産学・理工学・教育・医歯学など各研究科を連携した全学的研究・教育プロジェクトである。

【平成30年度実績】

■薩摩黒膳弁当「お弁当・お惣菜大賞2019」優秀賞受賞(全国スーパーマーケット協会主催)

■第5回機能性食と健康シンポジウム開催

■黒糖焼酎・芋焼酎機能性研究



④ 水

「水の未来を考える～地域における人と自然と水の関わり～」の視点から、地域の水利用や水源開発・保全、火山地域の水の流れ、豪雨地域の土砂・洪水災害、および南九州における水環境汚染など、鹿児島特有の水に関わる課題に対して、学内の学際的共同研究のもと研究を推進している。

課題「水資源と利水」では、鹿児島の特徴的な水資源である池田湖および島嶼域の地下水や農業水利に関して、質と量の地域課題を把握し、水文科学的検討を加えている。また、小規模溜池の灌漑利用に関して、奄美群島における過去の経験をフィリピンでの稲作利用に応用する可能性について社会経済的考察を加えている。

課題「水と災害」では、近年の気候変化に伴い、記録的な豪雨が各地で発生しており、大規模な土砂・洪水災害が目立っている。そこで、降水の流出機構を明らかにするとともに、大規模な土砂災害を引き起こす深層崩壊の発生箇所の予測、警戒対応等に関する理工学的研究を推進し、地域防災力の向上を図っている。

課題「水と生活」では、鹿児島県における赤潮・アオコの実態調査を行い、水域の富栄養化対策について検討を加えている。



▲鹿児島の「水」研究成果

⑤ エネルギー

バイオマス、太陽光、海洋エネルギーなど再生可能エネルギーを生産する実用技術の開発と、分散型再生可能エネルギーの利用システムの確立により、地域再生、環境保持、農工連携などの課題に対するソリューションを創出することを目的として、以下の分野での研究を推進している。

バイオリアファイナリー技術開発：バガス等からバイオ燃料油を製造するプロセス技術の確立をめざし、産官学での共同プロジェクトを実施してきた。また、鹿児島島の離島振興、農業畜産振興など地域再生に結びついたバイオマス活用ビジネスモデル検討を農工連携で進めている。

太陽光発電システムの高度利用・高効率化：国および県の研究機関や企業と火山降灰・微粉塵等対策用太陽電池モジュールについて検討するとともに、モジュール上への積灰の抑制と発電量最大化の実現を目的として、降灰による発電量低下特性を明らかにするための実験を行っている。

バイオガス改質プロセスを利用した水素製造とCO₂の分解：多孔質酸化物質イオン導電体からなる電気化学反応器を用い、低温での水素製造を実証した。シラス系多孔体による混合ガス中の水素の濃縮を確認した。低熱伝導性のゼオライト複合多孔体材料を開発した。

海洋エネルギー発電：日本周辺の豊富な海洋エネルギーに注目し、潮流や海流などの流れを利用した海洋エネルギー発電の適地調査や発電装置が流れの場には及ぼす影響評価を行っている。また、任意の時刻の黒潮の流れや水温等をHP(http://dr_e.oce.kagoshima-u.ac.jp/wvp_fore/)で公開している。

再生可能エネルギーによる地域防災：再生可能エネルギーの分散型供給システムによる地域利用について検討した。また需要側である住宅について、省エネルギーの新しい技術の評価検証に着手した。



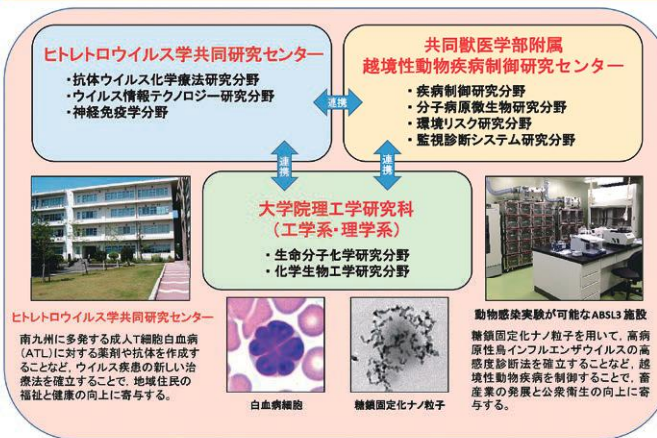
▲再生可能エネルギーについての取り組みを紹介しています

(2) 国際水準の卓越した研究

⑥ 先進的感染制御(難治性ウイルス疾患、人獣共通感染症等)

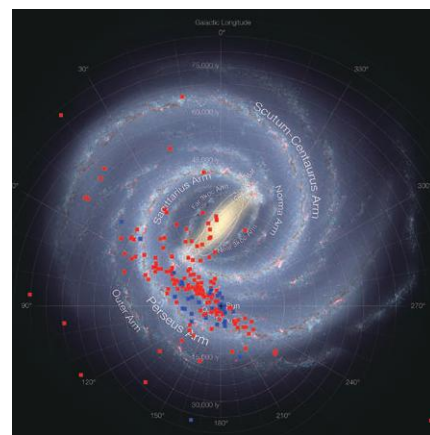
ヒトレトロウイルス学共同研究センター、共同獣医学部附属越境性動物疾病制御研究センター、そして大学院理工学研究科の研究分野の一部が連携することで、感染症制御に関する新しい学際的研究を実施している。特に、HTLV-1や鳥インフルエンザウイルスなど、鹿児島地域において脅威となる感染症に対し、診断・予防・治療に関わる先進的な研究を展開する事によって防御体制を構築し、地域住民の福祉と健康の増進を図るとともに、地元畜産業の発展と公衆衛生の向上にも寄与するような、感染症に関する国際レベルの研究を目指している。本学ではこれまでに、医学分野においてHTLV-1やそれによって起こる成人T細胞白血病や中枢神経疾患のHAMに関する卓越した研究業績があり、また、獣医学分野では鳥インフルエンザのサーベイランスや各種ウイルスの病原性解析、感染実験動物モデルの構築に多くの実績がある。

鹿児島大学先進的感染制御研究拠点(構想)



⑦ 天の川銀河

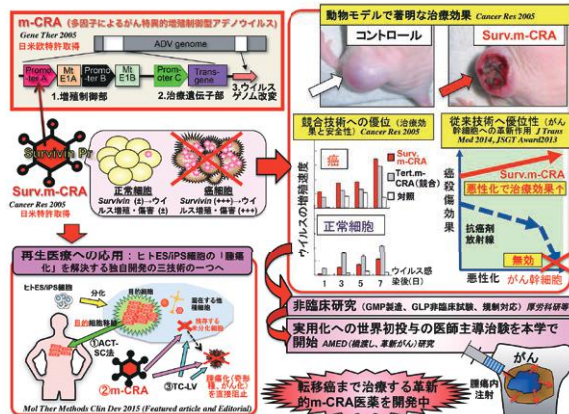
七夕伝承でおなじみの天の川は、数千億もの星々が集まった直径10万光年にも及び天体で、太陽系はそこにある。宇宙には、同種の天体である銀河が無数に存在するが、内部を3次元的に詳しく調べることができるのは天の川銀河だけである。鹿児島大学では、天の川銀河の構造・内部運動、そこで起こる恒星・惑星の形成や末期の恒星が起こす種々の現象などについて、世界トップレベルの研究を行っている。満月の見かけの直径の2億分の1の精度で天体の方向を測定できるVERA望遠鏡を用いて、国立天文台と共同で種々の天体までの距離や運動を観測し、天の川銀河の構造・運動の解明に大きな貢献をしている。できかけの恒星から噴出するガスが螺旋運動をしていることも世界で初めて明らかにした。薩摩川内市入来にある20mアンテナはVERA望遠鏡の構成要素で鹿児島大学が運用している。その隣には鹿児島大学1m赤外線望遠鏡があり、周期的に明るさが変わる星を観測して距離を求める研究を行っている。これに加えて、国内外の種々の望遠鏡を用いて様々な天体を詳細に観測し、天の川の完全理解に挑戦している。



▲VERAの観測で得られた電波天体の分布(青)と鹿児島大学1m鏡によって得られた赤外線天体の分布(赤)(背景画像はNASAによる想像図)

⑧ 難治性がん

腫瘍溶解性ウイルス(OV)による遺伝子・ウイルス治療は、欧米で新薬承認され、革新的がん治療薬として世界的に期待されている。従来のOVの性能を凌ぐ「多因子によるがん特異的増殖制御型アデノウイルス(m-CRA)」作製法を独自開発し、がん制圧へのm-CRA医薬開発の研究を進めてきた。第一弾のSurvivin反応性m-CRAは、競合技術の性能を大きく凌ぎ、従来技術が治療できないがん幹細胞まで効果的に治療可能という、革新的治療作用を示した。種々の大型競争的研究にて、非臨床研究(GMP製造、GLP非臨床試験、規制対応)を進め、医療研究開発機構(AMED)の「橋渡し」と「革新がん」の二つの大型研究にて、平成28年度にFirst-in-human(患者さんへ世界初の投与)の医師主導治験を本学で開始する(現在順調に進行中)という、政策の「がん10か年戦略」の目標達成に貢献する大きな成果を上げた。さらに転移がんも含めたがん制圧の新規m-CRA治療法の研究開発、またヒトES/iPS細胞の再生医療の最大障壁の腫瘍化を克服する新技術開発にも成功し、「橋渡し」や「革新がん」などの複数のAMED事業に新たに採択された。本研究は高い科学的意義のみならず、革新的がん治療薬の実用化という社会的意義を持つ、重要プロジェクトである。本学発の先端医療シーズを実用化まで切れ目なく開発支援する「南九州先端医療開発センター」の整備にも貢献している。



▲難治性がんへの革新治療法となる遺伝子・ウイルス治療の独自開発と実用化

◆かごしまルネッサンスアカデミー

鹿児島大学では、平成18年度から22年度の間、文部科学省科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」による補助事業として、「食の安全管理コース」、「経営管理コース」、「健康・環境・文化コース」の3コースによる人材育成プログラム「かごしまルネッサンスアカデミー」を実施し、総計250名の修了者を地域に送り出してきた。

平成24年度からは、この成果を受け、後継事業として、部局等が企画・実施する「履修証明制度」に基づく社会人向け人材養成プログラム（焼酎マイスター養成コース、林業生産専門技術者養成プログラム、稲盛経営哲学プログラム、食品管理技術者養成コース）を、新しい「かごしまルネッサンスアカデミー」として継続して実施し、プログラムの内容と質を保証している。



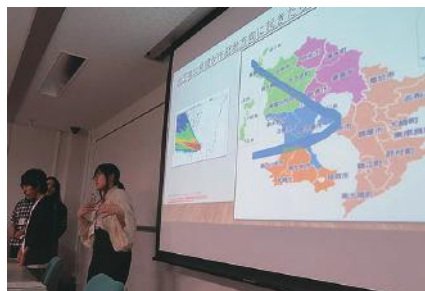
▲講義（焼酎マイスター養成コース）

◆大学地域コンソーシアム鹿児島

「大学地域コンソーシアム鹿児島」は、鹿児島県内12の高等教育機関が相互に連携・協力し、高等教育の質的向上を推進することにより、地域の教育および学術研究の充実・発展を図るとともに、魅力ある高等教育づくりと活力ある地域づくりに貢献することを目的として、平成21年1月6日に設立された。現在、「教育連携」「高大連携」「FD・SD活動」「教員免許状更新講習」「産学官連携」の5事業部会を置き、活動を行っている。

＜構成大学等＞

鹿児島大学、鹿屋体育大学、鹿児島国際大学、鹿児島純心女子大学、志学館大学、第一工業大学、鹿児島県立短期大学、鹿児島純心女子短期大学、鹿児島女子短期大学、第一幼児教育短期大学、鹿児島工業高等専門学校、放送大学鹿児島学習センター



▲かごしま教養プログラム



▲かごしまフィールドスクール

◆文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」

COC+事業：食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム（平成27年度採択）

＜事業目的＞

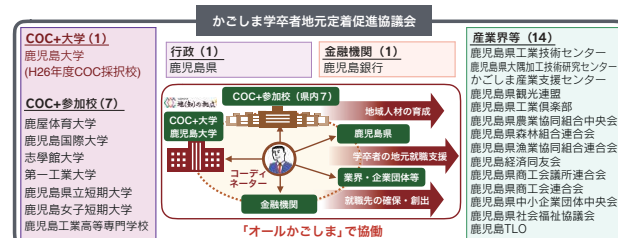
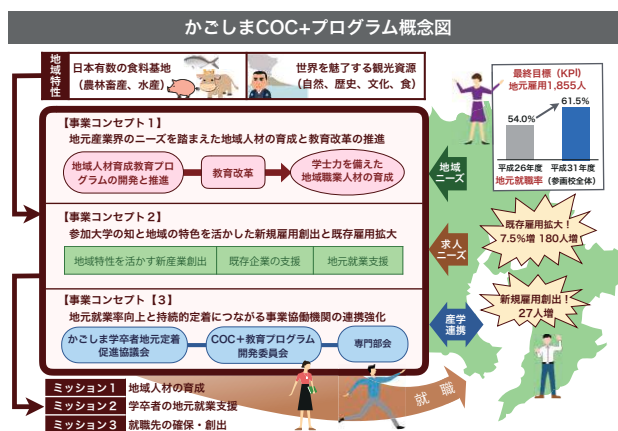
COC+事業は、大学が地方公共団体や地元企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出するとともに、教育改革を通じて地域が求める人材を養成し、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的としている。

＜事業コンセプト＞

- ①地元産業界のニーズを踏まえた学卒者の地元就業率向上につながる教育改革の推進【地域人材育成】
- ②参加大学の知と地域の特色を活かした新規雇用創出と既存雇用拡大【地元就業先確保・拡大および地元就業支援】
- ③学卒者の地元就業率向上と持続的定着につながる事業協働機関の連携強化【「オールかごしま」による協働】

＜事業の推進＞

COC+大学である鹿児島大学では、産学・地域共創センター連携推進部門COC+グループを中心に、本学独自の地域キャリア教育プログラムの構築や課題解決型インターンシップなどを実施するとともに、COC+参加校と鹿児島県、金融機関、地域産業界等の事業協働機関（右図）と連携して、地域人材育成及び地元就職支援を中心に、公開講座・地元企業見学バスツアー・COC+推進フォーラムなど、さまざまな取組を展開している。



男女共同参画推進センター

男女共同参画推進センター（愛称"muse篤姫"）は、教育・研究機関として、男女共同参画のもとに社会貢献を続けることができる人材を育成・支援し、個々を尊重するとともに、一人ひとりが個性と能力を発揮できる大学を実現するため、意識啓発、ワーク・ライフ・バランス支援、男女共同参画の視点に立った教育、研究、就業環境の整備、学外関係機関との連携により、男女共同参画を推進している。

センターのキャッチコピー
「一人ひとりが伸びやかに 自分らしく輝くために」



就職支援センター

全学的な就職支援に関する企画立案および実施の充実を図ることを目的として設置された就職支援センターは、学部や研究科、学年を問わず、学生のキャリア観を育成し、主体的かつ適切な進路選択を支援するため、主に次のような業務に取り組んでいる。

- (1) 就職支援戦略に関すること
- (2) 就職支援に関すること
- (3) キャリア教育支援に関すること
- (4) 就職支援に係る広報に関すること
- (5) その他本学における就職に関すること



ボランティア支援センター

ボランティア支援センターは、平成20年7月に設置され、学生が様々なボランティア活動に参加し、地域との関わりを持つことで人間力を高め、学生による地域貢献や地域の活性化を図るため、ボランティア教育への支援や災害発生時の復旧支援活動、ボランティアに関する情報の収集・提供、ボランティア関係機関・団体との連絡調整、災害支援ボランティア活動を行う学生に対する活動費の一部助成などの業務を行って、学生がボランティア活動に参加しやすい環境を設けて支援している。



障害学生支援センター

障害学生支援センターでは、つまづきを感じている学生や障害を有する学生および保護者、担当教員からの修学に関わる相談に応じている。専任教員および事務職員が常駐し、障害を有する学生への支援を円滑に実施するため、各部局や保健管理センターと連携を取りながら、必要であれば、支援申請書の提出や修学支援会議を実施し、障害を有する学生が自分らしく豊かな学生生活を送ることができるように、支援を行っている。



URA センター

URAとは、University Research Administratorの略で、研究者とともに研究活動の企画・マネジメント、研究成果活用促進を行うことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する高度プロフェッショナル人材のことである。

URAセンターは、平成29年10月に設置され、現在4名のURAが、それぞれの専門性やこれまでのキャリアを活かし、「本学の研究力の調査分析」、「科学研究費助成事業等外部資金の獲得支援」、「分野横断型研究プロジェクトの創出支援」、「若手研究者研究支援」、「国際共同研究の推進・ネットワーク形成等に関する支援」、「研究者からの研究推進に関する個別相談」等、研究者が国際的に高い水準で研究できるような各種支援活動を実施している。

インフォメーションセンター

インフォメーションセンターは、一般市民、受験生や企業の方々との交流拠点として平成19年4月、正門に付設された。鹿児島大学の教育・研究・社会貢献活動の概要の紹介、各種イベント等の案内、研究成果物の展示を行っている。スタッフが常駐し、市民が利用できる施設の案内、学部・研究科等の概要や広報誌等の配布、入試問題の閲覧、鹿大ブランド焼酎、オリジナルグッズ、農学部附属農場生産物等の販売を行うほか、大学紹介DVD等の視聴が可能。



開 館 時 間	月～金曜日(祝祭日等除く)	9:30～16:30
販 売 物	鹿大ブランド焼酎、オリジナルグッズ、ねじめびわ茶、寮歌・学部歌集(CD)、全国藩校サミット鹿児島大会冊子、竹炭製吸臭・調湿材、農学部附属農場生産物、オリジナルブレンドハーブティ、研究書籍、長命草シリーズ、サツマ黒味噌	
主な展示物	水産学部ツナ缶詰、ポストカード、鹿大ロゴ入り焼酎栓「とめもんそ」(教育学部技術科制作)	

歴史展示室

鹿児島大学歴史展示室は、開学60周年を記念して平成21年11月に中央図書館1階に設置された。同室は、本学の源流である藩学「造士館」(1773年創立)及び医学院(1774年創立)から、現在の鹿児島大学の前身である第七高等学校造士館や鹿児島高等農林学校などを含めた237年の歴史を紹介している。第七高等学校造士館時代の寮報やのぼり、鹿児島高等農林学校時代の学生が残した卒業論文、昭和40年代に使われた計算尺など、約20点を展示している。また、情報閲覧用モニター2機を設置し、広報誌等が閲覧できる。



開 館 時 間	月～金曜日	8:30～21:30	休 館 日	国民の祝日 年末年始等(12月27日～1月3日)
	土・日曜日	10:00～18:00		

総合研究博物館常設展示室(国登録有形文化財)

鹿児島大学には数多くの学術資料が蓄積されている。総合研究博物館常設展示室はその学術資料を展示公開するための施設である。

建物は昭和3(1928)年に鹿児島高等農林学校の図書館書庫として建てられたもので、当初の雰囲気を残しながら改装して開設している。初期の鉄筋コンクリート建物で、また学校施設としても最も古いものであることが評価され、国の登録文化財としての認定も受けている。

現在、常設展示室では鹿児島大学の歴史にかかわる考古学資料・教育研究史料、鹿児島の自然史にかかわる化石・鉱石資料を中心に展示しており、観覧は学内外に関係なく自由に利用できる生涯学習施設としての役割も果たしている。



▲常設展示室外観

▲展示室内

開 館 時 間	午前10時～午後5時	休 館 日	毎週月曜日・日曜日・祝日・年末年始 (その他、臨時休館・閉館あり)	観 覧 料	無 料
---------	------------	-------	--------------------------------------	-------	-----

稲盛会館

稲盛和夫京セラ(株)名誉会長(昭和30年(1955年)鹿児島大学工学部卒)から工学部創立50周年記念事業(平成7年)の際に寄贈されたもので、教育および学術の交流の場として本学の職員その他の関係者の利用に供することにより、本学の教育・研究の進展に資するとともに、学術および文化の向上に寄与することを目的としている。この建物は日本を代表する著名な建築家 安藤忠雄氏の設計によるもので、非常にユニークな構造であり、特に中央のキミ&ケサ メモリアルホールは卵型で、講演会・式典などに利用されている。



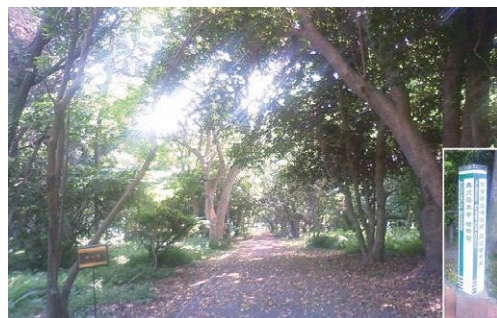
日本を代表する著名な建築家
安藤忠雄氏の設計
(地下1階～地上3階建、建面積810.40㎡、
延面積1,628.85㎡ 平成6年10月竣工)

キミ&ケサ メモリアルホール
(稲盛名誉会長のご両親の名前に由来)

植物園

鹿児島大学植物園は、明治42(1909)年鹿児島高等農林学校の開校に際し、初代校長玉利喜造の命により計画された。そして10年後の大正8(1919)年頃、約1ヘクタールの分類式花壇として完成した。第二次世界大戦の戦災によって壊滅的な被害を受けたが、戦後まもなく学生や教職員の手により整備が図られた。この頃から「林園」と呼称され、農学部林学科(現・森林科学コース)学生の樹木実習の場として利用されてきた。この間、初島住彦教授らにより主に南西諸島の樹木の植え込み、整備が行われ、現在の植物園の特色が形づくられた。

植物園には南九州の植物や南西諸島固有の植物、そして戦前に植栽された北アメリカなどの外国産の樹木も多数植栽されている。樹木の種類は昭和54(1979)年の調査では659種が確認されている。その後も定期的な樹木の調査や位置図の作成、映像記録の蓄積等が行われ、平成16年にはこれらの記録をまとめて「鹿児島大学植物園の樹木たち」が刊行された。植物園には、豊富な樹種を目当てに種々の渡り鳥たちが集い、地域の方々も散歩や自然観察に訪れている。キャンパス内の緑のオアシスに是非足を運んでいただきたい。



学習交流プラザ

学生、教職員等が相互に交流を深めることにより、学生の進取の精神を育み、活気ある交流と情報交換を促進することを目的として、平成25年10月に設置された。

グループ学習室、学習ラウンジおよび学習交流ホールがあり、飲食もできるなど多様な学習形態に対応している。また、学生の自学自習をサポートするための書店や売店も併設されている。

〈施設名及び用途〉

階 別	施 設 名	用 途 等
1 階	ライフサポート フードコーナー 学習ラウンジ1 スタディサポート	売店 軽食・喫茶等 学習、休憩、談話等 文具、書籍、福利厚生関連商品の販売等
中2階	学習ラウンジ2 学習ラウンジ3 学習交流ホール グループ学習室	学習、休憩、談話等 学習、休憩、談話等 学習、講演会、研修、会議等 学習、研修、会議等
2 階	学習ラウンジ4	学習、休憩、談話等



食 堂



中央食堂



郡元南食堂

施 設 名	延 面 積	席 数	所 在 地
中 央 食 堂	1,347㎡	638席	郡 元 地 区
軽 食 堂 (ガロア)	121㎡	59席	郡 元 地 区
郡 元 南 食 堂	882㎡	222席	郡 元 地 区
フードコーナー(学習交流プラザ)	530㎡	188席	郡 元 地 区
桜ヶ丘 食 堂	518㎡	252席	桜ヶ丘地区
水産学部食堂	350㎡	130席	下荒田地区

大学会館

学生相互ならびに学生と職員間の人間関係を緊密にし、かつ、学生の教養を高め、豊かな人間性・社会性を涵養するための課外教育活動を盛んにし、また、その厚生福祉に寄与することを目的に、昭和47(1972)年3月に設置された。

開館時間は午前9時から午後9時まで、休館日は日曜日・祝日および12月29日から翌年1月3日までとなっている。



階別	施 設 名	用 途 等
1	軽 食 堂	喫茶、食事 (59席)
	理 髪 室	理髪 (3台)
	共 用 談 話 室	休憩、談話 (48人)
2	音 楽 鑑 賞 室	音楽鑑賞 (51人)
	会 議 室 (1・2)	会議、研究会等(42人・20人)
3	和 室 (1～5)	会議および邦楽、茶道・華道等の練習
	ホ ー ル	音楽会、講演会、研究会等(300人)
4	音楽練習室(1・2)	音楽等練習

課外活動施設

課外活動(サークル)は、大学教育における人間形成の上で非常に有益であり、各キャンパス毎に課外活動施設を有している。体育系サークルが利用する体育施設、文化系サークルが主に利用する学生会館以外に、平成14年3月に設置された学生サークル会館Ⅱ、平成25年10月に改築された学生サークル会館Ⅰなどがある。

学生サークル会館ⅠおよびⅡは、サークル間の交流・連携の場として、防音設備完備の音楽練習室、シャワー室、共用ラウンジ、共用ミーティング室、多目的ホールおよびサークル室等を配置し、文化系、音楽系、体育系合わせて約120サークルが使用している。

施設名	所在地	備考
学生サークル会館Ⅰ・Ⅱ	郡元地区	文化系・音楽系・体育系サークル
馬房(厩舎)	郡元地区	馬術
磯艇庫	磯海岸	ボート
鴨池艇庫	鴨池臨海地	カッター



体育施設(体育館等)



施設名	所在地	備考
陸上競技場	郡元地区	400mトラック、夜間照明あり
球技場	〃	夜間照明あり
亀ヶ原運動場	桜ヶ丘地区	野球場
桜ヶ丘グラウンド	〃	サッカー・ラグビー場
テニスコート	郡元地区	8面、夜間照明あり
〃	桜ヶ丘地区	7面
第1体育館	郡元地区	1,122㎡
第2体育館	〃	2,461㎡
桜ヶ丘体育館	桜ヶ丘地区	1,072㎡
武道館	郡元地区	391㎡
医・歯学部課外活動施設(武道場)	桜ヶ丘地区	451㎡
弓道場	郡元地区	39m×14m
〃	桜ヶ丘地区	38m×12m
室内プール	郡元地区	50m(7コース)

学生寮



棟名	区分	面積(㎡)	延面積(㎡)	収容定員(人)
唐湊寄宿舍	A棟	鉄筋5階建	1,412	76
	B棟	〃	1,568	92
	C棟	鉄筋2階建	629	64
	女子寮	鉄筋4階建	1,627	81
	共用棟	鉄筋1階建	317	
桜ヶ丘寄宿舍		鉄筋5階建	2,693	99
合計			8,246	412

国際交流会館

国際交流会館は、鹿児島大学の外国人留学生および本学において教育・研究に従事する外国人研究者に対し居住の場を提供し、国際交流の促進に資



することを目的に1号館が昭和54(1979)年4月に、2号館が平成6年10月に、3号館が平成25(2013)年4月に設置された。

(1号館)

室名	面積(㎡)	室数
単身室	12	35室
夫婦室	39	3室
家族室	59	2室
主事室	14	
事務室	16	
談話室	47	
娯楽室	94	
和室	25	
補食室	5~12	4室
浴室	5~8	4室
洗濯室	10	4室
管理人室	52	
倉庫	7	

備考:延面積/1,430㎡ 建物構造/RC4

(2号館)

室名	面積(㎡)	室数
単身室	12	30室
夫婦室	40	6室
家族室	56	4室
補食室	11	4室
洗濯室	11	4室
ラウンジコーナー	49	
応接コーナー	14	

備考:延面積/1,259㎡ 建物構造/R4

(3号館)

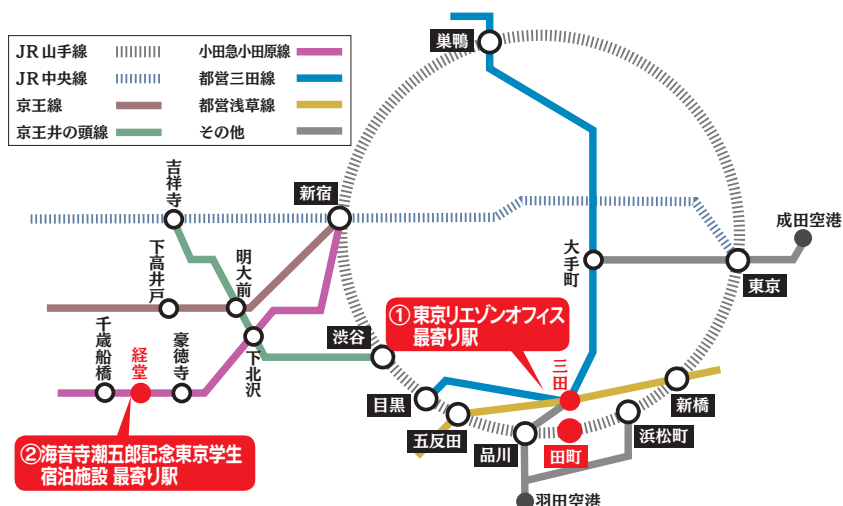
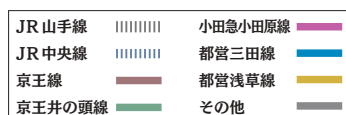
室名	面積(㎡)	室数
単身室	15.6	57室
洗濯室	31.2	5室
応接コーナー	15.6	1室

備考:延面積/1,507㎡ 建物構造/RC5

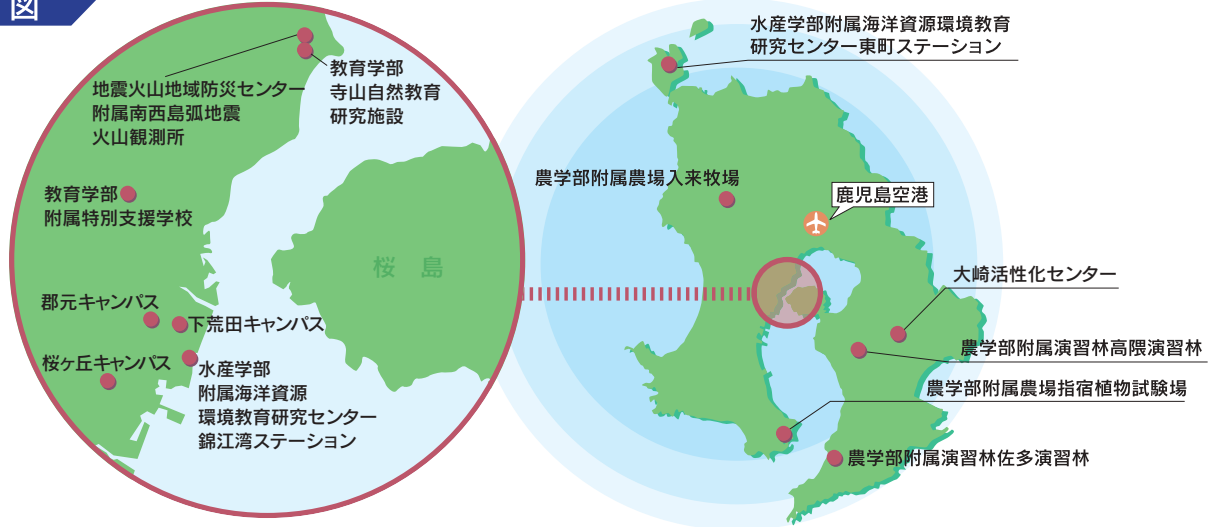
[illegible]

星児島大学
東京リエゾンオフィス

星児島大学
東京リエゾンオフィス



位置図



■ 鹿児島市へのアクセス 鹿児島空港から 鹿児島空港リムジンバスで鹿児島中央駅まで約40分

鹿児島市内交通アクセス

1 郡元キャンパス

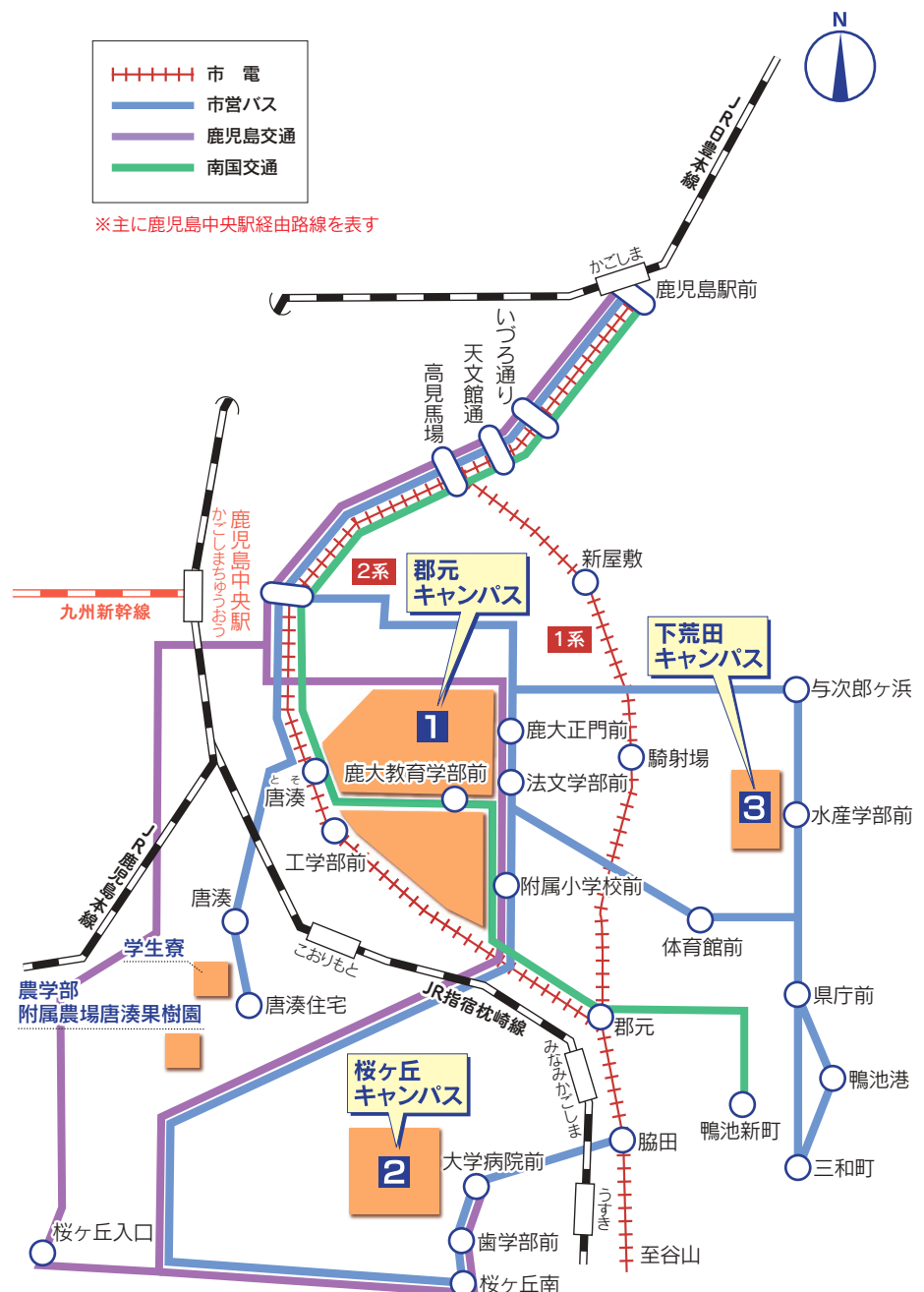
- 市電** ※ () は最寄りの門
- 1系 騎射場電停下車 徒歩約10分(正門、東門)
 - 2系 唐湊電停下車(西門)
 - 工学部前電停下車(工学部門)
- 市営バス**【鹿児島中央駅経由】
- 鹿大正門前または、法文学部前下車
 - 9 武岡・鴨池港線 11 鴨池・冷水線
 - 18 大学病院線 20 緑が丘・鴨池港線
- 鹿児島交通**【鹿児島中央駅経由】
- 鹿大正門前または、法文学部前下車
 - 19 紫原・桜ヶ丘五丁目行
- 南国交通**【鹿児島中央駅経由】
- 鹿大教育学部前下車
 - 30 県庁西・鴨池新町方面
- 徒歩**
- 鹿児島中央駅から市電2系通り沿いに歩いて約25分

2 桜ヶ丘キャンパス

- 市電**
- 1系 脇田電停下車
- 市営バス**
- 【脇田電停前発】
 - 大学病院前または、歯学部前下車
 - 18 大学病院線(シャトル便)
 - 【鹿児島中央駅経由】
 - 大学病院前または、歯学部前下車
 - 18 大学病院線
- 鹿児島交通**【鹿児島中央駅経由】
- 大学病院前または、歯学部前下車
 - 17 桜ヶ丘団地行
 - 19 紫原・桜ヶ丘五丁目行
- JR**【JR指宿枕崎線】宇宿(うすぎ)駅下車

3 下荒田キャンパス

- 市電**
- 1系 騎射場電停下車 徒歩約10分
- 市営バス**【鹿児島中央駅経由】
- 体育館前下車 徒歩約5分
 - 11 鴨池・冷水線
 - 水産学部前下車
 - 27 県庁・与次郎線



郡元キャンパス

法文学部	理工学研究科
教育学部	臨床心理学研究科
理学部	連合農学研究科
工学部	
農学部	
共同獣医学部	

- 1 北辰通り (大正4年第七高等学校第14回記念祭歌「北辰斜に」に由来)
- 2 銀杏並木通り
- 3 稲盛通り (稲盛和夫京セラ名誉会長の寄贈の稲盛会館に由来)
- 4 田園通り (附属農場越しに校島が望めます。)
- 5 みのりの小径
- 6 本部前・緒方通り (初代学長 緒方健三郎氏に由来)
- 7 植物園通り
- 8 ふれあい通り
- 9 教育学部通り
- 10 玉利通り (鹿児島高等農林学校初代校長 玉利喜造博士に由来)
- 11 工学部通り
- 12 理学部通り
- 13 森の小径
- 14 法文学部通り



A-

- 1 インフォメーションセンター
- 2 事務局・アドミッションセンター
- 3 保健管理センター
- 4 埋蔵文化財調査センター・事務局車庫
- 5 農・獣医共通棟 (管理室・講義室・学生実験室・セミナー室)
- 6 共同獣医学部研究棟 A (獣医学科実験研究室)
- 7 共同獣医学部研究棟 B (獣医学科実験研究室)
- 8 農学部研究棟 C (生物資源化学科実験研究室)
- 9 農学部研究棟 D (生物生産学科・生物資源化学科・生物環境学科実験研究室)
- 10 農学部研究棟 E (生物環境学科・附属演習林実験研究室)
- 11 共同獣医学部附属動物病院大動物診療センター
- 12 共同獣医学部附属動物病院軽種馬診療センター
- 13 農学部附属焼酎・発酵学教育研究センター (北辰蔵)
- 14 // 温室
- 15 // 植物研究実験施設
- 16 // 網室・硝子室
- 17 // 附属農場動物飼育棟
- 18 // 附属農場研究実験棟
- 19 // 低温貯蔵実験室
- 20 // 水理実験室
- 21 // 昆虫飼育棟
- 22 共同利用棟 (獣医学科実験研究室・総合研究博物館等)
- 23 研究支援センター (遺伝子実験施設)
- 24 研究支援センター (アイソトープ実験施設)
- 25 馬術部馬房
- 26 大学院連合農学研究科棟
- 27 総合研究博物館 (常設展示室)
- 28 学習交流プラザ
- 29 大会館
- 30 中央食堂

- 31 南九州・南西諸島域共創機構棟 1
- 32 学術情報基盤センター
- 33 中央変電所・総合研究博物館標本収蔵庫
- 34 工学部情報生体システム工学科棟
- 35 地域コトづくりセンター
- 36 工学部電気電子工学科棟
- 37 // 建築学科棟
- 38 // 環境化学プロセス工学科棟
- 39 // 機械工学科第一実験棟
- 40 // 機械工学科第二実験棟
- 41 // 機械工学科第三実験棟
- 42 // 機械工学科 2 号棟
- 43 // 機械工学科 1 号棟
- 44 // 化学生命工学科棟
- 45 // 薬品庫
- 46 // 海洋波動実験棟
- 47 稲盛会館
- 48 工学系講義棟
- 49 環境安全センター (排水分析室)
- 50 工学部海洋土木工学科棟
- 51 // 共通棟
- 52 理工系総合研究棟・研究支援センター (機器分析施設)
- 53 理学部 1 号館 (管理室・物理科学科・地球環境科学科・実験研究室・講義室)・理系先端研究棟・天の川銀河研究センター
- 54 理学部 2 号館 (数理情報科学科・生命化学科・地球環境科学科・実験研究室・講義室)



- 55 理学部 3 号館 (生命化学科・地球環境科学科・実験研究室・講義室)
- 56 総合研究博物館
- 57 共通教育棟 1 号館 (事務室・講義室・共通教育センター・就職支援センター・ボランティア支援センター・障害学生支援センター・グローバルセンター・高等教育研究開発センター)
- 58 共通教育棟 2 号館
- 59 稲盛アカデミー棟
- 60 共通教育棟 3 号館
- 61 共通教育棟 4 号館
- 62 中央図書館
- 63 総合教育研究棟 (司法政策教育研究センター・大学院臨床心理学研究科・国際島嶼教育研究センター)
- 64 法文学部 1 号館 (管理棟・研究棟・講義棟)
- 65 " 2 号館 (研究棟・講義棟)
- 66 " 3 号館 (講義棟)
- 67 学生サークル会館Ⅱ-1
- 68 屋内プール 50m
- 69 弓道場
- 70 学生サークル会館Ⅱ-2
- 71 第一体育館
- 72 第二体育館

- 73 教育学部体育科実験研究棟
- 74 " 武道館
- 75 部元南食堂
- 76 教育学部管理棟・理系研究棟
- 77 " 実習棟
- 78 " 第一講義棟
- 79 " 生涯教育総合研究棟
- 80 " 文系研究棟
- 81 " 附属教育実践総合センター
- 82 " 音楽美術科棟
- 83 " 附属幼稚園
- 84 " 附属小学校
- 85 " 附属小学校昆虫飼育室
- 86 " 附属小学校体育館
- 87 " 附属中学校
- 88 " 附属中学校体育館
- 89 学生寮
- 90 総合動物実験施設
- 91 教育学部第二講義棟 (アクティブラーニングプラザ)
- 92 共同獣医学部附属動物病院小動物診療センター
- 93 さつぽん保育園
- 94 学生サークル会館Ⅰ
- 95 南九州・南西諸島域共創機構棟 2

桜ヶ丘キャンパス

医学部

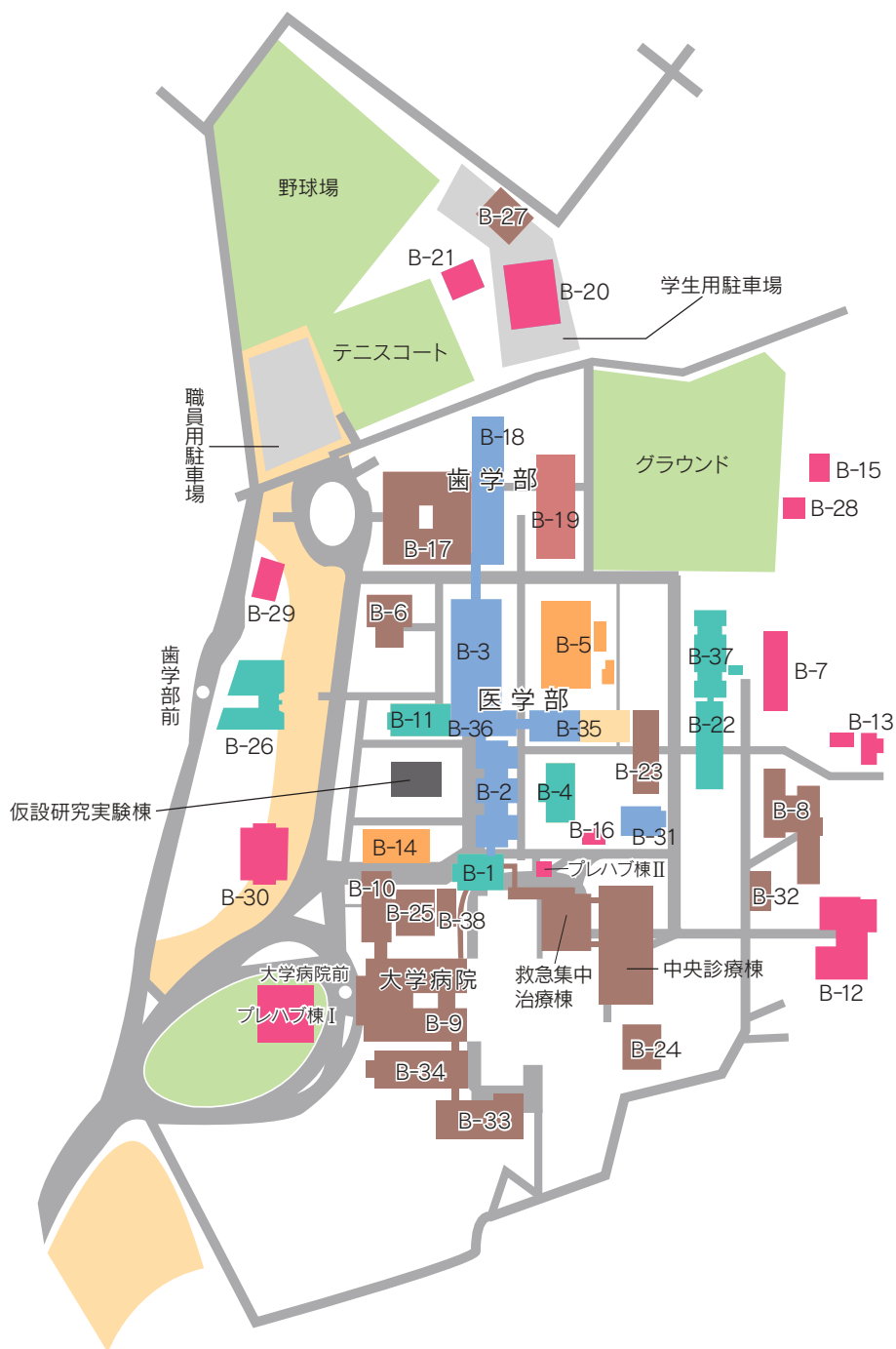
歯学部

医歯学総合研究科

鹿児島大学病院

B-

- ① 医学部臨床講義棟
- ② 医歯学総合研究科棟3(臨床医学系)
- ③ 医歯学総合研究科棟2(基礎医学系)
- ④ RI実験施設
- ⑤ 研究支援センター(動物実験施設)
- ⑥ 福利厚生施設(桜ヶ丘会館)
- ⑦ 桜ヶ丘寄宿舍(学生寮)
- ⑧ 看護師宿舎
- ⑨ 鹿児島大学病院医科診療棟・病棟
- ⑩ 鹿児島大学病院管理棟
- ⑪ 医学部基礎講義実習棟
- ⑫ 中央機械棟
- ⑬ ポンプ室
- ⑭ 附属図書館桜ヶ丘分館(医学図書館)
- ⑮ サークル棟
- ⑯ 実験廃液処理施設
- ⑰ 鹿児島大学病院歯科診療棟
- ⑱ 回復期リハビリテーション病棟
- ⑲ 医歯学総合研究科棟1(歯学系)
- ⑳ 歯学部講義・実習棟
- ㉑ 桜ヶ丘体育館
- ㉒ 運動器具庫
- ㉓ 医学部保健学科東研究棟
- ㉔ 共通教育棟
- ㉕ 資料保管庫
- ㉖ 医療情報施設
- ㉗ 鶴陵会館
- ㉘ 医学部・歯学部課外活動施設
- ㉙ 弓道場
- ㉚ さくらっ子保育園
- ㉛ 患者用立体駐車場
- ㉜ 医歯学総合研究科棟5
- ㉝ レジデントハウス
- ㉞ 病棟(C棟)
- ㉟ 病棟・診療棟(B棟)
- ㊱ 医歯学総合研究科棟4(新臨床医学系)
- ㊲ ヒトレトロウイルス学共同研究センター
- ㊳ 共同利用研究棟
- ㊴ 医学部保健学科西研究棟
- ㊵ 地域医療支援センター



関係施設凡例

- | | | |
|-------|------------|---------------|
| ■ 大学院 | ■ 医歯学総合研究科 | ■ 医・歯学部共用施設 |
| ■ 医学部 | | ■ 学内共同教育研究施設等 |
| ■ 歯学部 | | ■ 共通施設 |

下荒田キャンパス

水産学部

関係施設凡例

- 水産学部
- 学内共同教育研究施設等
- 共通施設



C-

- 1 1号館
- 2 2号館
- 3 変電室
- 4 サークル棟
- 5 3号館
- 6 6号館(食堂(1階))
- 6 6号館(附属海洋資源環境教育センター(2階))
- 7 国際交流会館(1号館)
- 8 " (2号館)
- 9 " (3号館)
- 10 大型回流水槽実験棟
- 11 職員宿舎

- 12 車庫・倉庫
- 13 実験・実習支援棟
- 14 5号館
- 15 附属図書館水産学部分館(水産学図書館)
- 16 4号館
- 17 外国人研究者宿泊施設(A・B・C)

教育学部附属特別支援学校

下伊敷1丁目

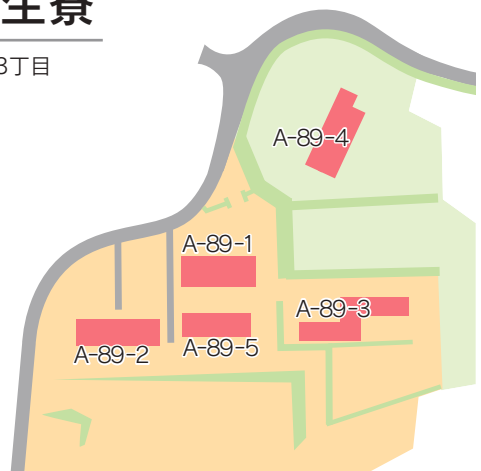


D-

- 1 校舎
- 2 体育館
- 3 生活訓練棟
- 4 水遊び場(プール)

学生寮

唐湊3丁目



A-89-

- 1 男子寄宿舎A棟
- 2 " B棟
- 3 " C棟
- 4 女子寄宿舎
- 5 共用棟

キャンパス

●所在地一覽●

※ **A**:郡元キャンパス、**B**:桜ヶ丘キャンパス、**C**:下荒田キャンパス

資料編

- 51… 役職員等
- 54… 役職員数
- 56… 入学定員・現員数
- 57… 附属学校入学定員・現員数
- 58… 入学状況
- 60… 卒業・修了数／就職状況／学位授与状況
- 61… 奨学生状況／経済支援制度
- 62… リポソトリ／学術刊行物
- 63… 産学官連携活動
- 64… 公開講座等
- 65… 学術国際交流協定締結状況
- 67… 海外研修・留学等支援
- 70… 研究者交流状況／国際共同研究実施件数
- 71… 外国人留学生
- 73… 収入・支出決算額/予算
- 74… 外部資金受入状況
- 76… 鹿児島大学病院・附属動物病院実績
- 77… 附属図書館実績
- 78… 土地・建物・船舶

役 員

学 長	佐 野 輝
【総括理事】	
理 事 研究・国際担当	馬 場 昌 範
理 事 総務担当	越 塩 俊 介
理 事 企画・社会連携担当	岩 井 久 晃
理 事 教育担当	武 隈 晃
理 事 財務担当	山 木 宏 明
理 事 特命担当	萩 元 美恵野
監 事 業務監査	伊牟田 均
監 事 会計監査	押 越 武 彦

副 学 長

研究・国際担当	馬 場 昌 範
総務担当	越 塩 俊 介
企画・社会連携担当	岩 井 久 晃
教育担当	武 隈 晃
財務担当	山 木 宏 明
附属病院担当	夏 越 祥 次
情報担当	森 邦 彦
経営改革担当	渡 邊 睦

学長補佐

総務・人事担当	西 隆一郎
企画・評価担当	尾 崎 孝 宏
法人評価担当	境 雅 夫
広報担当	中 島 宏
社会連携担当	前 田 広 人
防災担当	地頭蘭 隆
教務担当	有 倉 巳 幸
地域人材育成プラットフォーム担当	大 前 慶 和
学生生活担当	前 田 雅 人
入試改革担当	野 口 和 行
高大接続・入試広報担当	太 田 一 郎
就職・学生支援担当	枚 田 邦 宏
稲盛アカデミー担当	山 口 明 伸
研究企画推進担当	宮 田 篤 郎
国際企画推進担当	畝田谷 桂 子
七十周年記念事業担当	山 本 智 子

経営協議会委員

学 長	佐 野 輝
鹿児島県医師会会長	池 田 琢 哉
鹿児島県副知事	岩 切 剛 志
鹿児島県高等学校長協会会長	
鹿児島県立鶴丸高等学校校長	月 野 功
鹿児島市立病院長	坪 内 博 仁
鹿児島経済同友会代表幹事	
日本瓦斯株式会社代表取締役社長	津 曲 貞 利
鹿児島県弁護士協同組合理事長	
福元法律事務所所長	福 元 紳 一
株式会社エールム代表取締役	宮 原 隆 和
JA鹿児島県農協中央会会長	山 野 徹
理 事	馬 場 昌 範
理 事	越 塩 俊 介
理 事	岩 井 久 晃
理 事	武 隈 晃

（令和元年5月1日現在）

理 事	山 木 宏 明
鹿児島大学病院長	夏 越 祥 次

教育研究評議会評議員

学 長	佐 野 輝
理 事	馬 場 昌 範
理 事	越 塩 俊 介
理 事	岩 井 久 晃
理 事	武 隈 晃
理 事	山 木 宏 明
副 学 長	渡 邊 睦
	高 津 孝 也
法文学部	上 谷 順三郎
	今 林 俊 一
教育学部	岡 村 浩 昭
	小 山 佳 一
理学部	河 野 嘉 文
	新 地 洋 之
医学部	宮 脇 正 一
	山 崎 要 一
歯学部	木 下 英 二
	川 畑 秋 馬
工学部	橋 本 文 雄
	北 原 兼 文
農学部	佐久間 美 明
	上 西 由 翁
水産学部	宮 本 篤 浩
	三 角 一 浩
共同獣医学部	夏 越 祥 次
鹿児島大学病院長	本 間 俊 雄
理工学研究科長	於 保 孝 彦
医歯学総合研究科長	宇都宮 敦 浩
臨床心理学研究科長	初 井 和 朗
連合農学研究科長	橋 口 知
附属図書館長	森 邦 彦
学内共同教育研究施設代表者	武 隈 晃
総合教育機構長	馬 場 昌 範
研究推進機構長	岩 井 久
南九州・南西諸島域共創機構長	

事 務 局

総務部長	野 澤 知 弘
総務課長	中 間 勝 利
企画評価課長	山 下 憲一郎
人事課長(兼)労務調査室長	松 浦 洋 人
情報企画課長	田 中 賢 治
研究推進部長	安 永 政 喜
研究協力課長	小 澤 結 花
社会連携課長	今 辻 幸 二
財務部長	田 島 修
財務課長	大 津 信 輔
経理課長	原 田 隆
学生部長	内 山 修 一
教務課長	精 松 恒 久
共通教育課長	白 坂 義 浩
学生生活課長	通 山 裕 樹
入試課長	前 迫 誠
国際事業課長	本 田 敏 幸

施設部長	森 徳 明
企画課長	大久保 一 也
建築課長	松葉瀬 昭 仁
設備課長	竹 下 雄 二
学術情報部長	山 本 和 雄
情報管理課長	河 野 泰 久
情報サービス課長	徳 田 眞 澄

監査室

監査室長	横 枕 久美子
------	---------

学長戦略室

学長戦略室長	美 坂 英 樹
--------	---------

学術研究院

学域長

理工学域長	本 間 俊 雄
医歯学域長	於 保 孝 彦

学系長

法文学系長	高 津 孝
臨床心理学系長	宇都宮 敦 浩
教育学系長	上 谷 順三郎
理学系長	岡 村 浩 昭
工学系長	木 下 英 二
医学系長	河 野 嘉 文
歯学系長	宮 脇 正 一
農学系長	橋 本 文 雄
水産学系長	佐久間 美 明
獣医学系長	宮 本 篤
総合教育学系長	武 隈 晃
総合研究学系長	馬 場 昌 範
共同学系長	橋 口 知

学 部 等

法文学部

学部長	高 津 孝
副学部長	藤 内 哲 也
副学部長	北 崎 浩 嗣
事務長	大 園 久 裕

教育学部

学部長	上 谷 順三郎
副学部長	今 林 俊 一
副学部長	小 江 和 樹
副学部長	有 倉 巳 幸
事務長	野 村 浩 史
附属教育実践総合センター長	土 田 理
附属幼稚園長	假屋園 昭 彦
附属小学校長	假屋園 昭 彦
附属中学校長	山 口 武 志
附属特別支援学校長	寺 床 勝 也

理学部

学部長	岡 村 浩 昭
副学部長	小 山 佳 一
副学部長	藤 井 伸 平
副学部長	中 尾 茂

医学部

学部長	河 野 嘉 文
副学部長	新 地 洋 之
副学部長	金 蔵 拓 郎
副学部長	大 脇 哲 洋
副学部長	赤 崎 安 昭

歯学部

学部長	宮 脇 正 一
副学部長	山 崎 要 一
副学部長	杉 浦 剛
副学部長	西 村 正 宏

鹿児島大学病院

病院長	夏 越 祥 次
副病院長(医科担当)	坂 本 泰 二
副病院長(歯科担当)	山 崎 要 一
薬剤部長	武 田 泰 生
看護部長	市 村 カツ子
臨床技術部長	弓 場 裕 之
事務部長	仲 井 精 一
総務課長	中 村 智 子
経営企画課長	脇 野 龍 也
経理調達課長	中 園 康 弘
施設管理課長	田 坂 勝 之
医務課長	宮 野 英 彦

工学部

学部長	木 下 英 二
副学部長	甲 斐 敬 美
副学部長	川 畑 秋 馬
副学部長	橋 本 雅 仁

農学部

学部長	橋 本 文 雄
副学部長	北 原 兼 文
副学部長	津 田 勝 男
副学部長	寺 岡 行 雄
附属農場長	山 本 雅 史
附属演習林長	枚 田 邦 宏
附属焼酎・発酵学教育研究センター長	高 峯 和 則

水産学部

学部長	佐久間 美 明
副学部長	上 西 由 翁
副学部長	佐 野 雅 昭
副学部長	小 谷 知 也
事務長	鮎 川 秋 徳
附属練習船かごしま丸船長	内 山 正 樹
附属練習船南星丸船長	幅 野 明 正
附属海洋資源環境教育研究センター長	石 川 学

共同獣医学部

学部長	宮 本 篤
副学部長	三 角 一 浩
副学部長	三 好 宣 彰
附属動物病院長	遠 藤 泰 之
附属越境性動物疾病制御研究センター長	小 原 恭 子

農学部・共同獣医学部等事務部

事務部長	
総務課長	瀬戸口 浩
学務課長	安 田 和 義

大 学 院

人文社会科学部研究科

研究科長	高 津 孝
副研究科長	萩 野 誠

教育学研究科

研究科長	上 谷 順三郎
------	---------

保健学研究科

研究科長	新 地 洋 之
------	---------

農林水産学研究科

研究科長	橋 本 文 雄
副研究科長	佐久間 美 明

農学研究科

研究科長	橋 本 文 雄
------	---------

水産学研究科

研究科長	佐久間 美 明
------	---------

理工学研究科

研究科長	本 間 俊 雄
副研究科長	木 下 英 二
副研究科長	山 口 明 伸
副研究科長	岡 村 浩 昭
副研究科長	新 留 康 郎
附属地域コトづくりセンター長	山 口 明 伸
附属天の川銀河研究センター長	半 田 利 弘

理工学研究科等事務部

事務部長	
研究科・工学系総務課長	和 田 克 彦
研究科・工学系学務課長	立和名 幸 洋
理学系事務課長	松 崎 聖 一

医歯学総合研究科

研究科長	於 保 孝 彦
副研究科長	橋 口 照 人
副研究科長	菊 地 聖 史

医歯学総合研究科等事務部

事務部長	内 山 保 一
総務課長	村 山 敬 三
学務課長	馬場園 誠

臨床心理学研究科

研究科長	宇都宮 敦 浩
副研究科長	稲 谷 ふみ枝

共同獣医学研究科

研究科長	宮 本 篤
------	-------

連合農学研究科

研究科長	舩 井 和 朗
副研究科長	寺 田 竜 太

機 構

総合教育機構

機構長	武 隈 晃
高等教育研究開発センター長	伊 藤 奈賀子
共通教育センター長	桑 原 季 雄
アドミッションセンター長	武 隈 晃
グローバルセンター長	畝田谷 桂 子

研究推進機構

機構長	馬 場 昌 範
医用ミニブタ・先端医療開発研究センター長	山 田 和 彦
国際島嶼教育研究センター長	河 合 溪
研究支援センター長	仲 谷 英 夫

南九州・南西諸島域共創機構

機構長	岩 井 久
産学・地域共創センター長	前 田 広 人
地震火山地域防災センター長	地頭園 隆
附属南西島弧地震火山観測所長	中 尾 茂
司法政策教育研究センター長	米 田 憲 市

ヒトレトロウイルス学共同研究センター

センター長	馬 場 昌 範
鹿児島大学キャンパス長	池 田 正 徳

学内共同教育研究施設

附属図書館	
附属図書館長	橋 口 知
桜ヶ丘分館長	築 瀬 誠
水産学部分館長	重 廣 律 男
保健管理センター所長	伊地知 信 二
稲盛アカデミー長	武 隈 晃
総合研究博物館長	本 村 浩 之
学術情報基盤センター長	森 邦 彦
埋蔵文化財調査センター長	中 村 直 子
環境安全センター長	富 安 卓 滋

海外拠点

北米教育研究センター長	中 谷 純 江
-------------	---------

奄美群島拠点

奄美群島拠点長	岩 井 久
---------	-------

職員数

(令和元年5月1日現在)

部局等名		役 員		教 授		准教授		講 師		助 教		助 手		教諭等		小 計		事務・技術・その他						小 計		非常勤職員		合 計				
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	事務		技術		その他		男性	女性	男性	女性	男性	女性	合計		
役 員	学 長	1														1												1		1		
	理事・監事（非常勤含む）	7	1													7	1											7	1	8		
事務局	監 査 室																	2	2					2	2		1	2	3	5		
	学 長 戦 略 室																	2						2			1	2	1	3		
	総 務 部																	50	23					50	23	30	11	80	34	114		
	研 究 推 進 部																	11	6					11	6		4	11	10	21		
	財 務 部																	25	6					25	6	2	4	27	10	37		
	学 生 部																	29	18					29	18	3	17	32	35	67		
	施 設 部																	1	1	17				18	1		4	18	5	23		
	学 術 情 報 部																	8	13					8	13	11	23	19	36	55		
	法 文 学 部			42	6	27	8	1					2				70	16	10	7					10	7		7	80	30	110	
	教 育 学 部			17	2	29	9	10									56	11	9	12					9	12		11	65	34	99	
学部等	附属教育実践総合センター			1	1											1	1												1	1	2	
	附 属 幼 稚 園													1	3	1	3												1	3	4	
	附 属 小 学 校												29	8	29	8	1	2				1	1	2	3		4	31	15	46		
	附 属 中 学 校												23	8	23	8		1						1			2	23	11	34		
	附属特別支援学校												16	11	16	11	1	1					1	1		5	17	17	34			
	医 学 部			14	6	3	3	2	2	4	14					23	25											5	23	30	53	
	鹿児島大学病院			2		5	1	43	4	73	18					123	23	49	31	13	1	199	716	261	748	268	325	652	1,096	1,748		
	農 学 部			24		29	2		2	5	3					58	7															
	附 属 農 場			1		2										3				16	1											
	附 属 演 習 林			1		1										2				5												
	附属焼酎・発酵学 教育研究センター			2		1	1									3	1	19	10					43	12	13	60	157	86	243		
	共 同 獣 医 学 部			14		10	1			2						26	1															
	附 属 動 物 病 院					3				3	2					6	2			1			1									
	附属越境性動物疾 患制御研究センター				1	2	1			1	1					3	3															
	水 産 学 部			14	1	13	2	2		7	2					36	5			3	2											
	附属練習船かごしま丸																	8	4			19										
	附属練習船南星丸																					11	1	46	7	1	8	86	21	107		
	附属海洋資源環境 教育研究センター			3						1						3	1			5												
	大学院	教 育 学 研 究 科			6		7										13												13		13	
		医学総合研究科(医学系)			39	2	17	6	13	2	42	21					111	31	30	15	5	5	1	5	36	25	3	163	215	239	454	
		歯学総合研究科(歯学系)			19		12	3	2	1	32	16					65	20														
臨床心理学研究科				2	3	2	2									4	5											3	4	8	12	
連 合 農 学 研 究 科				1												1												1		1		
理工学研究科(理学系)				23	1	22	1	1	1	9	2					55	5	4	9	1				5	9	5	10	65	24	89		
総合教育 機構	理工学研究科(工学系)			40	1	43	1			24	3					107	5	14	6	20	5			34	11	1	22	142	38	180		
	高等教育研究開発センター					1	1		1	1	1					2	3												2	3	5	
	共通教育センター			7	1	15	5	2	3	4	1					28	10										2	28	12	40		
	アドミッションセンター					1										1													1		1	
研究推進 機構	グローバルセンター				3				1								4												1	5	5	
	医用ミニブタ・先端医 療開発研究センター			2		2										4												3	4	3	7	
	国際島嶼教育研究センター			2		2										4												2	4	2	6	
	研究支援センター			1		2										3			7					7		3	11	13	11	24		
南九州・ 南西諸島域 共創機構	機 構 付																									1	3	1	3	4		
	産学・地域共創センター			1		1										2												3	2	3	5	
	地震火山地域防災センター																															
	附属南西島域地震火山観測所					1										1										1	2	2	2	4		
学内共同 教育研究 施設等	司法政策教育研究センター																											2		2	2	
	保 健 管 理 セ ン タ ー			1		1				1						2	1		2			3		5			4	2	10	12		
	稲 盛 ア カ デ ミ ー					1			1							1	1											1	1	2	3	
	総 合 研 究 博 物 館			2						1						2	1									1	4	3	5	8		
	学術情報基盤センター			2		2				1						5													5		5	
	埋蔵文化財調査センター				1					1						1	1										3	1	4	5		
	環 境 安 全 セ ン タ ー										1						1												1	1	1	
	障害学生支援センター																											3		3	3	
	ボランティア支援センター																											1		1	1	
	北米教育研究センター																												1		1	1
	ヒトレトロウイルス 学共同研究センター			2		2	1									4	1									1	7	5	8	13		
合 計		9	1	285	29	259	48	76	18	209	88	0	2	69	30	906	216	273	169	95	14	231	727	599	910	344	743	1,849	1,869			

※ 特任職員、外国人研究員、休職者および休業者は含まない。再雇用職員、病院・動物病院特例常勤職員を含む。

※ 教員は教員組織（学術研究院）に所属し、学部等や研究科等の教育等に係る業務を主として担当するため、学術研究院および学部等・研究科等の両方に計上する。

※ 教務職員、事務系（図書系含む）・技術系以外の一般職員、海事職員（教員以外）および医療職員はその他に計上する。

■学術研究院所属教員数

(令和元年5月1日現在)

学 域	学 系	教 授		准教授		講 師		助 教		助 手		合 計		
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	合計
法文教育学域	法 文 学 系	42	6	27	8	1					2	70	16	86
	臨 床 心 理 学 系	2	3	2	2							4	5	9
	教 育 学 系	24	3	36	9	10						70	12	82
理 工 学 域	理 学 系	23	1	22	1	1	1	9	2			55	5	60
	工 学 系	40	1	43	1			24	3			107	5	112
医 歯 学 域	医 学 系	53	8	20	9	15	4	46	35			134	56	190
	歯 学 系	19		12	3	2	1	32	16			65	20	85
	鹿 児 島 大 学 病 院	1		3	1	42	3	72	18			118	22	140
農水産獣医学域	農 学 系	28		33	3		2	5	3			66	8	74
	水 産 学 系	18	1	13	2	2		7	3			40	6	46
	獣 医 学 系	14	1	15	2			6	2			35	5	40
総 合 科 学 域	総 合 教 育 学 系	7	4	17	6	2	5	5	2			31	17	48
	総 合 研 究 学 系	8		10	1							18	1	19
	共 同 学 系	5	1	4			1	2	3			11	5	16
合 計		313		305		92		295		2		1,007		
		284	29	257	48	75	17	208	87	0	2	824	183	

■特任職員数

(令和元年5月1日現在)

部局等名		常 勤														小 計		非常勤														小 計		合 計				
		教 授		准教授		講 師		助 教		助 手		研究員		専門員				教 授		准教授		講 師		助 教		助 手		研究員		専門員								
		男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性	合 計		
事 務 局	総 務 部																															1	1	1	0	1		
	学 生 部												2		2																1	1	1	1	4			
	学 術 情 報 部																															1	1	0	1	1		
学 部 等	教 育 学 部	3	1			2	1								5	2															1	1	1	6	3	9		
	附属教育実践総合センター																															1	1	0	1	1		
	医 学 部		1													1									1						1	1	1	2				
	鹿児島大学病院					2		29	6				1	8	32	14			1				1							3	34	4	35	36	49	85		
	農 学 部					1									1																		1	0	1			
	附 属 演 習 林					1									1	1	1																1	0	1			
	附属焼酎・発酵学 教育研究センター										1					1																	0	1	1			
	共 同 獣 医 学 部																														1	1	1	1	2			
	共同獣医学部附属動物病院							2	1						2	1															1	5	1	5	3	6	9	
	水 産 学 部																																	0	0	0		
大 学 院	人文社会科学研究科									1					1																	0	1	1				
	共同獣医学研究科			1											1																	1	0	1				
	医歯学総合研究科	3		4		4	2	7	4			6	12		24	18									1	4			1	4	25	22	47					
	臨床心理学研究科							1							1																	1	0	1				
	理工学研究科(理学系)	1							1			1			2	1										1		1		3	1	4						
総 教 育 機 構	理工学研究科(工学系)									2				1	1	1	3															1	3	4				
	高等教育研究開発センター																															11	2	11	2	13		
	アドミッションセンター								1						1		2															0	2	2				
研 究 推 進 機 構	グローバルセンター			1	1	1								5	2	6																	2	6	8			
	医用ミニプタ・先端医 療開発研究センター								1						1																	1		2	0	2		
	国際島嶼教育研究センター								1						1		1															1		2	0	2		
南 九 州・ 南 西 諸 島 域共創機構	産学・地域共創センター	4		1					1	1			1		2		9	1	1											1	3	2	3	11	4	15		
	地震火山地域防災センター	1										1	1		2	1	1								2					3		5	1	6				
	附 属 南 西 島 弧 地 震 火 山 観 測 所									1					1																		1	0	1			
学 内 共 同 教 育 研 究 施 設 等	司法政策教育研究センター																6	1													6	1	6	1	7			
	法務コンプライアンスセンター																																	0	0	0		
	男女共同参画推進センター											1				1																	0	1	1			
	障害学生支援センター								1							1																	0	1	1			
	保健管理センター																		1													2	1	2	3			
	稲盛アカデミー	1												1	1	1																1	1	2				
	総合研究博物館								1						1																		1	0	1			
	学術情報基盤センター	1													1	1	1															1	1	2				
	埋蔵文化財調査センター									1						1																	0	1	1			
	URA セ ン タ ー	1		1	1										1	2	2															2	2	4				
ヒトレトロウイルス 学共同研究センター							1	1							1	1																1	1	2				
合 計		15	2	8	2	11	3	45	21	0	0	9	14	6	19	94	61	10	1	1	0	0	0	0	1	1	1	1	2	4	4	10	49	37	57	131	118	／

(注) 休職者および休業者は含まない。

■学 部

(令和元5月1日現在)

学 部	学科・課程	入学 定員	3年次 編入学定員	収容 定員	現 員						
					1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計
法 文 学 部	法 経 社 会 学 科	245	10	980	252 (128)	255 (112)	261 (118)		-	-	768 (358)
	人 文 学 科	165		660	171 (123)	167 (116)	176 (126)		-	-	514 (365)
	法 政 策 学 科 ※							125 (42)	-	-	125 (42)
	経 済 情 報 学 科 ※							179 (80)	-	-	179 (80)
	人 文 学 科 ※							204 (131)	-	-	204 (131)
	小 計	410	10	1,660	423 (251)	422 (228)	437 (244)	508 (253)	-	-	1,790 (976)
教 育 学 部	学校教育教員養成課程	200		800	201 (93)	206 (103)	203 (93)	278 (134)	-	-	888 (423)
	特別支援教育教員養成課程	15		60	15 (10)	16 (15)	16 (11)	18 (11)	-	-	65 (47)
	生涯教育総合課程※							48 (28)	-	-	48 (28)
	小 計	215		860	216 (103)	222 (118)	219 (104)	344 (173)	-	-	1,001 (498)
理 学 部	数 理 情 報 科 学 科	40		160	41 (6)	43 (4)	51 (10)	35 (5)	-	-	170 (25)
	物 理 科 学 科	45		180	46 (8)	46 (7)	64 (12)	46 (8)	-	-	202 (35)
	生 命 化 学 科	50		200	50 (21)	51 (25)	55 (20)	53 (24)	-	-	209 (90)
	地 球 環 境 科 学 科	50		200	51 (21)	53 (16)	57 (18)	58 (12)	-	-	219 (67)
	小 計	185		740	188 (56)	193 (52)	227 (60)	192 (49)	-	-	800 (217)
医 学 部	医 学 科	107	10	692	116 (45)	116 (39)	109 (36)	124 (27)	111 (38)	117 (45)	693 (230)
	保 健 学 科	120	20	520	120 (99)	126 (102)	121 (97)	123 (90)	-	-	490 (388)
	小 計	227	30	1,212	236 (144)	242 (141)	230 (133)	247 (117)	111 (38)	117 (45)	1,183 (618)
工 学 部	歯 学 科	53	20	318	55 (29)	55 (26)	49 (21)	53 (29)	55 (31)	43 (24)	310 (160)
	機 械 工 学 科	94		376	107 (9)	111 (8)	102 (2)	92 (6)	-	-	412 (25)
	電 気 電 子 工 学 科	78		312	88 (5)	101 (2)	99 (2)	78 (3)	-	-	366 (12)
	建 築 学 科	55		220	59 (15)	66 (27)	73 (18)	66 (14)	-	-	264 (74)
	環境化学プロセス工学科	35		140	37 (6)	42 (4)	32 (5)	44 (11)	-	-	155 (26)
	海洋土木工学科	48		192	52 (6)	64 (3)	55 (4)	44 (2)	-	-	215 (15)
	情報生体システム工学科	80		320	92 (13)	101 (19)	87 (14)	85 (14)	-	-	365 (60)
	化学生命工学科	50		200	56 (21)	53 (16)	56 (19)	51 (19)	-	-	216 (75)
	小 計	440		20	40						
	小 計	440	20	1,800	491 (75)	538 (79)	504 (64)	460 (69)	-	-	1,993 (287)
農 学 部	農業生産科学科	75		300	77 (41)	74 (35)	75 (34)	85 (44)	-	-	311 (154)
	食料生命科学科	70		280	66 (43)	68 (38)	70 (44)	74 (47)	-	-	278 (172)
	農林環境科学科	60		240	57 (19)	58 (16)	60 (16)	49 (16)	-	-	224 (67)
	生物生産学科※							17 (3)	-	-	17 (3)
	生物資源化学科※							16 (4)	-	-	16 (4)
	生物環境学科※							6 (1)	-	-	6 (1)
	国際食料資源学特別コース				17 (10)	15 (8)	16 (9)	-	-	-	48 (27)
	小 計	205		820	217 (113)	215 (97)	221 (103)	247 (115)	-	-	900 (428)
水 産 学 部	水 産 学 科	140		560	151 (48)	145 (48)	161 (49)	147 (41)	-	-	604 (186)
	水産教員養成課程※							1 (0)	-	-	1 (0)
	小 計	140		560	151 (48)	145 (48)	161 (49)	148 (41)	-	-	605 (186)
共 同 獣 医 学 部	獣 医 学 科	30		180	32 (13)	33 (15)	29 (9)	31 (13)	32 (16)	33(15)	190 (81)
合 計		1,905	60	8,150	2,009 (832)	2,065 (804)	2,077 (787)	2,230 (859)	198 (85)	193 (84)	8,772 (3,451)

(注) 1. () は女子で内数。現員には外国人留学生を含む。 2. 医学部医学科の編入学定員は2年次後期の編入学定員。 3. ※は旧学科、旧課程を表す。

4. 農学部および水産学部の国際食料資源学特別コースの現員は学科に含まれる。

<東京海洋大学水産専攻科>

入学定員	現 員
10	8(1)

- (注) 1. 水産学部の学生は連携により東京海洋大学水産専攻科に進学することができる。
 2. この専攻科を修了した者は、海技士として船舶運航に従事するために必要な資格を得ることができる。
 3. () は女子で内数。

■大学院

(令和元年5月1日現在)

研 究 科	入学 定員	収容 定員	現 員							
			修士課程(博士前期)			博士課程(博士後期)又は専門職学位課程				
			1年	2年	計	1年	2年	3年	4年	計
人 文 社 会 科 学 研 究 科	28	56	23 (11)	32 (19)	55 (30)	-	-	-	-	-
	6	18	-	-	-	3 (0)	5 (2)	16 (6)	-	24 (8)
教 育 学 研 究 科	22	44	17 (5)	26 (15)	43 (20)	-	-	-	-	-
	16	32	-	-	-	13 (5)	16 (3)	-	-	29 (8)
保 健 学 研 究 科	22	44	23 (14)	32 (14)	55 (28)	-	-	-	-	-
	6	18	-	-	-	6 (1)	6 (0)	15 (8)	-	27 (9)
理 工 学 研 究 科	286	572	285 (33)	297 (36)	582 (69)	-	-	-	-	-
	24	72	-	-	-	7 (1)	12 (3)	32 (6)	-	51 (10)
農 林 水 産 学 研 究 科	101	202	96 (26)		96 (26)					
農 学 研 究 科 ※				54 (26)	54 (26)	-	-	-	-	-
水 産 学 研 究 科 ※				34 (9)	34 (9)	-	-	-	-	-
医 歯 学 総 合 研 究 科	10	20	15 (6)	13 (7)	28 (13)	-	-	-	-	-
	50	200	-	-	-	50 (14)	51 (11)	77 (26)	138 (38)	316 (89)
臨 床 心 理 学 研 究 科	15	30	-	-	-	15 (12)	15 (12)	-	-	30 (24)
連 合 農 学 研 究 科	23	69	-	-	-	26 (10)	30 (13)	56 (19)	-	112 (42)
共 同 獣 医 学 研 究 科	6	24				11 (1)	7 (1)	-	-	18 (2)
合 計	615	1,401	459 (95)	488 (126)	947 (221)	131 (44)	142 (45)	196 (65)	138 (38)	607 (192)

(注) 1. () は女子で内数。現員には外国人留学生を含む。

2. 教育学研究科学校教育実践高度化専攻、臨床心理学研究科は専門職学位課程である。

3. 連合農学研究科は鹿児島・佐賀・琉球の3大学の構成によるものである。

4. ※は旧研究科を表す。

■附属学校

【教育学部附属幼稚園】

(令和元年5月1日現在)

附属幼稚園	入園定員	現 員				学 級 数
		3歳児	4歳児	5歳児	計	
	3年保育 20 2年保育 15	20	36	32	88	3歳児、4歳児、5歳児 各1学級 計3学級

(注)4歳児は3年保育進級児と2年保育入園児、5歳児は4歳児の進級児

【教育学部附属小学校】

(令和元年5月1日現在)

附属小学校	学級区分	入学定員	現 員							学 級 数
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	
	単式学級	1~6年 140	140	138	132	134	137	137	818	各学年4学級 計24学級
複式学級	1年 8	8							45	1・2年で1学級
	2年 8		8							3・4年で1学級 計3学級
	3年 8			6						
	4年 8				7					
	5年 8					8				5・6年で1学級
	6年 8						8			
合 計		1~6年 148	148	146	138	141	145	145	863	計27学級

【教育学部附属中学校】

(令和元年5月1日現在)

附属中学校	学級区分	入学定員	現 員				学 級 数
			1年	2年	3年	計	
	普通学級	1・2年 180 3年 200	180 -	180 -	- 199	559	各学年5学級 計15学級

【教育学部附属特別支援学校】

(令和元年5月1日現在)

附属特別支援学校	学級区分	入学定員	現 員							学 級 数
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	
	小学部	3	3	3	3	3	3	2	17	1・2学年で1学級 3・4学年で1学級 計3学級 5・6学年で1学級
中学部	6	5	6	7	-	-	-	-	18	各学年1学級 計3学級
	高等部	8	8	8	7	-	-	-	23	各学年1学級 計3学級

学部

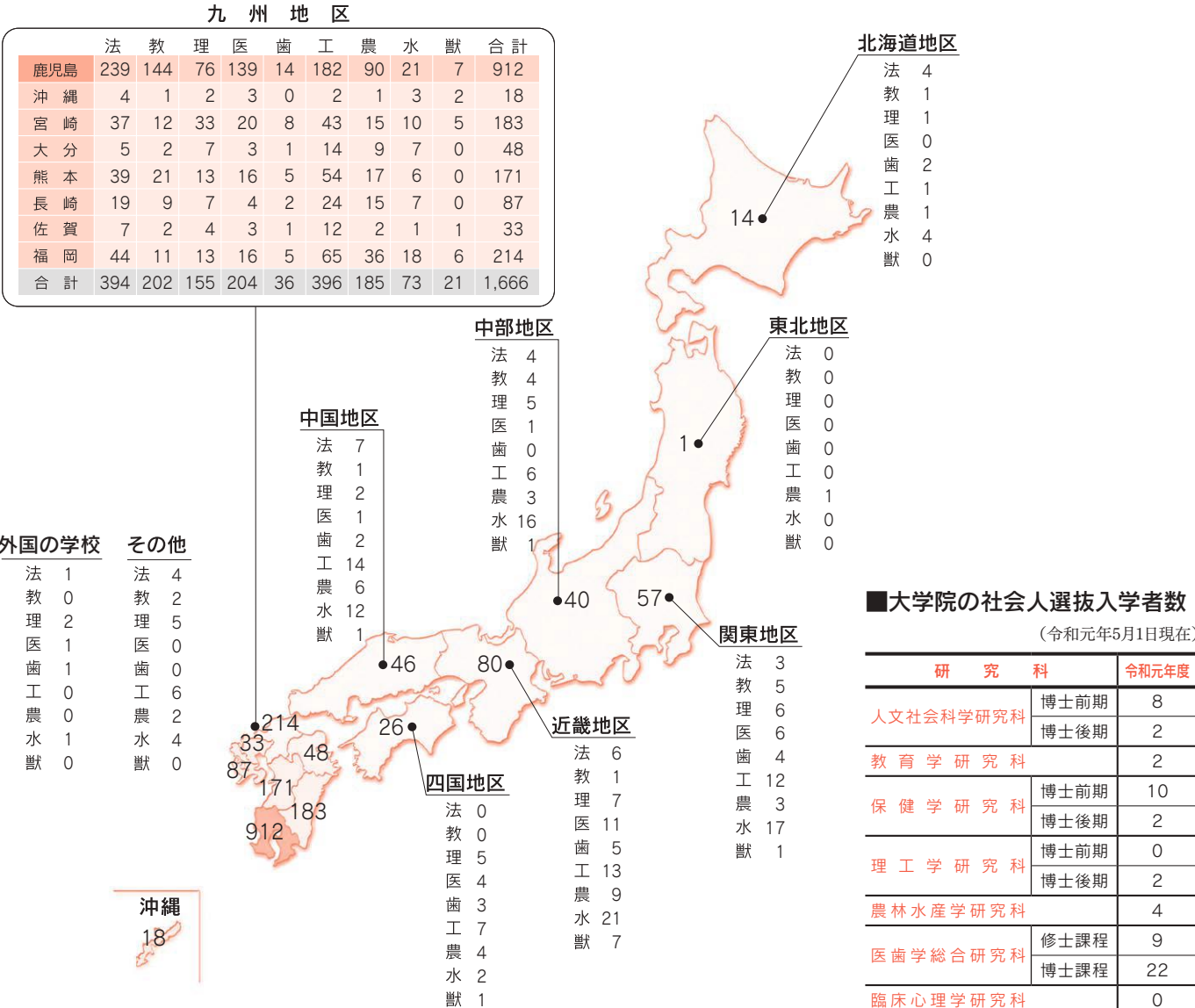
(令和元年度)

学 部	入学定員	志 願 者 数	入 学 者 数	入学者の出身地		入学者の出身地別割合(%)	
				県 内	県 外	県 内	県 外
法 文 学 部	410	1,355 (723)	423 (251)	239	184	56.5	43.5
教 育 学 部	215	766 (388)	216 (103)	144	72	66.7	33.3
理 学 部	185	578 (182)	188 (56)	76	112	40.4	59.6
医 学 部	227	1,198 (619)	228 (143)	139	89	61.0	39.0
歯 学 部	53	274 (126)	53 (28)	14	39	26.4	73.6
工 学 部	440	1,382 (211)	455 (73)	182	273	40.0	60.0
農 学 部	205	569 (292)	214 (111)	90	124	42.1	57.9
水 産 学 部	140	479 (139)	150 (47)	21	129	14.0	86.0
共同獣医学部	30	143 (78)	32 (13)	7	25	21.9	78.1
合 計	1,905	6,744 (2,758)	1,959 (825)	912	1,047	46.6	53.4

(注) ()内は女子を内数で表す。

○入学者出身地別内訳(出身高校等所在地による)

(注) その他は、高等学校卒業程度認定試験合格(従前の大学入学資格検定合格を含む)の入学者を表す。



■大学院の社会人選抜入学者数

(令和元年5月1日現在)

研 究 科	令和元年度
人文社会科学研究科	博士前期 8
	博士後期 2
教育学研究科	2
保健学研究科	博士前期 10
	博士後期 2
理工学研究科	博士前期 0
	博士後期 2
農林水産学研究科	4
医歯学総合研究科	修士課程 9
	博士課程 22
臨床心理学研究科	0
共同獣医学研究科	0
連合農学研究科	0
合 計	61

(注) 現職教員を含む。

■大学院(志願者・受験者・合格者状況)【10月入学を除く】

【修士課程・博士前期課程】

(令和元年度)

研究科	専攻等	入学定員	志願者数				受験者数				合格者数				入学者数
			一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	
人文社会科学研究科	法学専攻	5	4	6	0	10	4	6	0	10	4	5	0	9	8
	経済社会システム専攻	10	3	2	4	9	3	2	4	9	1	2	3	6	6
	人間環境文化論専攻	5	2	0	4	6	2	0	4	6	2	0	3	5	5
	国際総合文化論専攻	8	4	2	0	6	4	2	0	6	4	1	0	5	4
	計	28	13	10	8	31	13	10	8	31	11	8	6	25	23
教育学研究科	教育実践総合専攻	22	18	3	4	25	17	3	2	22	15	2	2	19	17
保健学研究科	保健学専攻	22	18	13	0	31	17	13	0	30	13	10	0	23	23
理工学研究科	機械工学専攻	50	65	0	4	69	62	0	3	65	56	0	3	59	51
	電気電子工学専攻	45	65	0	0	65	65	0	0	65	56	0	0	56	53
	建築学専攻	25	34	0	1	35	34	0	1	35	28	0	1	29	28
	化学生命・化学工学専攻(博前)	42	80	0	0	80	79	0	0	79	49	0	0	49	47
	海洋土木工学専攻	18	16	0	0	16	16	0	0	16	14	0	0	14	11
	情報生体システム工学専攻	42	53	0	0	53	52	0	0	52	47	0	0	47	44
	数理情報科学専攻	14	18	0	0	18	18	0	0	18	14	0	0	14	11
	物理・宇宙専攻	15	35	0	0	35	33	0	0	33	20	0	0	20	16
	生命化学専攻	18	29	0	0	29	29	0	0	29	25	0	0	25	20
	地球環境科学専攻	17	6	0	0	6	6	0	0	6	6	0	0	6	4
	計	286	401	0	5	406	394	0	4	398	315	0	4	319	285
医歯学総合研究科	医科学専攻	10	7	11	2	20	7	11	2	20	5	9	1	15	15
農林水産学研究科	農林資源科学専攻	39	39	5	4	48	38	4	4	46	34	4	4	42	39
	食品創成科学専攻	26	27	0	6	33	25	0	6	31	24	0	6	30	29
	環境フィールド科学専攻	16	14	0	0	14	13	0	0	13	13	0	0	13	13
	水産資源科学専攻	20	14	0	1	15	14	0	1	15	14	0	1	15	15
	計	101	94	5	11	110	90	4	11	105	85	4	11	100	96
合 計		469	551	42	30	623	538	41	27	606	444	33	24	501	459

(注) 教育学研究科の「社会人」は、「現職教員等」を表す。

【博士課程・博士後期課程】

(令和元年度)

研究科	専攻	入学定員	志願者数					受験者数					合格者数					入学者数
			一般	社会人	留学生	進学者	計	一般	社会人	留学生	進学者	計	一般	社会人	留学生	進学者	計	
人文社会科学研究科	地域政策科学専攻	6	0	2	1	1	4	0	2	1	1	4	0	2	1	1	4	3
保健学研究科	保健学専攻	6	4	2	0	—	6	4	2	0	—	6	4	2	0	—	6	6
理工学研究科	総合理工学専攻	24	2	2	2	—	6	2	2	2	—	6	2	2	2	—	6	6
医歯学総合研究科	健康科学専攻	19	8	6	0	—	14	8	6	0	—	14	8	6	0	—	14	14
	先進治療科学専攻	31	20	16	1	—	37	19	16	1	—	36	19	16	1	—	36	36
	計	50	28	22	1	—	51	27	22	1	—	50	27	22	1	—	50	50
連合農学研究科	生物生産科学専攻	7	5	—	—	—	5	4	—	—	—	4	4	—	—	—	4	4
	応用生命科学専攻	8	10	—	—	—	10	10	—	—	—	10	10	—	—	—	10	9
	農水圏資源環境科学専攻	8	5	—	—	—	5	5	—	—	—	5	5	—	—	—	5	4
	計	23	20	—	—	—	20	19	—	—	—	19	19	—	—	—	19	17
共同獣医学研究科	獣医学専攻	6	7	0	0	—	7	7	0	0	—	7	7	0	0	—	7	7
合 計		115	62	27	4	1	94	60	27	4	1	92	60	27	4	1	92	89

【専門職学位課程】

(令和元年度)

研究科	専攻	入学定員	志願者数				受験者数				合格者数				入学者数
			一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	
教育学研究科	学校教育実践高度化専攻	16	14	—	—	14	13	—	—	13	13	—	—	13	13
臨床心理学研究科	臨床心理学専攻	15	33	0	0	33	30	0	0	30	16	0	0	16	15
合 計		31	47	0	0	47	43	0	0	43	29	0	0	29	28

■卒業生数・就職状況

(令和元年5月1日現在)

学 部	卒業生数 〈累 計〉	平成30年度 卒業生数	就 職 状 況																	
			就 職 希 望 者 数	就 職 者 数	就 職 率 (%)	業 種 別						地 区 別								
						農 林 業 漁 業	建 設 業 電 気 給 水 道 情報通信運輸 卸 売 ・ 小 売	金 融 保 険 医 療 福 祉 教 育 学 習 サ ー ビ ス	公 務 員	教 員	そ の 他	関 東	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	鹿 児 島 県 内	そ の 他	
法 文 学 部	17,444	414	344	312	90.7	1	103	79	95	8	26	66	5	8	3	2	105	114	9	
教 育 学 部	19,806	280	234	227	97.0		35	35	29	122	6	16	2	5	5		72	126	1	
理 学 部	7,563	180	96	95	99.0		28	41	12	12	2	24	3	3	1		30	34		
医 学 部	7,852	245	106	105	99.1			95	10			7	7		5		22	64		
歯 学 部	2,160	46																		
工 学 部	19,634	447	190	189	99.5		136	34	18		1	77	12	17	4	1	55	23		
農 学 部	13,419	207	145	142	97.9	8	66	22	34	5	7	20	2	6	4	1	59	49	1	
水 産 学 部	8,106	134	91	86	94.5	1	54	14	7	5	5	23	12	16	6	1	11	15	2	
共同獣医学部	58	31	27	27	100.0		3	17	7			11		2	2		6	6		
(文理学部)	2,651																			
合 計	98,693	1,984	1,233	1,183	95.9	10	425	337	212	152	47	244	43	57	30	5	360	431	13	

(注) 1. 卒業生数(累計)は昭和24年5月本学設置以降の全数を計上した。ただし、医・工学部については昭和30年国立移管以降を計上した。

2. 卒業生数は9月卒業生を含む。
3. 医学部の就職状況は保健学科を表す。
4. 卒業生数(累計)には、平成30年度を含む。

■大学院修了生数

(令和元年5月1日現在)

研 究 科	修士課程・博士前期課程		博士課程・博士後期課程		専門職学位課程	
	修了生数 (累計)	平成30年度 修了生数	修了生数 (累計)	平成30年度 修了生数	修了生数 (累計)	平成30年度 修了生数
人 文 社 会 学 研 究 科	617	19	23	1	-	-
教 育 学 研 究 科	854	18	-	-	12	12
保 健 学 研 究 科	297	19	6	1	-	-
医 学 研 究 科 *	-	-	581	-	-	-
理 工 学 研 究 科	7,107	273	410	7	-	-
農 学 研 究 科	2,255	71	-	-	-	-
水 産 学 研 究 科	1,281	32	-	-	-	-
医 歯 学 総 合 研 究 科	189	9	460	48	-	-
司 法 政 策 研 究 科	-	-	-	-	144	-
臨 床 心 理 学 研 究 科	-	-	-	-	164	15
連 合 農 学 研 究 科	-	-	758	24	-	-
法 学 研 究 科 *	123	-	-	-	-	-
人 文 科 学 研 究 科 *	120	-	-	-	-	-
理 学 研 究 科 *	539	-	-	-	-	-
歯 学 研 究 科 *	-	-	112	-	-	-
合 計	13,382	441	2,350	81	320	27

- (注) 1. 博士課程については、単位修得後退学した者は含まない。
2. * 印は旧研究科である。

■学位授与状況

(令和元年5月1日現在)

研 究 科	修士課程・博士前期課程		博士課程・博士後期課程				専門職学位課程	
	累 計	平成30年度 授 与	累 計	平成30年度授与	累 計	平成30年度授与	累 計	平成30年度 授 与
人 文 社 会 学 研 究 科	617	19	37	1	1	0	-	-
教 育 学 研 究 科	854	18	-	-	-	-	12	12
保 健 学 研 究 科	297	19	13	1	2	0	-	-
医 学 研 究 科	-	-	701	-	1,484	-	-	-
歯 学 研 究 科	-	-	136	-	71	-	-	-
理 工 学 研 究 科	7,107	273	468	9	78	1	-	-
農 学 研 究 科	2,255	71	-	-	-	-	-	-
水 産 学 研 究 科	1,281	32	-	-	-	-	-	-
医 歯 学 総 合 研 究 科	189	9	508	51	36	5	-	-
司 法 政 策 研 究 科	-	-	-	-	-	-	144	-
臨 床 心 理 学 研 究 科	-	-	-	-	-	-	164	15
連 合 農 学 研 究 科	-	-	943	33	138	1	-	-
(法 学 研 究 科)	123	-	-	-	-	-	-	-
(人 文 科 学 研 究 科)	120	-	-	-	-	-	-	-
(理 学 研 究 科)	539	-	-	-	-	-	-	-
合 計	13,382	441	2,806	95	1,810	7	320	27

(注) 医学研究科については、昭和30年国立移管後の数を計上した。

■奨学生状況

(令和元年5月1日現在)

学部・研究科等		在学生数	給付	日本学生支援機構		各種団体 育英会	計	在学生に対する 百分率
				第一種奨学生	第二種奨学生			
学部	法文学部	1,796	26	496	347	24	893	49.7
	教育学部	1,001	13	259	177	13	462	46.2
	理学部	800	13	207	154	2	376	47.0
	医学部	1,183	8	230	200	6	444	37.5
	歯学部	310	0	43	54	5	102	32.9
	工学部	1,993	19	450	369	18	856	43.0
	農学部	900	7	221	143	3	374	41.6
	水産学部	605	6	117	80	1	204	33.7
	共同獣医学部	190	0	36	28	1	65	34.2
計		8,778	92	2,059	1,552	73	3,776	43.0
大学院 (修士課程)	人文社会科学研究科	55		7	2	2	11	20.0
	教育学研究科	43		6	0	1	7	16.3
	保健学研究科	55		3	3	0	6	10.9
	理工学研究科	582		156	11	4	171	29.4
	農林水産学研究科	96		0	0	0	0	0.0
	農学研究科	54		22	0	0	22	40.7
	水産学研究科	34		11	0	1	12	35.3
	歯学総合研究科	28		1	0	1	2	7.1
	計	947		208	16	7	231	24.4
大学院 (博士課程)	人文社会科学研究科	24		4	0	1	5	20.8
	保健学研究科	27		2	0	0	2	7.4
	理工学研究科	51		6	0	0	6	11.8
	歯学総合研究科	316		23	0	5	28	8.9
	共同獣医学研究科	18		0	0	0	0	0.0
	連合農学研究科	112		12	0	0	12	10.7
	計	548		47	0	6	53	9.7
大学院 (専門職学位課程)	教育学研究科	29		1	0	0	1	3.4
	臨床心理学研究科	30		7	1	0	8	26.7
	計	59		8	1	0	9	15.3
合 計		10,332	92	2,322	1,569	86	4,069	39.4

<備考：日本学生支援機構奨学金月額(2019年度入学者)>

■給付奨学生 ●学部生のみ 自宅生:20,000(0)円／自宅外生30,000(20,000)円 ※()は授業料全額免除適用者の給付額

■第一種奨学生 ●学部生:自宅通学20,000・30,000・45,000円/自宅外通学20,000・30,000・40,000・45,000・51,000円

●大学院生:修士・博士前期課程50,000・88,000円/博士後期課程80,000・122,000円

■第二種奨学生 ●学部生:20,000・30,000・40,000・50,000・60,000・70,000・80,000・90,000・100,000・110,000・120,000円

●大学院生:50,000・80,000・100,000・130,000・150,000円

■大学独自の経済支援制度

鹿児島大学離島高等学校出身者支援スタートアップ奨学金

鹿児島県内の離島地域に所在する高等学校を卒業し、現役で鹿児島大学に入学した学部生のうち、入学年度の本学前期分授業料免除を申請し、全額免除又は半額免除を許可された学生を対象に、25万円を給付する制度である。

種村完司私費外国人留学生奨学金

鹿児島大学名誉教授で、元教育学生担当理事の種村完司氏からの寄付金を原資として、本学に在籍するアジア諸国からの私費外国人留学生を支援するために、平成22年7月に設立されたもの。出入国管理及び難民認定法別表第1の4の表に規定する「留学」の在留資格を有する者で、本学の学部および大学院の正規課程に在籍する私費外国人留学生を対象として、毎年度5名の学生に支給している。

■リポジトリ

(平成31年3月31日現在)

学 部 等	論 文 数
法 文 学 部	1,180
教 育 学 部	2,250
理 学 部	598
医 学 部	123
歯 学 部	299
工 学 部	1,064
農 学 部	2,542
水 産 学 部	1,076
共 同 獣 医 学 部	37
人 文 社 会 学 研 究 科	121
保 健 学 研 究 科	14
理 工 学 研 究 科	877
医 歯 学 総 合 研 究 科	1,141
法 科 大 学 院(2004.4~2017.3)	2
臨床心理学研究科(専門職大学院)	15
連 合 農 学 研 究 科	506
山 口 大 学 連 合 獣 医 学 研 究 科	6
鹿 児 島 大 学 病 院	56
学 内 共 同 教 育 研 究 施 設 等	1,663
教 養 部 (1965.4-1997.3)	23
学 内 プ ロ ジ ェ ク ト	246
関 連 学 会 等	302
合 計	14,141



■学術刊行物

学 部	刊 行 物	発 行 回 数
法 文 学 部	鹿児島大学法学論集	年 2 回
	経済学論集(法文学部紀要)	年 2 回
	鹿児島大学法文学部紀要人文学科論集	年 1 回
	鹿児島大学法文学部国語国文学会誌(国語国文薩摩路)	年 1 回
	鹿大史学会誌(鹿大史学)	年 1 回
	地域政策科学研究	年 1 回
教 育 学 部	Discussion Papers In Economics and Sociology	不 定 期
	鹿児島大学教育学部研究紀要(人文・社会科学編、自然科学編、教育科学編)	年 1 回
	鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属幼稚園研究誌	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属小学校研究紀要	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属中学校研究冊子	年 1 回
理 学 部	鹿児島大学理学部紀要	隔 年 1 回
	鹿児島大学医学部紀要	年 1 回
医 学 部	鹿児島大学医学雑誌	ネッ上で随時更新
歯 学 部	鹿児島大学医学部保健学科紀要	年 1 回
工 学 部	鹿児島大学歯学部紀要	年 1 回
農 学 部	鹿児島大学工学部研究報告	年 1 回
	鹿児島大学農学部学術報告	年 1 回
	鹿児島大学農学部農場研究報告	年 1 回
	鹿児島大学農学部農場技術調査報告書	不 定 期
	鹿児島大学農学部農場年報	年 1 回
水 産 学 部	鹿児島大学農学部演習林研究報告	年 1 回
	鹿児島大学水産学部紀要	年 1 回
国 際 島 嶼 教 育 研 究 セ ン タ ー	南太平洋研究	年 2 回
	南太平洋海域調査研究報告	不 定 期
	島嶼研だより	年 2 回
	South Pacific Newsletter	年 1 回
	島嶼研分室だより	年 2 回
保 健 管 理 セ ン タ ー	鹿児島大学島嶼研ブックレット	年 2 回
	年報	年 1 回
グ ローバル セ ン タ ー	紀要	年 1 回
	鹿児島大学総合研究博物館研究報告	不 定 期
総 合 研 究 博 物 館	鹿児島大学総合研究博物館モノグラフ	不 定 期
	鹿児島大学総合研究博物館ニューズレター	年 2 回
学 術 情 報 基 盤 セ ン タ ー	年報	年 1 回
	年報	年 1 回
産 学 ・ 地 域 共 創 セ ン タ ー	研究シーズ集	年 1 回
	かごしま生涯学習研究ー大学と地域	年 1 回
稲 盛 ア カ デ ミ ー	鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要	年 1 回
研 究 支 援 セ ン タ ー	動物実験施設年報	年 1 回
	遺伝子実験施設年報	年 1 回
	機器分析施設年報	年 1 回
	環境保全施設だより(旧 廃液処理センターだより)	ネッ上で随時更新

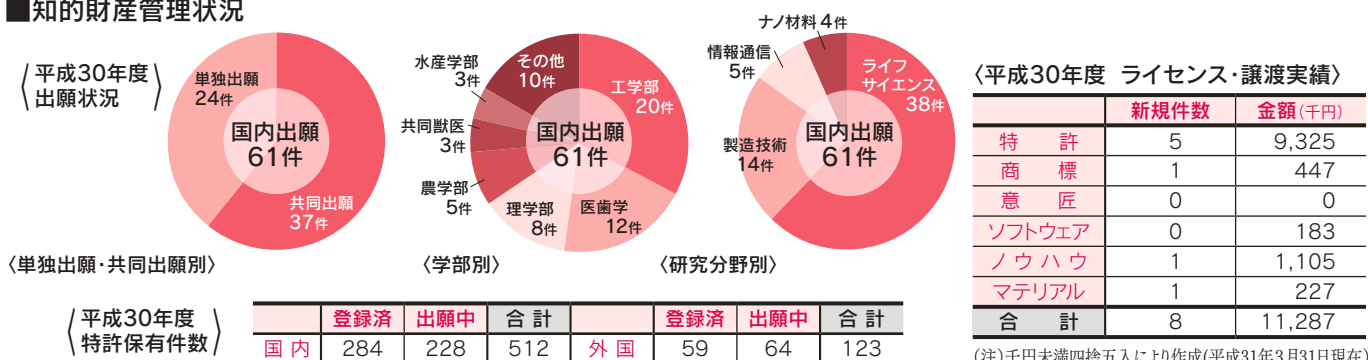
協 定

協 定 名	協 定 締 結 年 月 日
与論町地域再生計画に伴う旧与論町立診療所の施設設備等の活用に係わる施設の賃貸借料に関する協定	平成17年 2月14日
社団法人鹿児島県工業倶楽部との包括連携協力協定	平成17年10月21日
鹿児島県酒造組合との包括連携協力協定	平成18年 3月 9日
奄美市との包括連携協定	平成18年 3月13日
日本政策投資銀行との連携協定	平成18年 5月31日
鹿児島市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成19年11月30日
株式会社鹿児島銀行と国立大学法人鹿児島大学との農業経営管理システム開発事業に関する連携協定	平成20年11月28日
社団法人鹿児島青年会議所と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成20年12月26日
垂水市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成21年 1月27日
財団法人横浜企業経営支援財団との産学官連携に関する基本協定	平成21年 5月28日
国立大学法人鹿児島大学と九州森林管理局との九州の林業再生のための必要な人材育成等に関する協定	平成21年10月29日
出水市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成21年12月21日
伊仙町、国立大学法人鹿児島大学及び社団法人鹿児島県工業倶楽部との包括連携に関する協定	平成22年 3月30日
平川動物公園及びかごしま水族館を活かした地域活性化プロジェクト推進に係る産学官連携協定	平成22年 8月 9日
大崎ものづくり会館の施設使用に関する協定	平成23年 6月24日
薩摩川内市と国立大学法人鹿児島大学との次世代エネルギーに関する協定	平成24年 5月 7日
南さつま市と国立大学法人鹿児島大学との健康長寿のまちづくり推進事業に関する連携協定	平成24年 7月27日
国立大学法人鹿児島大学と独立行政法人水産総合研究センターとの包括連携に関する協定	平成25年 9月27日
公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との連携協定	平成26年 6月23日
鹿児島県と国立大学法人鹿児島大学の動物疾病制御及び関連分野に係る相互連携に関する協定	平成26年 7月 3日
特定非営利活動法人 NPO 造士館講座と国立大学法人鹿児島大学との連携協定	平成26年 7月 7日
株式会社鹿児島銀行及び野村證券株式会社との産学連携授業に関する連携協定	平成26年 9月26日
奄美群島広域事務組合との包括連携協定	平成26年11月28日
与論町漁業協同組合と国立大学法人鹿児島大学との水産学分野における実践的教育研究等に関する協定	平成27年 7月14日
鹿児島県との「雇用創出と若者定着に関する協定」(文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」関係)	平成27年12月14日
鹿児島商工会議所と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成28年 4月 7日
国立大学法人鹿児島大学と株式会社三井住友銀行との産学連携協力に関する協定	平成28年 8月29日
国立大学法人鹿児島大学と環境省自然環境局との自然環境保全に係る連携・協力に関する協定	平成28年10月31日
日置市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成28年11月 1日
大学間連携による光・赤外線天文学研究教育拠点のネットワーク構築事業に関する協定	平成29年 4月 1日
株式会社鹿児島銀行と鹿児島県内大学等(8校)との地方創生に関する取組みに関する協定	平成29年 4月 7日
志布志市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成29年 5月 8日
林野庁九州森林管理局と国立大学法人鹿児島大学の連携と協力に関する協定書	平成29年8月30日
国立大学法人鹿児島大学と大学共同利用機関法人人間文化研究機構との連携・協力に関する協定	平成30年6月 1日
伊佐市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成30年7月 6日
国立大学法人鹿児島大学と JA グループ鹿児島との組織間連携の推進に関する協定	平成31年3月 4日
南九州市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成31年3月13日
国立大学法人鹿児島大学と国立大学法人熊本大学とのヒトレトロウイルス学共同研究センターの編成及び運営に関する協定	平成31年3月18日

寄附講座

部 局 名	講 座 名	設 置 期 間	寄 附 者 名	主 な 研 究 内 容 等
医 歯 学 総 科 医 合 研 究 セ ン タ	医 療 関 節 材 料 開 発 講 座	平成18年6月1日～ 令和2年5月31日	京セラ㈱	●人工股関節の開発 ●最小侵襲手術手技(MIS)の確立と器具の開発、間接潤滑、骨吸収、骨形成、軟骨再生 ●軟骨分化 ●変形性股関節症の成因
	シ ス テ ム 血 栓 制 御 学 講 座	平成27年4月1日～ 令和2年3月31日	㈱バイオメディカルインターフェース 業種開発㈱ ㈱シノテスト ㈱ドクターズチョイス 藤森工業㈱ ㈱メディカ	●血栓症の発症機構とその制御法の基礎的、臨床的研究 ●血栓傾向、血栓症準備状態の診断技術・方法の開発と確立 ●伝統医学のサイエンス化 ●糖代謝と炎症・免疫系のクロストークの研究 ●創薬に至る前の機能性食品の開発
	が ん 病 態 外 科 学 講 座	平成29年7月1日～ 令和2年6月30日	中外製薬㈱ 社会医療法人聖医会 ㈱新日本科学	●消化器癌における微小癌細胞及びオルガノイドの基礎及び臨床研究
	漢 方 薬 理 学 講 座	平成30年1月1日～ 令和2年12月31日	クラシエ製薬(株)	●漢方薬、とりわけ人参養栄湯を中心とする補剤の薬理学的及び臨床応用研究 ●幹細胞研究やカリパー制限に応答するグレリン-神経ペプチドY(NPY)に注目し、フレイルの予防と治療法を開発
	地 域 医 療 ・ 健 康 医 学 講 座	平成30年12月1日～ 令和5年11月30日	出水市病院事業	●出水地区において、生活習慣病および消化器疾患の高リスク群を囲い込み、健康寿命の延伸を図るとともに、生活習慣病や消化器疾患の発症・重症化予防モデルを確立する。
	心 血 管 病 予 防 分 析 学 講 座	平成31年4月1日～ 令和4年3月31日	社会医療法人義順顕彰会	●心血管病を予知・予防する先制医療を実現し、健康寿命延伸に寄与するモデルとして、種子島において既存の健診を生かした島民健康分析を行う。
医 用 ミ ニ プ ラ ・ 先 端 医 療 研 究 セ ン	高 生 体 適 合 性 医 療 機 器 ・ 臓 器 開 発 講 座	平成29年6月1日～ 令和4年3月31日	社会医療法人白光会白石病院 日本ゴア㈱ ニプロ㈱ ㈱カネカメディックス ㈱ジェイ・エム・エス 有限会社中央医療器械	●血液透析臨床医療における問題点把握と既存医療機器の課題把握 ●新規医療機器の開発と前臨床研究による評価 ●脱細胞化生体組織を用いた生体適合性組織・臓器の開発

知的財産管理状況



■平成30年度鹿児島大学公開講座

講座名	学部等	開催期間	代表者	受講対象者	開催場所
「鹿児島騎射場のきさき市」の事例から地域づくりについて学ぼう	法 文 学 部	平成 30 年 4 月 27 日	酒井 佑輔 准教授	どなたでも	学習交流プラザ2階学習交流ホール
いまさら聞けない! NISA の基礎知識	法 文 学 部	平成 30 年 6 月 3 日	王 鏡凱 准教授	どなたでも (社会人)	鹿児島大学元キャンパス総研棟102号室
いまさら聞けない! 住宅ローンの基礎知識	法 文 学 部	平成 30 年 6 月 3 日	王 鏡凱 准教授	どなたでも (社会人)	鹿児島大学元キャンパス総研棟102号室
不登校の子どものことと親のこと	法 文 学 部	平成 30 年 12 月 8 日	平田 祐太郎 准教授	不登校の子どもをもつ保護者等	鹿児島大学元キャンパス
子どもの体力とからだの成長	教 育 学 部	平成 30 年 7 月 7 日	與儀 幸朝 講師	幼稚園・小学生の保護者または本講座に関心のある方	教育学部第1講義棟
タブレット PC・テレビ会議で授業力パワーアップ	教育学部附属教育実践総合センター	平成 30 年 8 月 7 日	山本 朋弘 准教授	現職教員を中心とした教育関係者	教育学部附属教育実践総合センター
小学校プログラミング教育入門	教育学部附属教育実践総合センター	平成 30 年 8 月 8 日	山本 朋弘 准教授	現職教員を中心とした教育関係者	教育学部附属教育実践総合センター
教育臨床セミナー・ベシツク篇	教育学部附属教育実践総合センター	平成 30 年 8 月 8 日	関 山 准教授	現職教員を中心とした教育関係者	学習交流プラザ
教育臨床セミナー・アドバンス篇	教育学部附属教育実践総合センター	平成 30 年 8 月 9 日	関 山 准教授	現職教員を中心とした教育関係者	学習交流プラザ
助産師の専門的実践のために必要な知識・スキル	医 学 部	平成30年6月9日,9月15日,10月6日,10月27日	若松 美貴代 助教	助産師	医学部保健学科東研究棟
理学療法士・作業療法士のためのやさしい生体力学	医 学 部	平成 30 年 6 月 23 日	大渡 昭彦 准教授	理学療法士、作業療法士など	医学部保健学科東研究棟
良い看護師になるために必要なスキルを身につけよう	医 学 部	平成30年6月30日,7月28日,9月1日	吉留 厚子 教授	看護師	医学部保健学科東研究棟
看護研究の基礎及びデータ解析入門	医 学 部	平成 30 年 7 月 21 日	吉留 厚子 教授	看護職	医学部保健学科東研究棟
高齢者の介護	医 学 部	平成 30 年 8 月 25 日	大重 匡 教授	医療・介護職	医学部保健学科東研究棟
筋萎縮性側索硬化症 (ALS) 療養者の在宅支援 (I:講義・演習)	医 学 部	平成 30 年 9 月 1 日	中保 直美 講師	看護師、保健師、介護支援専門員等	桜ヶ丘共通教育棟 医学部保健学科東研究棟
筋萎縮性側索硬化症 (ALS) 療養者の在宅支援 (II:講義のみ)	医 学 部	平成 30 年 9 月 1 日	中保 直美 講師	看護師、保健師、介護支援専門員等	桜ヶ丘共通教育棟
認知機能と生活行為リハビリテーション	医 学 部	平成30年10月18日,24日,11月4日	田平 隆行 教授	医療・保健・福祉関係者	医学部保健学科東研究棟
ジュニア陸上教室Ⅰ期 (小学生)	工学部・共通教育センター	平成30年4月8日～7月31日	塗木 淳夫 准教授	小学 1 年生～小学 6 年生	鹿児島大学グラウンド及び体育館等
ジュニア陸上教室Ⅰ期 (中学生)	工学部・共通教育センター	平成30年4月21日～7月31日	塗木 淳夫 准教授	中学 1 年生～中学 3 年生	鹿児島大学グラウンド及び体育館等
ランニング女性トップアスリート養成講座Ⅰ期	工学部・共通教育センター	平成30年4月1日～9月30日	塗木 淳夫 准教授	ランニング女性トップアスリート	鹿児島大学グラウンド及び講義室等
ジュニア陸上教室Ⅱ期 (小学生)	工学部・共通教育センター	平成30年9月22日～12月22日	塗木 淳夫 准教授	小学 1 年生～小学 6 年生	鹿児島大学グラウンド及び体育館等
ジュニア陸上教室Ⅱ期 (中学生)	工学部・共通教育センター	平成30年9月22日～12月22日	塗木 淳夫 准教授	中学 1 年生～中学 3 年生	鹿児島大学グラウンド及び体育館等
ジュニア陸上教室Ⅲ期 (小学生)	工学部・共通教育センター	平成31年1月12日～3月21日	塗木 淳夫 准教授	小学 1 年生～小学 6 年生	鹿児島大学グラウンド及び体育館等
ジュニア陸上教室Ⅲ期 (中学生)	工学部・共通教育センター	平成31年1月12日～3月21日	塗木 淳夫 准教授	中学 1 年生～中学 3 年生	鹿児島大学グラウンド及び体育館等
ランニング女性トップアスリート養成講座Ⅱ期	工学部・共通教育センター	平成 31 年 1 月 4 日～3 月末	塗木 淳夫 准教授	ランニング女性トップアスリート	鹿児島大学グラウンド及び講義室等
果樹を身近に感じてみませんか「ブルーベリー」の収穫体験	農学部附属農場	平成 30 年 7 月 12 日	朴 炳宰 准教授	どなたでも (社会人)	農学部附属農場唐湊果樹園
夏休み体験学習「ブルーベリーを育ててみよう! 収穫してみよう!」	農学部附属農場	平成 30 年 7 月 25 日	朴 炳宰 准教授	親子 (小学生)	農学部附属農場唐湊果樹園
熱帯果樹に触れてみよう。	農学部附属農場	平成 30 年 7 月 26 日	朴 炳宰 准教授	どなたでも (社会人)	農学部附属農場指宿植樹試験場
附属農場市民講座「鹿児島の伝統野菜作り教室」	農学部附属農場	平成30年09月3日,10月24日,11月14日,12月5日,12月26日,平成31年1月16日	朴 炳宰 准教授	どなたでも (社会人)	農学部附属農場
「林業生産専門技術者」養成プログラム (科目 A: 素材生産と再造林の課題)	農学部附属演習林	平成 30 年 6 月 26 日～6 月 28 日	牧田 邦宏 教授	素材生産事業を実施している林業事業体の管理者や生産班長、また、本講座内容に強い関心をお持ちの方	農学部附属高陽演習林
「林業生産専門技術者」養成プログラム (科目 B: ICT を活用した林業経営と加工流通事情)	農学部附属演習林	平成 30 年 7 月 19 日～7 月 21 日	寺岡 行雄 教授	素材生産事業を実施している林業事業体の管理者や生産班長、また、本講座内容に強い関心をお持ちの方	農学部附属高陽演習林
「林業生産専門技術者」養成プログラム (科目 C: 路網設計と作業システムの選択・評価)	農学部附属演習林	平成 30 年 8 月 28 日～8 月 31 日	岡 教授	素材生産事業を実施している林業事業体の管理者や生産班長、また、本講座内容に強い関心をお持ちの方	農学部附属高陽演習林
「林業生産専門技術者」養成プログラム (科目 D: 施業集約化と事業体会計)	農学部附属演習林	平成 30 年 10 月 23 日～10 月 26 日	奥山 洋一郎 助教	素材生産事業を実施している林業事業体の管理者や生産班長、また、本講座内容に強い関心をお持ちの方	農学部附属高陽演習林
焼酎マイスターリカレント講座①焼酎学の基礎	農学部附属焼酎・発酵学教育研究センター	平成 30 年 5 月 19 日～7 月 28 日	高峯 和則 教授	鹿児島県酒造組合から焼酎マイスターの称号を付与された者	農・獣医共通棟
焼酎マイスターリカレント講座②焼酎製造の実際	農学部附属焼酎・発酵学教育研究センター	平成 30 年 6 月 2 日～10 月 27 日	高峯 和則 教授	鹿児島県酒造組合から焼酎マイスターの称号を付与された者	農・獣医共通棟
焼酎マイスターリカレント講座③焼酎の商品知識	農学部附属焼酎・発酵学教育研究センター	平成 30 年 6 月 30 日～10 月 6 日	高峯 和則 教授	鹿児島県酒造組合から焼酎マイスターの称号を付与された者	農・獣医共通棟
焼酎マイスターリカレント講座④焼酎文化論	農学部附属焼酎・発酵学教育研究センター	平成 30 年 5 月 12 日～12 月 1 日	高峯 和則 教授	鹿児島県酒造組合から焼酎マイスターの称号を付与された者	農・獣医共通棟
焼酎マイスターリカレント講座⑤焼酎マーケティング	農学部附属焼酎・発酵学教育研究センター	平成 30 年 8 月 4 日～平成 31 年 2 月 2 日	高峯 和則 教授	鹿児島県酒造組合から焼酎マイスターの称号を付与された者	農・獣医共通棟
親子で冒険! かごしまの海 2018	水 産 学 部	平成 30 年 8 月 5 日	大富 潤 教授	子どもとその保護者 (小学生以上)	水産学部キャンパス錦江湾 (附属練習船南里丸)
ワンダフルライフを楽しもう! 子犬のしつけ方教室 1	共同獣医学部	平成 30 年 5 月 19 日	岩永 朋子 特別助教	わんちゃんを飼育されている方 (成人のみ対象) (大同併)	共同獣医学部附属動物病院
ワンダフルライフを楽しもう! 子犬のしつけ方教室 2	共同獣医学部	平成 30 年 6 月 30 日	岩永 朋子 特別助教	わんちゃんを飼育されている方 (成人のみ対象) (大同併)	共同獣医学部附属動物病院
ワンダフルライフを楽しもう! 子犬のしつけ方教室 3	共同獣医学部	平成 30 年 12 月 15 日	岩永 朋子 特別助教	わんちゃんを飼育されている方 (成人のみ対象) (大同併)	共同獣医学部附属動物病院
ワンダフルライフを楽しもう! トレーニング編 1	共同獣医学部	平成 30 年 9 月 1 日	岩永 朋子 特別助教	わんちゃんを飼育されている方 (成人のみ対象) (大同併)	共同獣医学部附属動物病院
ワンダフルライフを楽しもう! トレーニング編 2	共同獣医学部	平成 31 年 3 月 30 日	古澤 悠 特任助教	わんちゃんを飼育されている方 (成人のみ対象) (大同併)	共同獣医学部附属動物病院
痛みからの解放	大 学 病 院	平成 30 年 10 月 28 日	上村 裕一 教授	どなたでも	かごしま県民交流センター
高齢がん患者の意思決定支援 - 診断期・治療期を支えるために -	大 学 病 院	平成 30 年 9 月 1 日	市村 カツ子 看護部長	一般病院・訪問看護ステーションに勤務する看護師 (ラダーⅡ相当)	大学病院 C 棟
重症患者の離床・安全に早期離床を進めよう	大 学 病 院	平成 30 年 10 月 20 日	市村 カツ子 看護部長	経験10年未満の看護職	大学病院 C 棟
がん化学療法の基礎と明日からの実践に役立つセルフケア指導 - 分子標的薬剤による皮膚障害を中心に -	大 学 病 院	平成 30 年 10 月 27 日	市村 カツ子 看護部長	一般病院で化学療法看護に携わる看護職 (ラダーⅡ相当の者)	医学部鶴陵会館
マイクロカプセルって何? - マイクロカプセルを知って万華鏡を作ろう -	理工学研究科	平成 30 年 8 月 9 日	大角 義浩 技術長	中学生・高校生	工学系講義等
路面電車整備員学会 (機械の日 関連行事)	理工学研究科	平成 30 年 8 月 23 日	池田 徹 教授	小学生・中学生と保護者	鹿児島市交通局電車施設
第2回摂食嚥下リハビリテーション研修講座 初級コース	医歯学総合研究科	平成 30 年 9 月 5 日～11 月 21 日	三 恭 宏 准教授	医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、栄養士、リハ職	医学部臨床講義棟
最新脳卒中の講義と実技セミナー「今日から使える脳卒中リハビリの知識と看護・介護技術」	医歯学総合研究科	平成 30 年 12 月 16 日	下 堂 蘭 恵 教授	看護師、保健師、介護士、社会福祉士、ケアマネージャー、一般	大学病院総合臨床研修センター
高齢者の誤嚥性肺炎防止に関する解剖学的、生理学的、細菌学的解説	医歯学総合研究科	平成 30 年 12 月 1 日	南 弘之 教授	歯科医師および歯科診療に関わる全の方	薩摩川内市川内文化ホール
発見! 体感! 本物の海藻を見てさわって食べて、「海の森」図鑑をつくろう	連 合 農 学 研 究 科	平成 30 年 7 月 22 日 29 日 (両日を通して1回、片方のみの参加は不可)	寺田 竜太 教授	小学 5、6 年生	水産学部 5 号館
放射線ってどんなもの? ～目に見えない放射線の世界～	研究支援センター	平成 30 年 7 月 25 日	仲谷 英夫 教授	小学 5 年生～中学 3 年生	農・獣医共通棟

■大学間学術交流協定校(25カ国・地域、86機関)

(令和元年5月1日現在)

国・地域	締結機関名	締結年月日
インド	カルナタカ国立工科大学	2005年3月23日
	アンダラス大学	2003年12月1日
インドネシア	インドネシア大学	2009年12月9日
	ボゴール農科大学	2010年6月4日
	ディボネゴロ大学	2008年6月30日
	バンドン工科大学	2010年11月22日
	サムラランギ大学	2011年2月8日
	パティムラ大学	2014年3月25日
	スリウィジャヤ大学	2015年11月2日
	メジョー大学	2001年4月30日
タイ	国立モンクット王工科大学トンブリ校	2002年1月16日
	国立モンクット王工科大学ラカバン校	2016年4月1日
	カセサート大学	2005年12月19日
	スラナリ工科大学	2009年4月17日
韓国	釜慶大学校	1995年7月6日
	全北大学校	1997年4月22日
	群山大学校	1997年12月1日
	済州大学校	1998年1月30日
	江陵原州大学校	2001年2月8日
	江原大学校	2002年4月5日
	公州大学校	2004年10月18日
	木浦大学校	2010年5月28日
	祥明大学校	2013年5月13日
	忠北大学校	2016年8月18日
中国	韓国外国語大学校	2013年1月22日
	湘潭大学	1986年12月11日
	雲南農業大学	1989年5月11日
	湖南農業大学	1989年6月2日
	中南大学	1993年6月15日
	中国医科大学	1993年9月13日
	湖南大学	1995年8月23日
	南京工業大学	1999年9月14日
	東北師範大学	2001年11月13日
	中国人民大学	2002年7月1日
	東北大学	2004年12月3日
	重慶大学	2006年5月22日
	山東師範大学	2009年12月24日
	上海海洋大学	2011年10月24日
	首都経済貿易大学	2013年3月1日
	華東政法大学	2013年10月10日
	大連海事大学	2015年7月27日
バングラデシュ	ダッカ大学	2013年12月24日
	バングラデシュ農業大学	2014年12月27日

国・地域	締結機関名	締結年月日
フィリピン	フィリピン大学	2007年12月12日
	フィリピンポリテクニク大学	2017年4月1日
ベトナム	ベトナム国家農業大学	2002年3月6日
	ハノイ貿易大学	2002年12月25日
	ベトナム社会科学院	2007年5月23日
	ニャチャン大学	2015年7月31日
ミャンマー	獣医科学大学	2018年12月24日
マレーシア	マレーシアアトレンガヌ大学	2005年4月22日
	マレーシアサバ大学	2009年3月4日
	マレーシアブトラ大学	2010年3月16日
台湾	マレーシア国際イスラム大学	2013年10月29日
	淡江大学	2005年11月5日
	国立高雄科技大學	2008年2月29日
	国立中興大学	2009年4月1日
	国立高雄大学	2016年4月7日
オーストラリア	国立成功大学	2005年12月23日
	国立台湾海洋大学	2010年7月15日
	ニューイングランド大学	1995年7月20日
	シドニー工科大学	2000年3月1日
パプアニューギニア	パプアニューギニア大学	1987年5月29日
南太平洋12カ国・地域	南太平洋大学	1982年7月21日
アメリカ合衆国	ジョージア大学	1979年11月29日
	マイアミ大学	1992年11月30日
	グアム大学	2006年4月5日
	アルフレッド大学	2006年11月8日
	西ジョージア大学	2007年5月23日
	サンノゼ州立大学	2012年4月23日
	ノースダコタ州立大学	2014年1月15日
ブラジル	ハワイ大学マノア校	2018年8月8日
	サンカルロス連邦大学	2011年8月19日
スウェーデン	アマゾナス連邦大学	2016年4月28日
	リンシェーピング大学	2010年6月11日
スペイン	バレンシア工芸大学	2000年2月7日
スロバキア	スロバキア農業大学	2015年5月1日
ドイツ	カール・フォン・オシエツキー大学	2015年7月27日
	オルデンプルク	2013年11月5日
フランス	ロットテンブルク林業大学	2013年11月5日
	レンヌ第2オート・ブルターニュ大学	2010年7月1日
トルコ	ボルドー・モンテーニュ大学	2017年1月26日
	アンカラ大学	2012年12月10日
パラグアイ	国立アスンシオン大学	2016年3月9日
エジプト	カフルアッシャイフ大学	2011年9月5日
	ベンハ大学	2018年8月7日
イラン	イスファハン医科大学	2017年4月18日

■部局間学術交流協定校(25カ国・地域、68機関)

(令和元年5月1日現在)

国・地域	締結機関名	締結年月日
法文学部		
中国	内蒙古師範大学外国語学院	2017年6月19日
フランス	欧亜高等管理学院 フルターニュー・アトランティック・ビジネススクール	2019年4月19日
ドイツ	ミュンヘン大学 東アジア研究部日本センター	2003年10月29日
法文学部・人文社会科学研究科		
韓国	釜山大学校社会科学大学	2007年3月8日
中国	内蒙古大学民族学与社会学学院	2016年11月1日
	上海海事大学外国語学院	2018年7月1日
台湾	国立暨南国際大学人文学院	2017年4月18日
タンザニア	セントオーガスティン大学タンザニア	2018年12月16日
教育学部		
台湾	国立台北教育大学	2012年4月1日
ドイツ	ボン大学哲学部	2006年9月26日
フランス	国立障害者教育指導方法高等研究所	2013年9月24日
教育学部附属中学校		
台湾	台北市立大直高級中学校	2013年12月16日
医学部		
韓国	中央大学校赤十字看護大学	2012年11月15日
鹿児島大学病院		
韓国	韓国中央大学病院	2015年1月28日
歯学部		
中国	香港大学歯学部	2017年7月11日
台湾	国立陽明大学歯学部 高雄医学大学歯学部	2017年8月12日 2017年8月7日
インドネシア	国立アイルランガ大学歯学部	2012年11月19日
タイ	プリンスオブソンクラ大学歯学部	2018年7月4日
ミャンマー	ヤンゴン歯科大学 マンダレー歯科大学	2014年10月30日 2014年10月30日
カナダ	ブリティッシュコロンビア大学歯学部	2014年11月17日
工学部		
タイ	チュラロンコン大学 石油及び石油化学研究科	2000年7月28日
農学部		
中国	四川大学錦江学院白酒学部 華中農業大学	2011年12月16日 2018年5月22日
台湾	中国文化大学農学院	2012年10月3日
タンザニア	ソコイネ農科大学 セントオーガスティン大学タンザニア	1999年8月30日 2018年4月19日
タイ	メーファンラン大学農産学学部	2016年11月14日
マラウイ	リロングウェ農業天然資源大学 マラウイ科学技術大学	2016年8月23日 2019年3月25日
ミャンマー	パテイン大学	2016年12月4日
メキシコ	ヌエボレオン自治大学	2019年1月22日
共同獣医学部		
バングラデシュ	チッタゴン獣医動物科学大学	2013年6月23日
ドイツ	ベルリン自由大学	2018年7月6日
フランス	ヴェットアグロスープ (フランス獣医学農学高等教育学校)	2015年8月25日
ポルトガル	トラスモンテスアルトデウオ大学獣医学部	2019年2月13日
トルコ	アフイヨン・コジャテペ大学	2014年4月1日
インドネシア	アイルランガ大学獣医学部	2018年3月1日
ベトナム	タイグエン農林大学動物科学・獣医学部	2018年10月3日

国・地域	締 結 機 関 名		締結年月日
水産学部			
インドネシア	ハサヌディン大学海洋科学水産学部		2007年11月17日
タイ	東南アジア漁業開発センター		2003年12月3日
韓国	韓国海洋科学技術院		2017年5月22日
中国	大連海洋大学		2003年10月21日
	浙江海洋学院		2011年4月5日
	中国国家海洋局第2研究所		2014年10月9日
	華中農業大学水産学院		2018年7月27日
台湾	国立嘉義大学生命科学院		2016年11月28日
フィリピン	サンカルロス大学文理学部		2012年5月30日
ベトナム	カントー大学水産・養殖学部		2009年5月25日
スペイン	アリカンテ大学		2012年3月28日
エリトリア	海洋科学技術大学		2011年4月30日
エジプト	エジプト国立海洋水産研究所		2018年3月20日
トルコ	チャナツカレ・オンセキズ・マルト大学		2017年12月21日
ブラジル	アマゾン連邦農業大学		2019年2月28日
大学院国際連携プログラムの形成のための包括協定	サムラトランギ大学（インドネシア）		2014年8月19日
	フィリピン大学ヴィサヤス校（フィリピン）		
	カセサート大学（タイ）		
	トレンガヌ大学（マレーシア）		2016年2月29日
	ニャチャン大学（ベトナム）		
	ボゴール農科大学（インドネシア）		2019年1月15日
理工学研究科			
韓国	韓国沿岸生態学研究所（海洋環動物資源バンク）		2016年11月28日
台湾	国立台湾海洋理学部		2019年1月19日
アメリカ合衆国	州立ニューヨークシティ大学エネルギー研究所		2015年11月30日
フランス	リヨン化学物理電子学院（理工系高等専門教育機関）		2014年10月3日
	ピエール&マリー・キュリー大学（パリ第6大学）		2017年3月31日
イタリア	フィレンツェ大学建築学科		2016年10月13日
スイス	西スイス応用科学技術大学		2017年7月4日
フランスー日本ーベトナム特異点ネットワーク（国際研究ネットワーク（GDRI））	フランス国立科学研究センター（フランス）		2015年1月1日
	エックス・マルセーユ大学（フランス）		
	ソフィア・アンティポリス・ニース大学（フランス）		
	パリ・ディデロ・パリ第7大学（フランス）		
	ピエール・エマリー・キュリー・パリ第6大学（フランス）		
	ストラスブール大学（フランス）		
	ベトナム科学技術アカデミー（ベトナム）		
	北海道大学（日本）		
	東北大学（日本）		
九州大学（日本）			
医歯学総合研究科			
中国	徐州医科大学		2018年5月11日
インドネシア	ジェンバー大学医学部		2008年3月25日
タイ	プリンスオブソンクラ大学医学部		2011年3月11日
バングラデシュ	ダッカ医科大学・附属病院		2014年6月17日
ベトナム	ハノイ医科大学		2008年5月9日
ネパール	ネパールガンジ医科大学		2016年7月31日

■外国へ留学した学生数

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
大 学 間 学 術 交 流 協 定 校	18	18	28
部 局 間 学 術 交 流 協 定 校	5	6	6
鹿児島大学学生海外研修支援事業参加学生総数	290	223	228
トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム	13(10)	10	13(11)
鹿児島県清華大学留学支援奨学金交付事業	5	4	2
鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業(長期派遣留学、中期派遣留学)	9	28	24
そ の 他 (個 人 渡 航 等)	52	28	39
合 計	389	317	338

(注)()内は、トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラムの留学生数のうち学术交流協定校への留学生数を除いた数を示す。

■鹿児島大学学生海外研修支援事業

大学憲章に基づき、自主自律と進取の精神を併せ持ち、かつ社会の発展に貢献し、国際社会で活躍できる人材の育成を図るため、本学で実施する学生の海外研修を支援することを目的とする。(平成22年度より実施)

(平成30年度実績)

開講部局	開講期	授業科目名	授業担当者所属部局	支援対象人数	研修開始日	研修終了日	日数	派遣国
高等教育研究開発センター	前期	太平洋島嶼学特論 ※	国際島嶼教育研究センター	6名	H30.9.2	H30.9.9	8	ミクロネシア連邦・グアム
共通教育センター	前期	海外研修基礎コース in カリフォルニア ※	グローバルセンター	11名	H30.9.2	H30.9.16	15	アメリカ合衆国
	前期	南米における進取の気風研修計画 ※	法 文 学 部	7名	H30.9.3	H30.9.16	14	ブラジル
	前期	社会システム・政策研究(タイ研修) ※	グローバルセンター	7名	H30.9.16	H30.9.28	13	タイ
	前期	国際協力体験講座ーミャンマーコースー	農 学 部	8名	H30.8.16	H30.8.27	12	ミャンマー
	前期	グローバル人材育成(米国ノースダコタ)	グローバルセンター	6名	H30.8.21	H30.9.11	22	アメリカ合衆国
	前期	進取の精神海外研修 in ベトナム	稲盛アカデミー	5名	H30.8.25	H30.9.1	8	ベトナム
	後期	国際感覚を持つバイテク人材育成 ※	農 学 部	8名	H31.2.12	H31.2.23	12	タイ
	後期	グローバル人材育成(雲南)	農 学 部	4名	H31.3.5	H31.3.18	14	中国
	後期	海外研修基礎コース in 東南アジア	グローバルセンター	15名	H31.2.16	H31.3.2	15	シンガポール
	後期	海外研修基礎コース in ハワイ	共通教育センター	13名	H31.3.7	H31.3.18	12	アメリカ合衆国
法 文 学 部	前期	文化人類学実習 ※	法 文 学 部	10名	H30.8.26	H30.8.31	6	韓国
	前期	海外異文化体験実習(台湾の歴史と多様性を学ぶ) ※	法 文 学 部	13名	H30.9.18	H30.9.27	10	台湾
	前期	海外短期留学Ⅰ	法 文 学 部	3名	H30.9.2	H30.9.23	22	アメリカ合衆国
	前期	実践演習(外国の法を学ぶ)	法 文 学 部	4名	H30.9.24	H30.10.2	9	カナダ
	後期	海外異文化体験実習(イスラームの多様性を学ぶ) ※	法 文 学 部	9名	H31.2.11	H31.2.22	12	イラン
医 学 部	前期	国際看護学	医 学 部	6名	H30.8.26	H30.9.1	7	韓国
歯 学 部	前期	歯学研究Ⅰ(カナダ)	歯 学 部	3名	H30.9.15	H30.9.30	16	カナダ
農 学 部	前期	国際森林論 ※	農 学 部	11名	H30.9.14	H30.9.26	13	ドイツ
	前期	食料環境システム学Ⅲ ※	農 学 部	6名	H30.9.17	H30.9.26	10	タイ
	後期	インドネシア研修	農 学 部	2名	H31.2.13	H31.2.26	14	インドネシア
水 産 学 部	前期	海外研修、実用英語(海外研修)	水 産 学 部	34名	H30.8.13 H30.9.12	H30.8.29 H30.9.28	17	フィリピン
共同獣医学部	前期	獣医学特別研修(北米)	共同獣医学部	2名	H30.8.11	H30.8.27	17	アメリカ合衆国
	前期	獣医学特別研修(台湾)	共同獣医学部	3名	H30.8.25	H30.9.8	15	台湾
農 学 研 究 科	前期	食料環境システム学特論Ⅱ ※	農 学 部	8名	H30.9.17	H30.9.26	10	タイ
	後期	国際バイテク・リーダー育成 ※	農 学 部	2名	H31.2.12	H31.2.23	12	タイ
水産学研究科	前期	Tropical Fisheries	水 産 学 部	2名	H30.6.25	H30.7.7	13	フィリピン
医 歯 学 総 合 研 究 科	前期	小児外科学実験 ※	医 学 部	1名	H30.6.4	H30.6.16	13	アメリカ合衆国
合 計				209名				

(注)※は、鹿大「進取の精神」支援基金による支援(地域貢献型)

鹿大「進取の精神」支援基金事業

鹿児島地域の活性化に資するグローバル人材を育成することを目的として、学生海外派遣事業、外国人留学生受入推進事業、若手研究者支援事業等を行う。（平成28年度より実施）
（平成30年度実績）

事業名		概要	支援人数	支援実績
学生海外派遣事業	長期派遣留学	グローバルな視座で革新的に地域を見る目を備え、新たな視点で仕事を創出して地域活性化に資する、将来鹿児島地域の地域で活躍するグローバル人材を育成することを目的とする。留学期間は、原則として10週間以上1年未満。	8	ウガンダ2名、ケニア2名、スイス1名、タイ1名、米国2名
	中期派遣留学	地域活性化に資する人材育成を目的とした、専門・語学学習及び研究、実習、インターンシップ等実地体験を組合せた海外派遣事業科目等を支援対象とする。留学期間は、29日以上90日以下。	16	医学部：ドイツ6名、インドネシア2名、韓国1名 医歯学総合研究科：カナダ1名 理工学研究科：米国5名、オーストラリア1名
	地域貢献型海外研修	地域貢献型海外研修は、地域貢献をテーマに組込んだ28日以下の海外研修授業を支援対象とする。	99	詳細は、「鹿児島大学学生海外研修支援事業（地域貢献型海外研修）」に掲載
留学生受入推進事業	研究留学生	優秀な留学生を鹿児島に呼び込み、鹿児島のよき理解者として出身国と鹿児島をつなぐグローバルな視点を持った人材を育成することを目的とする。申請者である指導教員の下で、卒論、修論、博論等の作成を目指した研究活動の一部を行うものとし、学術交流協定校（学生交流の覚書締結校）から学部生または大学院生を本学に招致する。留学期間は6ヶ月間。	9	共同獣医学部：（バングラデシュ）チッタゴン獣医動物科学大学2名 医歯学総合研究科：（中国）中国医科大学2名 農学研究科：（タイ）国立モンクット王トンプリ工科大学2名 農学部：（タイ）メーファンラン大学2名（ベトナム）ベトナム国家農業大学1名 詳細は、「学術国際交流協定締結状況」に掲載
	鹿児島日本語研修生	鹿児島大学と学生交流協定、またはそれに準ずる協定を締結している海外の大学のうち、あらかじめ本学が定めた大学から日本語または日本語関連分野を学ぶ学部学生を鹿児島大学に5ヶ月または11ヶ月間受け入れ、日本語力の向上を目指すとともに地域と連携した多様な活動の場を提供し、日本・鹿児島への理解を深めることを目的とする。	5	（インドネシア）アングラス大学2名、ティボネゴロ大学2名（アメリカ合衆国）ジョージア大学1名 詳細は、「学術国際交流協定締結状況」に掲載
若手研究者支援事業	地域貢献型海外研修	次世代を担う若手教員の教育研究能力等の向上を図るため、海外の教育研究機関での研修支援や、若手研究者や女性研究者の研究活動費の助成を行う事業の中でも特に、鹿児島地域への貢献、活性化につながるテーマを持つ研修および研究活動を支援対象とする。研修期間は2ヶ月以上1年以内。	2	医歯学総合研究科：ハンガリー1名 グローバルセンター：英国1名 詳細は、「鹿児島大学若手教員海外研修支援事業（地域貢献型）」に掲載
	海外語学研修	若手教員を英語による教育手法等の研修に派遣し、その成果を英語による授業に生かすことを目的とする。	6	オーストラリア6名

海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）

- 海外留学支援制度（協定派遣）

日本の大学等と諸外国の高等教育機関との学生交流に関する協定等に基づいて、在籍大学等に在籍したまま8日以上1年以内の期間、在籍大学等が実施する派遣プログラムに参加する学生に対し、独立行政法人日本学生支援機構が奨学金を支給するもの。
- 海外留学支援制度（協定受入）

日本の大学等と諸外国の高等教育機関との学生交流に関する協定等に基づいて、諸外国の大学等に在籍したまま8日以上1年以内の期間、受入れ大学等が実施する受入れプログラムに参加する学生に対し、独立行政法人日本学生支援機構が奨学金を支給するもの。

（平成30年度実績）

プログラム区分	プログラム名	国または地域	人数	プログラム開始日	プログラム終了日
派遣	ひっ飛び！進取の気風派遣留学プログラム	アメリカ合衆国、オーストラリア、スウェーデン、スペイン、スロバキア、タイ、大韓民国、台湾、中国、ドイツ、フィリピン、フランス	26	H30.4.6	R2.2.7 予定
派遣	地域社会のグローバル化に資する人材育成プログラム	タイ、中国、台湾	37	H30.9.17	H31.3.17
派遣	第7回 南米における進取の気風研修計画	ブラジル	7	H30.9.2	H30.9.15
派遣	グローバル・バイテク人材育成のための海外研修プログラム in タイ	タイ	11	H31.2.13	H31.2.22
派遣	国際水準を満たす臨床獣医学教育のための研修派遣プログラム	アメリカ合衆国	4	H30.8.11	H30.8.26
派遣	ボーダレス獣医学教育を目指したアジア獣医学教育体験研修プログラム	台湾	3	H30.8.26	H30.9.8
派遣	大学院理工系イノベーション海外研修プログラム（カリフォルニア研修） Graduate Overseas Engineering and Science Studies for Innovation (GOESCA)	アメリカ合衆国、オーストラリア	6	H30.6.25	H30.9.21
派遣	全学的カリキュラムとして実施する国際プロフェッショナル人材育成プログラム	アメリカ合衆国、シンガポール	53	H30.8.22	H31.3.16
派遣	イスラームの多様性を理解するためのトルコ・イラン研修	イラン	10	H31.2.12	H31.2.20
派遣	熱帯水産学国際連携プログラムの推進（派遣）	フィリピン、タイ	17	H30.6.26	H30.9.26
派遣※	（平成29年度）ひっ飛び！進取の気風派遣留学プログラム	アメリカ合衆国、オーストラリア、スウェーデン、スペイン、大韓民国、台湾、ドイツ、ブラジル、フランス、マレーシア、中国	24	H30.4.1	H31.2.9
受入	グローバル人材育成プログラム・鹿児島（協定受入）	中国	6	H30.12.5	H30.12.13
受入	アジアにおける神経科学の共同研究体制形成に向けた人材育成	インドネシア、中国	3	H30.10.1	R2.3.9 予定
受入	熱帯水産学国際連携プログラムの推進（受入）	インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア	12	H30.8.18	H30.9.26
受入※	（平成29年度）アジアにおける神経科学の共同研究体制形成に向けた人材育成	中国	1	H30.4.1	H30.12.31

（注）※は、平成29年度に採択されたプログラムで平成30年度に継続実施した分です。

鹿児島大学学生海外留学支援事業

大学憲章及び学生憲章に謳われている「進取の気風にあふれ、困難な課題に果敢に挑戦し、国際的に通用する人材」を育成するため、海外の学術協定交流校へ6月以上1年未満の期間に留学する日本人学生および「鹿児島県清華大学留学支援奨学金交付事業」で留学する日本人学生を経済的に支援することを目的とする。(平成23年度より実施)

派遣年度	支援人数合計	支援実績(派遣国・地域、支援人数)
平成23年度	6名	韓国4名、台湾1名、ドイツ1名
平成24年度	12名	タイ1名、中国3名、ドイツ3名、フランス1名、台湾3名、韓国1名
平成25年度	8名	韓国2名、台湾2名、スペイン1名、フランス2名、ドイツ1名
平成26年度	15名	米国1名、オーストラリア1名、スウェーデン1名、タイ1名、韓国4名、中国1名、ドイツ1名、フィリピン1名、フランス2名、台湾2名
平成27年度	20名	米国3名、オーストラリア2名、スウェーデン3名、タイ1名、韓国4名、ドイツ2名、フランス2名、台湾1名、インドネシア1名、スペイン1名
平成28年度	19名	米国2名、オーストラリア2名、スウェーデン3名、韓国4名、ドイツ3名、フランス2名、インドネシア1名、スペイン2名
平成29年度	31名	米国4名、オーストラリア3名、スウェーデン1名、スペイン2名、ドイツ4名、フランス2名、インドネシア1名、タイ1名、韓国5名、台湾2名、中国4名、マレーシア1名、ブラジル1名
平成30年度	23名	米国2名、オーストラリア2名、スウェーデン1名、ドイツ4名、フランス3名、タイ2名、韓国4名、台湾1名、中国2名、スロバキア1名、フィリピン1名

鹿児島大学学生海外学会発表支援事業

大学憲章に基づき、自主自律と進取の精神を併せ持ち、かつ社会の発展に貢献し、国際社会で活躍できる人材の育成を図るため、海外で研究発表を行う学生を支援することを目的とする。

(平成26年度より実施)

申請者所属部局	28年度	29年度	H30年度
理工学研究科(理学系)	14名	13名	10名
理工学研究科(工学系)	16名	24名	35名
医学部	5名	1名	
歯学部	2名		
水産学研究科	2名	3名	2名
医歯学総合研究科	14名	10名	1名
保健学研究科		2名	
農学研究科		8名	2名
連合農学研究科	2名	4名	5名
人文社会科学研究科	1名		
医用ミニブタ・先端医療開発研究センター	1名		
合計支援者数	57名	65名	55名

鹿児島大学若手教員海外研修支援事業

次世代を担う若手教員の海外の教育研究機関等における研修を支援することにより教育研究能力等の向上を図り、本学の教育研究の国際的通用性・共通性の向上に資することを目的とする。(平成21年度より実施)

研修開始年度	部局名	研修先(国名)	研修題目
平成28年度 (研修人数6名)	法文学部	アメリカ	社会心理・行動研究に関する進化論的視点の洗練と研究ネットワークの構築
	教育学部	フランス	メイエルソン文書の研究～フランス歴史心理学の形成～※
	理工学研究科(理学系)	アメリカ	アルマ望遠鏡、VLA望遠鏡を用いた晩期型星周領域の研究
	理工学研究科(工学系)	オーストラリア	地盤災害に関する数値解析プログラムの開発と土木工学の研究教育方法や研究教育体制に関する研修
	農学部	アメリカ	窒素安定同位体を用いた樹木の窒素吸収経路および窒素吸収量の推定手法の修得※
平成29年度 (研修人数5名)	共同獣医学部	カナダ	新規腸管漏出モデルマウスを利用した機能性食品によるアレルギー発症抑制メカニズム
	法文学部	イギリス	デジタル時代における映像都市論の構築と国際研究ネットワークの形成
	法文学部	台湾	台湾における母語運動の参与調査と地域間交流体制の構築 ※
	教育学部	アメリカ	風・気球・ドローンを用いたリモートセンシング手法に関する研究 ※
	理工学研究科(工学系)	アメリカ	粘着性液状原料由来粉体の流動性改善に関する粒子工学的研究
平成30年度 (研修人数4名)	鹿児島大学病院	アメリカ	頭蓋咽頭腫における遺伝子変異の検出および、dabrafenib、trametinibによる薬物療法に関する研究
	農学部	フィンランド	広域における高精度森林資源情報の取得とICTによる高次利用
	水産学部	ノルウェー・スペイン	欧州漁業生産システムにおける省エネルギー・省力化に関する研究
	医歯学総合研究科(歯学系)	ハンガリー	視床から大脳新皮質へのダイバージェンス回路による情報統合機構の解明 ※
	グローバルセンター	英国	日本語学習者の留学による言語能力評価ギャップ解消に向けた調査研究 ※

(注)※は、鹿大「進取の精神」支援基金 若手研究者支援事業(地域貢献型)の支援

■外国人研究者等受入状況

【経費別】

(平成30年度実績)

区 分	法文学部	教育学部	医学部	鹿児島大学病院	農学部	水産学部	共同獣医学部	理工学研究科(理)	理工学研究科(工)	医歯学総合研究科	連合農学研究科	機 構	学共施設等	事務局	合 計
文部科学省／日本学術振興会(JSPS)	1								2				4		7
科学研究費以外					4						1			2	7
国際協力機構(JICA)						8				8					16
外国政府・機関等支弁による研究員				4	24	7	3	2				1	2	13	56
私 費 等				3						3					6
そ の 他	8	26	3	21	21	11	3	1	5	6		2	2	46	155
合 計	9	26	3	28	49	26	6	3	7	17	1	3	8	61	247

■教職員の海外渡航件数

【地域別】

(平成30年度実績)

地 域	法文学部	教育学部	医学部	鹿児島大学病院	農学部	水産学部	共同獣医学部	理工学研究科(理)	理工学研究科(工)	医歯学総合研究科	臨床心理学研究科	連合農学研究科	機 構	学共施設	事務局	合 計
	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修
アジア	12 7	6	4 1	29 4	40 6	45	7 9	17 4	56 2	39 13		1	19 8	18 1	5	298 55
大洋州	2 2	3		5 1	1 1	4 1		2	5	3 2			11		1	37 7
北 米	6 1	4 1	4	48 1	4	6	9	9	22	50 5	1		5 1			168 9
中南米	4			2	4	4		2	1	1					3	21 0
欧 州	8 2	7 1	2	37	10 2	5 3	9 1	17 1	35	41 3	1		13 4	3	6	194 17
中 東	1			3 1	2		1 1						2			9 2
アフリカ	3	1	1	1	5 1			2		2 1			2 1			17 3
その他																0 0
小 計	36 12	21 2	11 1	125 7	66 10	64 4	26 11	49 5	119 2	136 24	2 0	1 0	52 14	21 1	15 0	744 93
合 計	48	23	12	132	76	68	37	54	121	160	2	1	66	22	15	837

【経費別】

(平成30年度実績)

経費の種類	法文学部	教育学部	医学部	鹿児島大学病院	農学部	水産学部	共同獣医学部	理工学研究科(理)	理工学研究科(工)	医歯学総合研究科	臨床心理学研究科	連合農学研究科	機 構	学共施設	事務局	合 計
自 機 関 の 運 営 資 金	15	6	7	15	29	35	12	5	26	20	1	1	33	2	15	222
科 学 研 究 費	13	10	1	32	14	11	4	29	42	37			20	2		215
政 府	文部科学省(科研費以外)				3		2		2				1			8
そ の 他 官 庁									6				1			7
外 部 資 金	日本学術振興会(科研費以外)		2													2
政 府 関 係 機 関	科学技術振興機構(JST)										1					1
そ の 他 政 府 関 係 機 関																0
外 国 政 府 ・ 研 究 機 関 及 び 国 際 機 関	9	2	1	2	4	4	2	10	2	16			2	10		64
奨 学 寄 附 金		1	1	69	11	4	1	1	20	56			1	4		169
受託研究費・受託事業費			2	8	1	6	5	3	6	15						46
共 同 研 究 費					1	6	2	1	16							26
そ の 他 外 部 資 金	3			3		2		2								10
そ の 他	8	2		3	13		9	3	1	16			8	4		67
合 計	48	23	12	132	76	68	37	54	121	160	2	1	66	22	15	837

■部局別国際共同研究実施件数

(平成30年度実績)

法文学部	教育学部	鹿児島大学病院	水産学部	農学部	共同獣医学部	理工学研究科(理学系)	理工学研究科(工学系)	医歯学総合研究科	機 構	学内共同教育施設	合 計
2	1	5	3	22	7	21	17	29	15	20	142

■出身国(地域)別(35か国・地域 353名 ※山口大学連合獣医学研究科を含む)

(令和元年5月1日現在)

地 域	国(地域)	法文学部	教育学部	理学部	医歯学	工学部	農学部	水産学部	共同獣医学部	連合農学研究科	グローバルセンター	合 計	連合獣医学研究科※
ア ジ ア 地 域	インドネシア				5 ①	3 ①	1		2	6 ④		17 ⑥	
	スリランカ									5 ②		5 ②	
	タ イ		1			1				2		4	
	韓 国	13 ①	5	3	3	10	10	2	1	1		48 ①	
	香 港	1										1	
	台 湾	4	2	1		2	1	2	1			13	
	中 国	60 ①	10 ①	9	6	22	15	7	1	13 ①		143 ③	
	ネ パ ール				4 ①							4 ①	
	バングラデシュ				2			1 ①	4 ②	8 ⑤		15 ⑧	2 ①
	フィリピン												1 ①
	ベ ト ナ ム		1		1	6	18 ⑬	5 ③		10 ②		41 ⑮	1
中 近 東 地 域	マレーシア					6				1		7	
	ミャンマー									1 ①		1 ①	
アフリカ地域	ラ オ ス						1					1	
	トルコ		2									2	
	エジプト			1								1	1
	ガーナ							1				1	
	タンザニア				2 ②		1 ①				2 ②	5 ⑤	
ヨーロッパ地域	ベ ナ ン						1 ①			2 ①		3 ②	
	マラウイ									1 ①	1 ①	2 ②	
	スペイン	1										1	
	ドイツ	1	1				1					3	
	フランス	4	1									5	
北 米 地 域	ブルガリア										1 ①	1 ①	
	ラ ト ビ ア		1 ①									1 ①	
中 南 米 地 域	アメリカ合衆国	3	1									4	
	ガイアナ						1 ①					1 ①	
	パ ハ マ							1 ①				1 ①	
	ブラジル	1 ①				1			2 ①			4 ②	
大 洋 州 地 域	ベ ル ー	1										1	
	オーストラリア	1	3			1						5	
	ソロモン諸島							2 ②		1		3 ②	
	バヌアツ									1 ①		1 ①	
	バブアニューギニア									1 ①		1 ①	
	フィジー						1 ①				1 ①	2 ②	
合 計		90 ③	28 ②	14	23 ④	52 ①	51 ⑰	21 ⑦	11 ③	53 ⑱	5 ⑤	348 ⑥	5 ②

(注)○印内は内数で国費留学生を示す。

※山口大学連合獣医学研究科は外数。

※この外国人留学生数は「出入国管理及び難民認定法」別表第1に定める「留学」の在留資格を持つ外国人学生数を示す。

■在籍別

(令和元年5月1日現在)

在 籍 身 分	法文学部	教育学部	理学部	医歯学	工学部	農学部	水産学部	共同獣医学部	連合農学研究科	グローバルセンター	合 計	連合獣医学研究科※
大学院 博士〔博士後期〕	4			6 ②							6 ②	
〃 〃	3	7 ①	1	7	3				24 ⑨		41 ⑩	2 ②
〃 〃	2	2		3 ①				2 ①	13 ④		20 ⑥	3
〃 〃	1	1		1	3			4 ①	15 ⑥		24 ⑦	
〃 修士〔博士前期〕	2	12	1		3	5 ①	7 ②				28 ③	
〃 〃	1	7	2	1	3	10 ③	1 ①				24 ④	
学 部	6										0	
〃	5							1			1	
〃	4	1		1	6 ①	6 ④					14 ⑤	
〃	3	5	3		7	5 ②	2 ②				22 ④	
〃	2	6	1	1	15	8 ④	2	1 ①			34 ⑤	
〃	1	4	2	5	8	5 ③	5 ①				29 ④	
研 究 生	6	3 ①		1 ①	2	4	2 ①	1			19 ③	
特 別 研 究 学 生	2				1	1			1		5	
特 別 聴 講 学 生	37 ②	18 ①	4	3	2	7	2	2			75 ③	
科 目 等 履 修 生		1									1	
日 本 語 研 修 コ ー ス 生										5 ⑤	5 ⑤	
合 計	90 ③	28 ②	14	23 ④	53 ①	51 ⑰	21 ⑦	11 ③	53 ⑱	5 ⑤	348 ⑥	5 ②

(注)○印内は内数で国費留学生を示す。

大学院連合農学研究科 53 名の内訳：鹿大 33 ⑩ 佐大 10 ④ 琉大 10 ⑤ (○内は国費留学生を示す。)

※ 山口大学連合獣医学研究科は外数。

■経費種別

(令和元年5月1日現在)

種 別	大学院生	学部学生	研究生	科目等履修性	特別研究学生	特別聴講学生	日本語研修コース生	合 計
国 費 留 学 生	32 (9)	18 (11)	3 (3)			3 (1)	5 (1)	61 (25)
外国政府派遣留学生	10 (6)	4						14 (6)
鹿児島県費留学生			3 (2)					3 (2)
J I C A 留 学 生			1					1 (0)
私 費 留 学 生	101 (56)	78 (26)	12 (6)	1 (1)	5 (2)	72 (48)		269 (139)
計	143 (71)	100 (37)	19 (11)	1 (1)	5 (2)	75 (49)	5 (1)	348 (172)
連 合 獣 医 学 研 究 科								
国 費 留 学 生	2							2 (0)
私 費 留 学 生	2 (1)							2 (1)
政府派遣留学生	1							1 (0)
計	5 (1)							5 (1)

(注) ()は女子を内数で示す。

■学部別

(令和元年5月1日現在)

学 部	国 費		外国政府派遣		私 費		合 計
	学部学生	研究生等	学部学生	研究生等	学部学生	研究生等	
法 文 学 部		2 (1)		1 (1)	16 (6)	32 (22)	51 (30)
教 育 学 部		1			3 (2)	18 (13)	22 (15)
理 学 部					9 (3)	4	13 (3)
医 学 部						1	1 (0)
歯 学 部					1		1 (0)
工 学 部	1		4	1	31 (7)	3	40 (7)
農 学 部	13 (8)				11 (4)	9 (6)	33 (18)
水 産 学 部	3 (2)				6 (3)	2	11 (5)
共同獣医学部	1 (1)			1 (1)	1 (1)	2 (2)	5 (5)
合 計	18 (11)	3 (1)	4 (0)	3 (2)	78 (26)	71 (43)	177 (83)

(注) ()は女子を内数で示す。

■大学院別

(令和元年5月1日現在)

研 究 科	国 費			外国政府派遣		JICA	私 費			合 計
	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	
人文社会科学研究科		1					19 (16)	9 (5)	10 (9)	39 (30)
教育学研究科			1 (1)				3 (3)		2 (2)	6 (6)
医歯学総合研究科		3 (1)	1 (1)				1 (1)	14 (6)	2 (1)	21 (10)
理工学研究科					2 (1)		6	5 (2)	1	14 (3)
農学研究科	1						4 (3)			5 (3)
水産学研究科	2 (1)		1 (1)				5 (2)			8 (4)
農林水産学研究科	4 (1)					1	7 (3)		3 (2)	15 (6)
共同獣医学研究科		2						4 (2)		6 (2)
連合農学研究科		19 (6)			8 (5)			25 (13)	1	53 (24)
合 計	7 (2)	25 (7)	3 (3)	0 (0)	10 (6)	1 (0)	45 (28)	57 (28)	19 (14)	166 (88)
連合獣医学研究科		2			1			2 (1)		5 (1)

(注) ()は女子を内数で示す。

※ 山口大学連合獣医学研究科は外数。

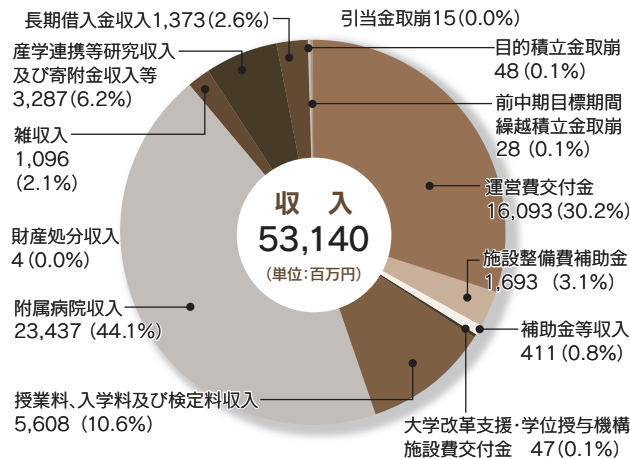
■機構・学内共同教育研究施設別

(令和元年5月1日現在)

総 合 教 育 機 構	国費	合 計
	研究生等	
グローバルセンター	5 (1)	5 (1)
合 計	5 (1)	5 (1)

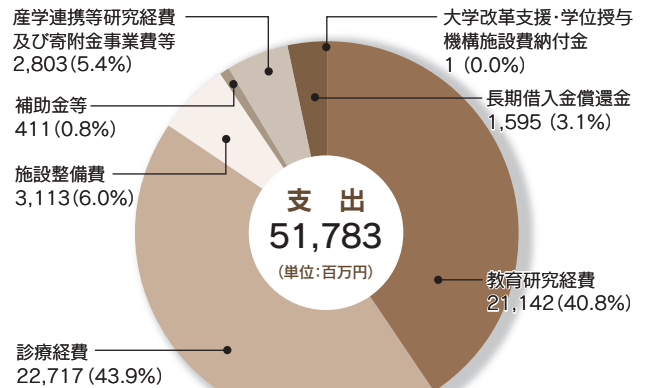
(注) ()は女子を内数で示す。

■平成30年度収入・支出決算額



(単位:百万円)	
収入	金額
運営費交付金	16,093
施設整備費補助金	1,693
補助金等収入	411
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	47
授業料、入学科及び検定料収入	5,608
附属病院収入	23,437
財産処分収入	4
雑収入	1,096
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	3,287
引当金取崩	15
長期借入金収入	1,373
前中期目標期間繰越積立金取崩	28
目的積立金取崩	48
合計	53,140

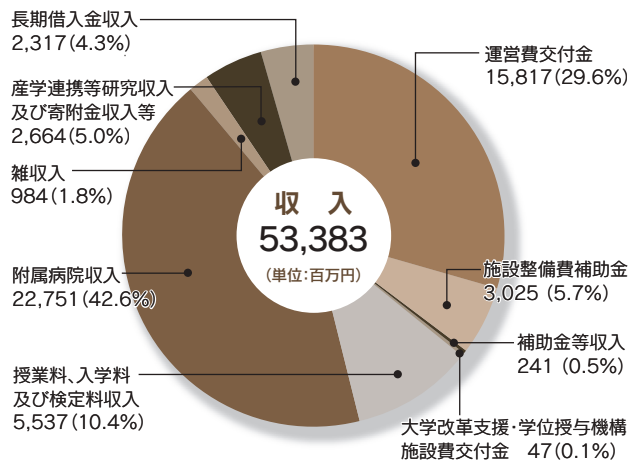
(注)端数処理上、合計額が一致しない場合あり。



(単位:百万円)	
支出	金額
教育研究経費	21,142
診療経費	22,717
施設整備費	3,113
補助金等	411
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	2,803
長期借入金償還金	1,595
大学改革支援・学位授与機構施設費納付金	1
合計	51,783

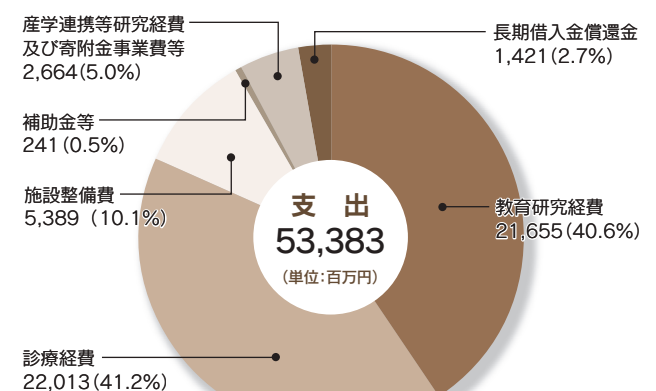
(注)端数処理上、合計額が一致しない場合あり。

■平成31年度予算



(単位:百万円)	
収入	金額
運営費交付金	15,817
施設整備費補助金	3,025
補助金等収入	241
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	47
授業料、入学科及び検定料収入	5,537
附属病院収入	22,751
雑収入	984
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	2,664
長期借入金収入	2,317
合計	53,383

(注)端数処理上、合計額が一致しない場合あり。



(単位:百万円)	
支出	金額
教育研究経費	21,655
診療経費	22,013
施設整備費	5,389
補助金等	241
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	2,664
長期借入金償還金	1,421
合計	53,383

(注)端数処理上、合計額が一致しない場合あり。

■科学研究費助成事業

(令和元年5月20日現在)

【種目別採択状況】

(単位:千円)

研究種目	令和元年度		研究種目	令和元年度	
	件数	金額		件数	金額
基盤研究(S)	0	0	若手研究	93	108,600
基盤研究(A)	3	23,300	若手研究(A)	1	1,000
基盤研究(B)	51	194,200	若手研究(B)	22	16,000
基盤研究(C)	338	356,980	研究活動スタート支援	2	2,000
新学術領域研究	5	38,400	奨励研究	10	5,160
挑戦的研究(開拓)	1	2,500	特別研究員奨励費	13	10,754
挑戦的研究(萌芽)	8	11,700	研究成果公開促進費 (学術図書)	1	1,500
国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化(A))	1	0	研究成果公開発表B ひらめき☆ときめきサイエンス	5	2,360
			合 計	554	774,454

(注)金額は直接経費

【学部等別採択状況】

(単位:千円)

学部等	令和元年度		学部等	令和元年度	
	件数	金額		件数	金額
法文学部	30	28,900	共同獣医学部	16	30,700
教育学部	40	41,810	水産学部	17	21,680
大学院理工学研究科(理学系)	42	63,190	大学院医歯学総合研究科	170	255,690
医学部	18	19,300	大学院臨床心理学研究科	1	600
鹿児島大学病院	113	139,870	大学院連合農学研究科	9	7,554
大学院理工学研究科(工学系)	54	88,880	学内共同教育研究施設等	20	40,880
農学部	20	27,800	ヒトレトロウイルス学共同研究センター	4	7,600
			合 計	554	774,454

(注)金額は直接経費

■厚生労働科学研究費

(令和元年5月20日現在)

(単位:千円)

研究事業名	平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
地域医療基盤開発推進研究事業	1	6,160 (1,840)	1	6,160 (1,840)	1	6,160 (1,840)
長寿科学施策研究事業					1	4,077 (1,223)
合 計	1	6,160 (1,840)	1	6,160 (1,840)	2	10,237 (3,063)

(注)下段()書きは、間接経費で外数

■寄附金

(単位:千円)

学 部 等	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
法文学部・人文社会科学研究科	24	13,219	24	14,805	20	11,791
教育学部(附属学校含む)	50	28,302	154	26,234	37	17,555
理 学 部	-	-	-	-	-	-
医学部・保健学研究科	31	9,726	52	14,238	28	7,303
歯 学 部	6	1,759	12	410	42	3,218
工 学 部	3	404	2	320	2	320
農 学 部	66	53,338	65	44,656	66	37,560
水 産 学 部	41	43,619	39	19,952	31	21,210
共同獣医学部	37	23,577	77	45,129	47	34,682
鹿児島大学病院	189	76,672	123	52,661	140	68,653
理工学研究科	232	134,018	222	144,577	300	152,207
医歯学総合研究科	1,239	1,080,347	1,169	1,055,231	1,163	1,021,086
臨床心理学研究科	2	1,530	5	1,728	8	1,008
連合農学研究科	3	4,124	4	845	1	350
機構・学内共同教育研究施設	2,498	32,740	2,582	81,920	2,421	84,081
事務局	140	81,003	293	7,690,472	586	185,088
合 計	4,561	1,584,383	4,823	9,193,183	4,892	1,646,118

(注) 1. 件数、金額には、平成28年度・・・2,810件、218,854千円 平成29年度・・・2,902件、7,857,151千円 平成30年度・・・2,709件、311,434千円の現物寄附を含む。
(現物寄附の件数に図書の入冊数を含む。)

2. 千円未満切捨てにより作成。

■受託研究

(単位:千円)

学 部 等	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
法 文 学 部	3	6,637	5	4,180	5	2,242
教 育 学 部	-	-	-	-	2	4,240
医学部・保健学研究科	3	4,849	4	10,219	7	21,332
農 学 部	40	356,421	38	243,228	29	204,024
水 産 学 部	15	98,830	16	30,167	13	37,206
共同獣医学部	279	57,538	288	272,885	306	245,530
(うち、動物病理組織検査)	264	3,163	266	3,068	282	3,399
鹿児島大学病院	135	211,324	162	197,232	187	157,205
(うち、医薬品等の臨床研究)	79	148,041	79	130,190	87	117,074
理工学研究科	415	528,947	219	343,040	100	360,690
(うち、受託試験)	362	714	196	423	52	120
医歯学総合研究科	247	517,021	213	409,683	210	412,435
(うち、病理組織検査)	141	54,936	130	56,489	129	60,850
臨床心理学研究科	-	-	-	-	-	-
連合農学研究科	2	489	2	489	1	239
学内共同教育研究施設等	10	25,486	12	31,585	17	39,463
事務局	-	-	-	-	-	-
合 計	1,149	1,807,542	959	1,542,708	877	1,484,606
(うち受託試験・病理組織検査・臨床研究等)	846	206,854	671	190,170	550	181,443

(注) 1. 上記額は、契約金額ベースで集計。

2. 千円未満四捨五入により作成。

3. 理工学研究科における件数、金額には工学部と理学部を含む。

■共同研究

(単位:千円)

学 部 等	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
法 文 学 部	-	-	1	1,100	2	2,180
教 育 学 部	-	-	1	495	3	1,331
医学部・保健学研究科	-	-	-	-	-	-
農 学 部	36	22,084	40	17,320	63	45,627
水 産 学 部	32	27,467	19	17,437	26	22,104
共同獣医学部	12	41,974	14	43,052	18	46,484
鹿児島大学病院	13	20,573	17	114,100	15	5,460
理工学研究科	96	117,655	84	59,449	95	93,104
医歯学総合研究科	36	33,373	38	53,331	52	56,823
臨床心理学研究科	2	2,610	1	0	-	-
連合農学研究科	-	-	-	-	-	-
学内共同教育研究施設等	10	9,044	10	14,719	27	74,349
事務局	-	-	-	-	-	-
合 計	237	274,780	225	321,003	301	347,462

(注) 1. 上記額は、契約金額ベースで集計。

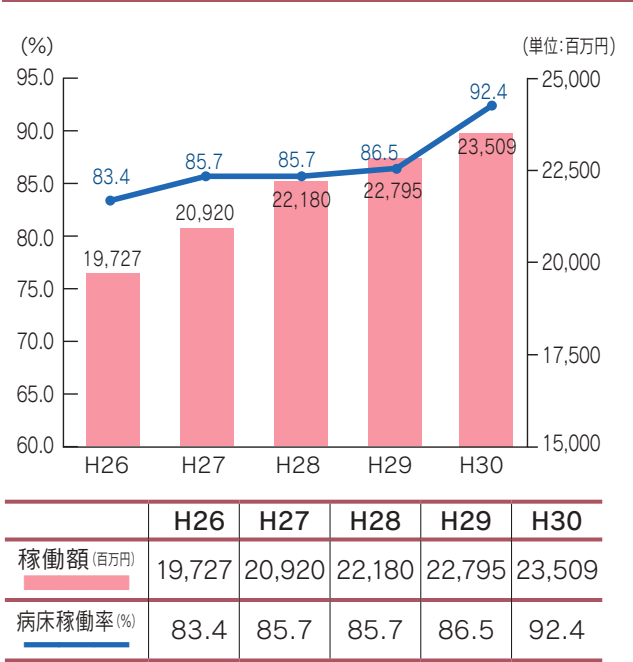
2. 共同研究契約については、金額の受入がない契約もあり。(必要な経費は各機関で措置する。)

3. 千円未満四捨五入により作成。

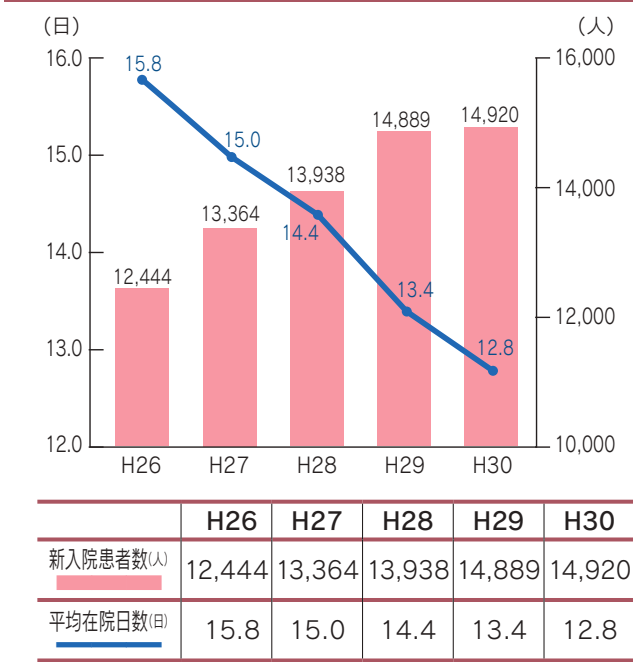
4. 理工学研究科における件数、金額には工学部と理学部を含む。

鹿児島大学病院実績等

診療報酬稼働額と病床稼働率の推移



平均在院日数（一般病床）と新入院患者数の推移



病床数					
					床
一	般	病	床		662 ※1
精	神	病	床		40
感	染	症	病	床	1
結	核	病	床		13 ※2
鹿児島大学病院合計					716

(注) ※1 一般病床のうち 50 床は、病院再開発工事に伴い、一時的に減少中 (A 棟完成時まで)
※2 休床中

附属動物病院実績等

診療件数および稼働額			
動物種	診療科等	件数 (件)	稼働額 (千円)
伴侶動物	伴侶系	4,849	146,498
	検査系	936	22,992
産業動物	馬診療科	268	7,617
	牛・山羊診療科	775	38,194
夜間診療		725	15,349
火葬		539	7,052
合計		8,092	237,702



附属図書館実績等

【平成30年度利用状況】

区 分	開館日数	総 入 館 者 数				
		平 日			土・日 及び祝日	合 計
		17:15まで	17:15以降	計		
中央図書館	304	225,463	81,855	307,318	48,018	355,336
桜ヶ丘分館	345	56,090	22,772	78,862	10,475	89,337
水産学部分館	276	28,021	4,729	32,750	2,263	35,013
合 計		309,574	109,356	418,930	60,756	479,686

【蔵 書】

図書(冊)

(平成31年4月1日現在)

	区 分	総 記	哲 学	歴 史	社会科学	自然科学	技 術	産 業	芸 術	言 語	文 学	合 計
和漢書	中央図書館	66,844	41,909	78,763	202,043	102,112	67,612	52,310	30,643	28,125	70,766	741,127
	桜ヶ丘分館	836	1,883	722	5,100	92,354	961	332	738	1,562	1,522	106,010
	水産学部分館	1,731	421	1,275	6,044	12,793	6,224	13,191	904	1,138	774	44,495
	小 計	69,411	44,213	80,760	213,187	207,259	74,797	65,833	32,285	30,825	73,062	891,632
洋書	中央図書館	14,135	18,237	17,062	52,769	80,091	19,049	19,892	5,172	13,786	32,565	272,758
	桜ヶ丘分館	538	228	75	606	68,636	56	35	55	284	422	70,935
	水産学部分館	420	107	255	607	5,404	2,240	4,141	246	256	75	13,751
	小 計	15,093	18,572	17,392	53,982	154,131	21,345	24,068	5,473	14,326	33,062	357,444
	合 計	84,504	62,785	98,152	267,169	361,390	96,142	89,901	37,758	45,151	106,124	1,249,076

雑誌(総種類数)

区 分	和雑誌	洋雑誌	合 計
中央図書館	22,432	9,681	32,113
桜ヶ丘分館	3,976	2,777	6,753
水産学部分館	2,559	1,138	3,697
合 計	28,967	13,596	42,563



▲玉里文庫所蔵資料

【貴重書・古書籍等コレクション】

文庫名	内 容 等					
玉里文庫	島津久光及び玉里島津家の旧蔵書 久光の直筆本、島津家編輯本、和漢書の写本類、薩摩藩関係史誌、幕末洋学関係翻訳書の写本等 18,730冊					
岩元文庫	旧制第一高等学校教授であった岩元禎氏の旧蔵書 漢籍と文学・哲学関係の洋書 漢籍4,515冊、洋書826冊					
松本文庫	旧制第八高等学校漢文学教授であった松本亦一氏の旧蔵書 漢籍と和書、医書を多く含む 2,186冊					
小北文庫	旧制鹿児島高等農林学校長小出満二氏が渡豪中に実業家北村寅之助氏の助力を得て収集し、後に同校図書館に寄贈したオーストラリア、太平洋諸島関係洋書 686冊					
小野文庫	元法政大学教授小野武夫博士の旧蔵書 農業経済、農業史、地方史を中心とするコレクション 4,127冊					
市来文庫	伊佐市の郷土史家であった市来政香氏旧蔵書 政香氏収集の文書記録類 同様に市来政香氏旧蔵書で当館所蔵の中世・近世の市来家文書に連なる史料9冊					
鹿児島県地券台帳	明治15年鹿児島県における地券発行原簿のコレクション 出水、川辺、揖宿、肝属、大隅、熊毛、馱謨、臼杵の各郡が比較的多くまとまっている。附属資料として共有地台帳、地価修正一筆限帳等が含まれる 2,944冊					
諸家文書	市来家文書	105点	川田家文書	116点	木脇家文書	18点
	山田家文書	30点	寺尾家文書	387点	伊集院家文書	17点
	有馬家文書	61点	志々目家文書	37点	長野家文書	141点
	斑目家文書	17点	伊勢家文書	695点	新納家文書	144点
	肝付家文書	65冊	八田家文書	2巻(13点)		

■土地・建物・船舶

(令和元年5月1日現在)

区 分		土 地 (㎡)	建 物 (延面積㎡)			備 考 (単位: ㎡)
			木 造	非木造	計	
郡 元 地 区	事 務 局	233,630 (22)	0	11,605	11,605	
	保 健 管 理 セ ン タ ー		0	902	902	
	附 属 図 書 館		0	12,703	12,703	
	法 文 学 部		0	6,930	6,930	
	理 学 部		0	13,841	13,841	
	工 学 部		0	38,540	38,540	
	農 学 部		169	24,958	25,127	
	共 同 獣 医 学 部		0	14,058	14,058	
	共 通 教 育		0	17,440	17,440	
	そ の 他		0	14,310	14,310	
	教 育 学 部	118,265	690	42,378	43,068	
	小 計	351,895 (22)	859	197,301	198,160	
桜ヶ丘地区	医 学 部	218,183 (2)	0	21,992	21,992	看護師宿舎 (土地 4,431 建物 4,127)
	歯 学 部		0	3,115	3,115	
	医 歯 学 総 合 研 究 科		0	35,230	35,230	
	鹿 児 島 大 学 病 院		0	106,133	106,133	
	附 属 図 書 館		0	1,978	1,978	
	研 究 支 援 セ ン タ ー		0	4,381	4,381	
	亀ヶ原総合グランド		0	52	52	
	桜ヶ丘寄宿舎		0	3,122	3,122	
下荒田地区	小 計	218,183 (2)	0	175,651	175,651	宿舎 (土地 3,383 建物 2,028)
	水 産 学 部 地 区	49,154	93	12,106	12,199	
	国際交流会館 (1号館)		0	1,430	1,430	
	国際交流会館 (2号館)		0	1,259	1,259	
	国際交流会館 (3号館)		0	1,507	1,507	
	外国人研究者宿泊施設		0	686	686	
そ の 他	小 計	49,154 (0)	93	16,988	17,081	宿舎 (土地 2,714 建物 820)
	唐 湊 寄 宿 舎	24,391	0	5,694	5,694	
	唐 湊 果 樹 園	72,682	0	1,207	1,207	
	唐 湊 林 園	9,958	19	0	19	
	寺山自然教育研究施設	300,855	0	885	885	
	教育学部附属特別支援学校	16,776	460	3,078	3,538	
	桜 島 火 山 観 測 点	298	0	31	31	
	(旧)霧島リハビリテーションセンター	15,426 (123)	6	4,415	4,421	
	高 隈 演 習 林	30,598,231	0	1,530	1,530	
	佐 多 演 習 林	2,973,686	0	0	0	
	入 来 牧 場	1,478,451 (25)	178	3,856	4,034	
	桜 島 熔 岩 実 験 場	372,714	0	0	0	
	指 宿 植 物 試 験 場	30,725	279	2,031	2,310	
	東 町 ス テ ー シ ョ ン	16,902	0	1,183	1,183	
	錦 江 湾 ス テ ー シ ョ ン	4,990 (94)	0	2,150	2,150	
	外 国 人 宿 泊 施 設	344	0	294	294	
	磯 艇 庫	408 (202)	0	243	243	
	海音寺潮五郎記念東京学生宿泊施設	456 (0)	0	389	389	
	谷 山 ふ 頭	0 (776)	0	0	0	
	甌 島 観 測 点	0 (49)	0	24	24	
	伊 集 院 観 測 点	0 (7)	0	0	0	
	屋 久 島 観 測 点	0 (114)	0	40	40	
	串 間 観 測 点	0 (58)	0	58	58	
	紫 尾 観 測 点	0 (58)	0	58	58	
	黒 島 観 測 点	0 (58)	0	58	58	
	佐 多 観 測 点	0 (58)	0	11	11	
	高 岡 観 測 点	0 (58)	0	40	40	
	吉 松 観 測 点	0 (47)	0	0	0	
	田 代 観 測 点	0 (6)	0	0	0	
	そ の 他	0 (603)	0	615	615	
	小 計	35,927,599 (2,158)	942	27,890	28,832	
合 計		36,546,830 (2,182)	1,894	417,830	419,724	宿舎 (土地 35,762 建物 22,313)

(注) 1. 土地欄 () 内数量は借用地。
2. 各地区土地及び建物数量には備考欄宿舎の数量は含まない。

船 名	トン数(トン)	機 関	馬 力	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	建造年月日
か ご し ま 丸	935.00	電 気 推 進	1,800	57.42	12.10	7.00	平成24年 3 月30日
南 星 丸	175.00	デ ィ ー ゼ ル	500	34.20	7.50	3.30	平成14年11月28日

創立 70 周年

2019 年、鹿児島大学は、創立70周年(現行制度)を迎えました。

鹿児島大学学章



創立 50 周年を記念して制定された。
KAGOSHIMA の頭文字「K」をデザインしたもの
である。今、まさに飛び立とうとしている姿を「鳳」
の形にデザインし、歴史と伝統に輝く鹿児島大学の
キャンパスを巣立つ卒業生が世界の舞台を翔ようと
している姿をシンボル化したものである。



鹿児島大学公式マスコットキャラクター

さっつん

(編集・発行)

鹿児島大学 広報センター

〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21番24号

代表電話 099(285)7111 FAX 099(285)3854

URL <https://www.kagoshima-u.ac.jp/>

(発行月)

令和元年 6 月